

平成 22 年 度

フィールドワーク調査報告書

第 8 号

淑徳大学総合福祉学部
人間社会学科

はしがき

本報告書は、総合福祉学部人間社会学科の「フィールドワークⅠ」および「フィールドワークⅡ」を履修した学生の、1年間にわたる調査研究の成果である。

本学人間社会学科のカリキュラムの1つの大きな特徴は、社会学の研究方法としての社会調査について、学生が体系的に学習することを可能としている点にある。1・2年次に必修科目として統計学および質的・量的調査の方法について計6科目を学び、3年次には「フィールドワークⅠ・Ⅱ」のほか「応用統計解析」を選択科目として履修することができる。

前・後期あわせて通年でとりくむ「フィールドワークⅠ・Ⅱ」は選択科目であるが、社会調査法と統計解析について1・2年次で身につけてきた学習内容の集大成として、個別の研究テーマの設定から、テーマに関する仮説の検討、調査の方法的枠組みと分析方法の検討、調査対象の選定と調査票の作成、実査、データの集計、結果の解析、そして報告書による成果の公表にいたる一連の過程に、学生が主体となって取り組むものである。平成22年度の担当教員は、榊潟俊子・山本功の2名、社会調査助手・本多敏明、教育助手補・佐藤麻衣であり、履修学生は11名であった。11名全員はすでに（社）社会調査協会の「社会調査士資格（見込み）」の認定を得ており、この「フィールドワークⅠ」「フィールドワークⅡ」の単位取得をもって、資格取得に必要な科目を履修済みとなる。

今年度は、千葉市6区を対象地域として「千葉市民の安全・安心」をテーマに調査研究を実施した。近年、「安全・安心」が「犯罪」のみならず、エネルギー、食品、医療といった多様な領域における政策目標として位置づけられている。そのなかでとくに「安全・安心なまちづくり」に向けて警察および各自治体・地域ごとにさまざまな取り組みがなされている。こうした問題・取り組みのありようを、千葉市の20歳から69歳の男女を対象に生活様式との関連で総合的に考察することが本調査の目的である。

統計的調査は調査票を用いた郵送調査を実施した。調査票の作成にあたっては、20歳から69歳の方々に事前予備調査にご協力いただいた。学生たちは、自分とは違う世代・生活様式の方々の話から大変な刺激を受け、その後も熱心に調査票の作成、データの集計・分析に取り組んだ。調査研究は調査対象者のご協力によってはじめて成し遂げられる。郵送調査にご協力いただいた千葉市民、事前予備調査にご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。また、サンプリングにあたっては、各区役所の市民課にお世話になった。記して厚くお礼申し上げます。

これからの時代に求められる大学のあり方として、研究事業や教育の他に地域貢献が求められるとするならば、大学が立地する地域の社会問題を授業の一環として調査研究することも大学としての重要な地域貢献のあり方だと考える。1年間という短い期間ながら学生たちが懸命に取り組んだ本調査の成果が、地域をよく知ることの一助になれば幸いである。

平成23年3月

淑徳大学教授 榊潟 俊子
淑徳大学准教授 山本 功

目 次

はしがき	梶潟 俊子・山本 功	i
目次		iii
1 章 問題意識と研究テーマ	本多 敏明	1
2 章 統計的調査の概要	本多 敏明	2
1. 調査の目的と調査票の概要		
2. 調査の名称と調査の主体		
3. 調査対象		
4. 統計的調査の方法		
3 章 千葉市の犯罪と千葉市地域防犯計画		5
1. 千葉市の犯罪認知状況	佐藤 麻衣	5
2. 千葉市の防犯に向けた取り組み	佐藤 麻衣	7
3. 千葉市の防犯対策と条例の認知・評価	相曾 紗良亜	11
4 章 犯罪不安の構造		19
1. 犯罪不安の内部構造	松本 節子	19
2. 基本属性と犯罪不安	加納 寛之	23
3. 子どもの状況・子どもに関わる不安と犯罪不安	稲阪 薫	28
5 章 犯罪不安をもたらす要因		33
1. 地域のつながりと犯罪不安	江口 芙美	33
2. 社会的環境と犯罪不安	簾 由佳	38
3. 地域の物理的環境と犯罪不安	佐野 綾香	45
4. 犯罪に対する被害経験、被害見聞と犯罪不安	齋藤 優季	51
6 章 犯罪不安をもたらす影響		56
1. 犯罪不安と個人的防犯・危険対策	塚田 愛美	56
2. 犯罪不安と自宅の防犯対策の促進	西之宮彩加	63
3. 一般的犯罪不安と社会への否定的評価	豊島 佳枝	69
あとがき	本多 敏明・佐藤麻衣	75
附録		
単純集計表		77
調査票		99

1 章 問題意識と研究テーマ

本多敏明

1. はじめに

近年、警察のみならず、行政、自治会、各種市民団体、防犯ボランティアなどによる地域の安全・安心への取り組みが進められている。市民の安全・安心は日本社会全体の問題であると同時に、人びとの日常生活圏の問題であることに特徴があるといつてよい。人びとが安全・安心に関してどのような意識をもち、地域や家庭でどのように取り組んでいるのかについて、先行研究の知見をもとに主に 8 つの観点から総合的な考察をおこなう。

2. 仮説の関連

先行研究の知見から「犯罪不安」を規定する要因および「犯罪不安」に規定される要因に関する知見を得た。その結果、各自の問題意識・仮説は図 1 のようにまとめられる。

全 11 名が中央の「犯罪不安」をめぐる分析を進めた。大きく分けて①「被害見聞」、②「地域環境」、③「地域のつながり」、④「基本属性」、⑤「千葉市防犯対策」、⑥「個人レベルの防犯」、⑦「自宅の防犯」、⑧「社会全体への評価」の 8 群に分かれている（図 1）。

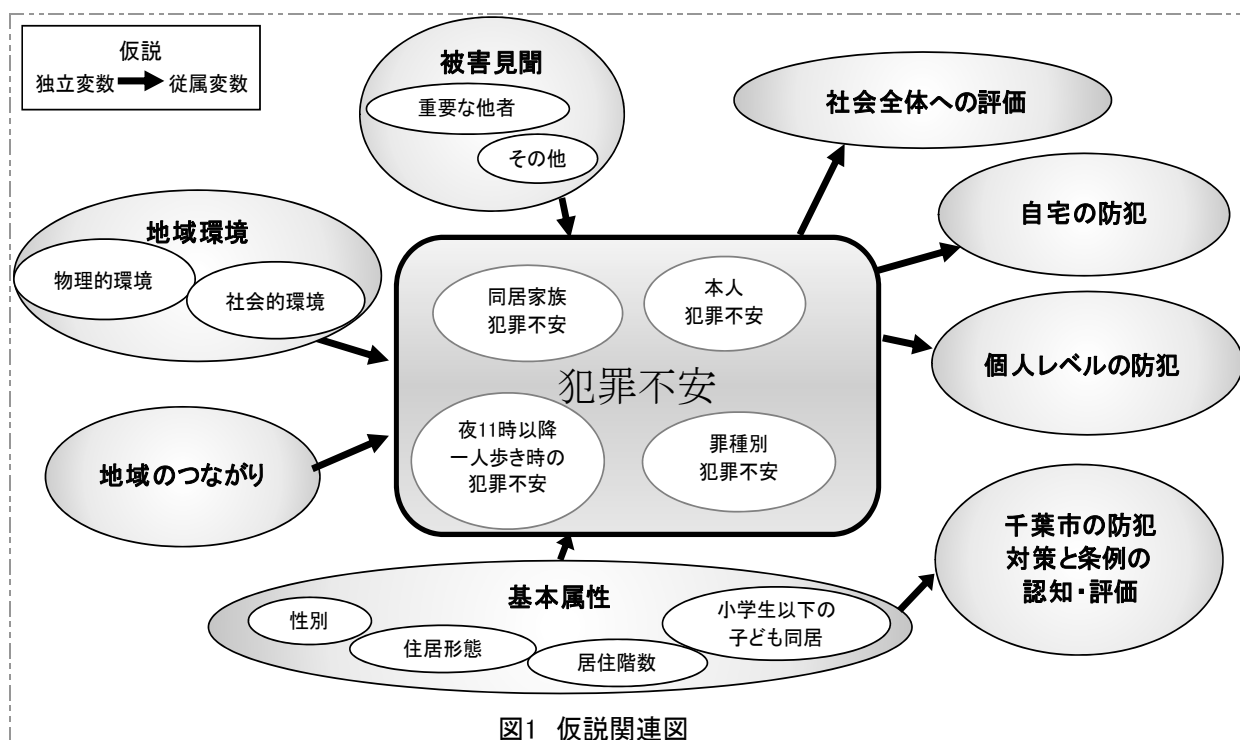


図1 仮説関連図

まず 5 名は「犯罪不安」を従属変数に位置づけ、①「被害見聞」、②「地域環境」、③「地域のつながり」、④「基本属性」といった独立変数を駆使して、どのような経験・環境・属性が人びとの「犯罪不安」に影響を与えているのかを考察した。

続いて、5 名は「犯罪不安」を独立変数として位置づけ、⑤「個人レベルの防犯」、⑥「自宅の防犯」、⑦「千葉市の防犯対策と条例の認知・評価」、⑧「社会全体への評価」を従属変数として、どのような「犯罪不安」を抱えている人がどのような行動・意見を持っているのかを考察した。

さらに、1 名は「犯罪不安」の内部構造を分析した。

以上の視点からそれぞれの分析・仮説検証を進めていきたい。

2 章 統計的調査の概要

本多敏明

1. 調査の目的と調査票の概要

1. 1 調査の目的

この調査は、千葉市民の安全・安心に関して、1 章で述べた問題意識を明らかにするために行った。

1. 2 調査票の概要

調査を行うにあたって以下の質問項目を設定し調査票を作成した(巻末「調査票」参照)。

自分自身の犯罪不安に関する項目 (A1)

同居家族の犯罪不安に関する項目 (A2)

夜 11 時過ぎに出歩く際の犯罪不安に関する項目 (A3)

罪種別犯罪不安に関する項目 (A4)

過去 3 年の友人・知人の犯罪被害に関する項目 (A5)

過去 3 年の自分自身あるいは同居家族の犯罪被害に関する項目 (A6)

過去 3 年の居住地域(徒歩 15 分圏内)での犯罪発生に関する項目 (A7)

居住地域(徒歩 15 分圏内)の物理的地域環境に関する項目 (B)

自宅周辺(徒歩 10 分圏内)の物理的地域環境に関する項目 (C1)

自宅周辺(徒歩 10 分圏内)の社会的地域環境に関する項目 (C2)

青色回転灯装着自動車(通称:青パト)を見かける機会に関する項目 (D1)

地域の防犯パトロール参加頻度に関する項目 (D2)

犯罪防止のため公共の場所に防犯カメラを設置する必要性に関する項目 (D3)

「子ども 110 番」を実施している場所の有無に関する項目 (D4)

知っている千葉市条例に関する項目 (D5)

千葉市条例が安全・安心な社会の実現に役立つ度合いに関する項目 (D6)

自治会・町内会への加入に関する項目 (E1)

地域の住民団体への加入に関する項目 (E2)

近隣のお葬式への参列頻度に関する項目 (E3)

回覧板の有無に関する項目 (E4)

地域で挨拶をする人の有無に関する項目 (E5)

困っている時に助けてくれる地域の人の有無に関する項目 (E6)

近隣の人びとの交流度合いに関する項目 (E7)

住民や自治会の問題解決能力に関する項目 (E8)

近所の困っている人に対する積極的な声かけに関する項目 (E9)

近隣の小学生以下の子どもの見知り度合いに関する項目 (E10)

近隣の未成年の喫煙に対する注意行動に関する項目 (E11)

近隣での虐待が疑わしい場合の通報行動に関する項目 (E12)

防犯ベル(ブザー)の携帯に関する項目 (F1)

携帯電話に含まれる個人情報の鍵(ロック)状況に関する項目 (F2)

犯罪被害に遭いやすい行動に関する項目 (F3)

自宅の防犯対策に関する項目 (G)

居住地域の 1 年前の治安との比較に関する項目 (H1)

日本の 1 年前の治安との比較に関する項目 (H2)

居住地域で若者に対して不快感情を持った経験に関する項目 (H3)

機関や人に対する信頼度に関する項目 (H4)

社会全体に対する評価に関する項目 (H5)

厳罰化の必要性に関する項目 (H6)
 性別に関する項目 (J1)
 年齢に関する項目 (J2)
 婚姻状況に関する項目 (J3)
 同居家族に関する項目 (J4)
 同居人数に関する項目 (J5)
 住居形態に関する項目 (J6)
 集合住宅居住者の住居の建階数と居住階に関する項目 (J6-1)
 就業状態に関する項目 (J7)
 帰宅時間に関する項目 (J8)
 自宅が無人になる頻度に関する項目 (J9)
 自宅に女性しかいなくなる頻度に関する項目 (J10)
 自宅に高齢者しかいなくなる頻度に関する項目 (J11)
 居住年数に関する項目 (J12)
 電車に乗る頻度に関する項目 (J13)
 最近の健康状態に関する項目 (J14)
 自動車・自転車の所有および高齢者・小学生の同居に関する項目 (J15)
 小学生以下の子どもが見知らぬ人に声をかけられる不安に関する項目 (J16-1)
 小学生以下の子どもが見知らぬ人に連れ去られる不安に関する項目 (J16-2)
 自宅に小学以下の子どもしかいなくなる頻度に関する項目 (J17)
 小学生以下の子どもが外出する際に行き先や帰宅時間を尋ねるかに関する項目 (J18)
 小学生以下の子どもが見知らぬ人に声をかけられた経験に関する項目 (J19)
 居住区に関する項目 (J20)
 世帯の年収に関する項目 (J21)

なお、罪種別犯罪不安をたずねる項目 (A4) の罪種を設定するにあたって、事前に受講生が聞き取り調査を行った。20 代男女、30 代男女、40 代男女、50 代男女、60 代男女と類型をつくり、受講生に担当を割り振った。それぞれの属性に該当する人から「ふだん、どのような犯罪について不安に思いますか」と計 32 人に聞き、その結果を検討して項目を選定した。なお、項目の並び順は乱数を用いてランダム化した。

2. 調査の名称と調査の主体

2. 1 調査の名称

「千葉市民の安全・安心に関するアンケート」

2. 2 調査の主体

淑徳大学総合福祉学部人間社会学科

2010 年度「フィールドワークⅠ」「フィールドワークⅡ」受講生

相 曾 紗良亜	稲 阪 薫	江 口 芙 美	加 納 寛 之	齋 藤 優 季
佐 野 綾 香	塚 田 愛 美	豊 島 佳 枝	西 之 宮 彩 加	松 本 節 子
簾 由 佳				

調査責任者

淑徳大学教授	梶 淵 俊 子
淑徳大学准教授	山 本 功

社会調査助手	本 多 敏 明
教育助手補	佐 藤 麻 衣

3. 調査対象

3. 1 母集団

千葉市6区（中央区、花見川区、稲毛区、若葉区、美浜区、緑区）在住の20代～60代の男女。千葉市を選定したのは、千葉市がさまざまな住民が混住する都市近郊の特色を表わしていると考えられるためである。その中で20代～60代の男女を選定したのは、安全・安心が年齢や性別に関係なく全ての世代に関わってくる問題であるためである。

平成22年3月1日現在において、千葉市6区（中央区、花見川区、稲毛区、若葉区、美浜区、緑区）の住民基本台帳に記載されている20代～60代の男女は657,110人であった。

3. 2 対象者

千葉市中央区、花見川区、稲毛区、若葉区、美浜区、緑区在住の20代～60代の男女の中から無作為に抽出した1,400名

3. 3 選定方法

以下の手順に従って、確率比例抽出法により抽出をした。確率比例抽出法は、第1段階では第1次抽出単位はその大きさに比例した確率でランダムに抽出され、第2段階では抽出された第1次抽出単位にその大きさに関係なく同数の標本が割り当てられる方法である。

- ① 1地点（町丁）ごとに40名を抽出し、合計1,400人を抽出するために第1次抽出単位として35地点を選定することにする。 $(1,400 \text{ (人)} \div 40 \text{ (人)}) = 35 \text{ (地点)}$
- ② 平成22年3月1日現在、千葉市中央区、花見川区、稲毛区、若葉区、美浜区、緑区の全492町丁のうち20代～60代の男女の人数が50名以下の町丁をまとめ、第1次抽出単位の町丁数を476町丁とした。
- ③ 母集団の人数（657,110人）を抽出する地点数（35）で割り、第1次抽出単位の抽出間隔を決める。その結果、抽出間隔は18,772（人）となる。
- ④ ランダムに決定した4ケタの番号をスタート番号として、そこから18,772間隔で該当した地点を抽出する。この作業を繰り返して、35地点を抽出する。例えば、スタート番号が1,234であった場合には、1,234（第一地点）、 $1,234 + 18,772 = 20,006$ （第二地点）、 $20,006 + 18,772 = 39,778$ （第三地点）と順に選択していき、658,254（第三十五地点）となる。
- ⑤ 抽出した35地点から、各地点ごとに40名ずつを抽出して1,400名を抽出する。 $(35 \text{ (地点)} \times 40 \text{ (人)}) = 1,400 \text{ (人)}$

4. 統計的調査の方法

郵送調査法（調査票を対象者に郵送し、対象者自身が調査票に記入し、返送する調査方法）

調査時期 平成22年9月6日（金）～9月30日（月）

回収結果 有効回収数（率） 426票（30.4%）

3 章 千葉市の犯罪と千葉市地域防犯計画

1. 千葉市の犯罪認知状況

佐藤麻衣

1. 1 千葉県および千葉市の犯罪認知状況

警察庁¹⁾によれば、平成 21 年における千葉県の刑法犯（交通関係業過を除く。以下同様）認知件数²⁾は 96,400 件で、東京・大阪・愛知・埼玉・神奈川に次いで、6 番目に多い（表 1）。人口 10 万人当たり³⁾に対する認知件数を算出した発生率は 1590.8 件で、こちらも全国で第 8 位と、比較的高い数値を示している（表 2）。

表 1

刑法犯認知件数		
1	東 京	205708
2	大 阪	182537
3	愛 知	145807
4	埼 玉	113632
5	神 奈 川	98216
6	千 葉	96400
7	兵 庫	90670
8	福 岡	86057
9	北 海 道	52139
10	京 都	44538

表 2

発生率		
1	大 阪	2113.2
2	愛 知	2019.5
3	京 都	1725.6
4	福 岡	1716.3
5	兵 庫	1647.6
6	東 京	1633.1
7	埼 玉	1613.9
8	千 葉	1590.8
9	茨 城	1455.2
10	三 重	1401.0

また、千葉県内で認知された 96,400 件の刑法犯のうち、千葉市内において認知されたものは 18,379 件であり、このことから、千葉県内において認知された犯罪のおおよそ 2 割が千葉市によって占められていることがわかる。

1. 2 千葉市における刑法犯認知件数の推移

千葉県警察⁴⁾によれば、千葉市内における刑法犯認知件数は、平成 12 年には 31,421 件であったが、平成 21 年には 18,379 件となり、ここ 10 年の間で約 4 割減少している（図 1）。

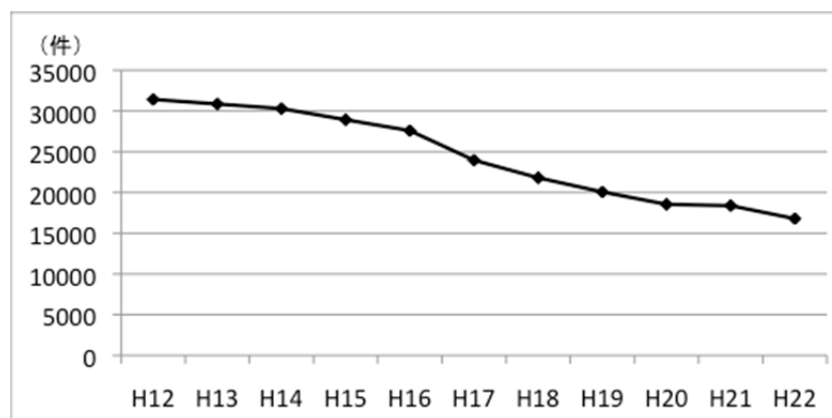


図 1：過去 10 年間の千葉市内の刑法犯認知件数

1. 3 千葉市における刑法犯（交通関係業過を除く）の種類⁵⁾

千葉市における犯罪で、もっとも多いのは「窃盗犯」で、14,595 件と、全体のほぼ 8 割を占めている（図 2）。

さらに、そうした窃盗犯の内約をみると（表 3）、もっとも多いのは「自転車盗」（1,115 件）で窃盗被害の 35%を占めている。また、「自転車盗」・「自動車盗」・「オートバイ盗」、および「車上荒らし」といった、路上における窃盗を合わせると、窃盗被害の約 6 割を占めることがわかる。

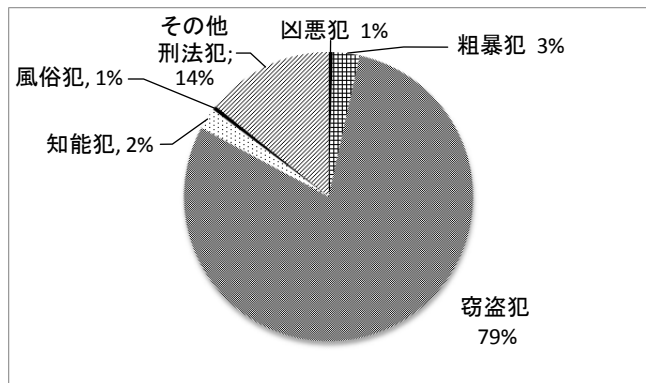


図 2：千葉市における各種犯罪の割合

表 3：千葉市における罪種手口別犯罪認知件数

凶悪犯		窃盗犯		知能犯	
殺人	13	空き巣	532	詐欺	339
強盗	48	忍び込み	193	横領	14
放火	13	事務所荒らし	134	その他知能犯	90
強姦	15	出店荒らし	107		
		その他侵入盗	267	風俗犯	
粗暴犯		自動車盗	1115	賭博	2
凶器準備集合	0	オートバイ盗	912	わいせつ	83
暴行	215	自転車盗	5120		
傷害	257	車上ねらい	1720	その他刑法犯	
脅迫	21	ひったくり	353	住居侵入	224
恐喝	56	部品ねらい	1002	占有離脱物横領	696
		自販機ねらい	171	その他	1698
		その他非侵入窃盗	2969		

一方、近年増加したと言われている「空き巣」や「ひったくり」であるが、平成 21 年の「窃盗」に占める「空き巣」の割合は 3.6%、「ひったくり」は 2.4%とごく低く、ここ 10 年間でもその認知件数はむしろ減少傾向にあることがわかる（図 3）。

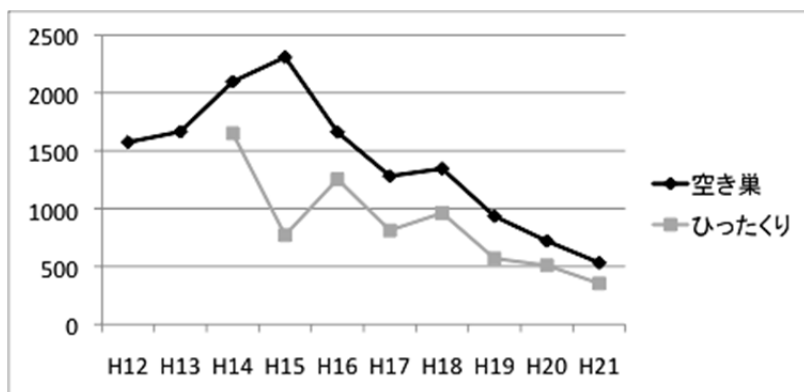


図 3：千葉市内における「空き巣」と「ひったくり」の認知件数の推移

2. 千葉市の防犯に向けた取り組み

佐藤麻衣

2. 1 「千葉市地域防犯計画」

千葉市では、前節で述べたような犯罪状況を踏まえ、地域防犯の取り組みを行っている。とくに、平成 18 年度から平成 22 年度までの 5 年間は「千葉市防犯計画」実施期間とし、それ以前から行われていた取り組みに加え、新たな対策・支援策を打ち立てるなど、意欲的な取り組みを見せている。

以下では、現在行われている「千葉市地域防犯計画」の概要を紹介する⁶⁾。

2. 2 「千葉市地域防犯計画」の基本的な視点

「千葉市地域防犯計画」では「犯罪のない安全なまちづくりの実現」に向け、まず、「今後の防犯施策を推進する際の基本的な視点」として以下の 3 点を挙げている。

- ① 犯罪機会を失わせる「事前対策」を重視した取り組みの推進
- ② 地域を構成する者による連携と相互協力
- ③ 基本的人権の尊重

ここで挙げられている③は、①②の前提となっている。つまり、ここで表明されているのは、「犯罪のない安全なまちづくりへの使命感の高揚が、逆に市民の基本的人権を侵害することのないよう…（中略）…十分な配慮」を行う、ということであり、これは①②といった「千葉市地域防犯計画」の実施にあたり、欠くべからざる前提である。

一方、②は、「犯罪のない安全なまちづくりの実現に向けた市、市民、事業者、警察、その他関係機関などの役割はそれぞれ異なるが、そうしたそれぞれが「それぞれに期待される役割を相互補完的に果たし合うこと」によって、「犯罪のないまちづくり」が達成される、ということを表している。

そして、順番は前後したが、こうした 3 つの基本的視点のなかでも、千葉市がもっとも重視し、力を入れて取り組んでいるのが①の「犯罪機会を失わせる『事前対策』を重視した取り組みの推進」である。

以下では、この①の視点について詳しく述べたい。

2. 3 犯罪機会を失わせる「事前対策」とは？

千葉市は、犯罪機会を失わせる「事前対策」を、大きく以下の 2 つに分類している。

- (ア) 人や物が被害に遭いにくくするための取り組み
- (イ) 犯行を躊躇（ちゅうちょ）するような監視の目を確保したり、まちの死角をなくすなど犯罪者が入り込まないようにするための取り組み

上述の（ア）は、より具体的には、「犯罪者の標的になりにくくするための取り組み」であり、例えば、子どもに防犯ブザーを持たせる、家の鍵を二重にする、道路を歩く際にはバッグを車道と反対側にもつ、などが挙げられる。

一方、（イ）は、「一般に犯罪者は『一般の視線を遮るものがなく、監視の目が光っている場所』では、犯行を躊躇し断念する可能性が高いと指摘されていることから、監視の目を確保したり、まちの死角をなくしたりするなど犯罪者が入り込まないようにしようとするもの」であり、端的に言えば、犯罪を行いにくい環境を整備する、ということである。

こうした防犯のための環境整備の例としては、防犯カメラを設置する、パトロールを強化するといったもののほかに、その地域における落書きを減らしたり、放置自転車を取り締まる、といった、一般的には環境美化に分類されるような活動も挙げられる。というのも、きれいに整備された場所というのは、きれいにする人びとがいる、つまりはその場を管理・監視している人びとがいる、ということ想起させるからである⁷⁾。

それゆえ、近年の地域防犯対策では、落書きの防止や、空き缶やタバコのポイ捨てといった、一見、些細だと思われるような違反行為を取り締まることこそが、大きな犯罪を抑止する力になるといった考え方が主流となっている。

2. 4 「千葉市地域防犯計画」の具体的な取り組み

以上を踏まえ、「千葉市地域防犯計画」では、具体的な取り組みとして以下の7つを挙げている⁸⁾。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| A. 市民を主体とした防犯活動への支援 | E. 軽微な犯罪、犯罪に至らない義務違反 |
| B. 地域防犯ネットワークの構築 | 対策との連携 |
| C. 子どもを犯罪から守る | F. 関係部署が連携した取り組みの推進 |
| D. 防犯に配慮した公共施設等の整備 | G. 警察との連携 |

ここで詳細を紹介することはできないが、以下に「千葉市地域防犯計画」から抜粋した、それぞれの小項目を列挙する。

A. 市民を主体とした防犯活動への支援

- (ア) 犯罪発生情報の提供及び最新の防犯知識の普及
- (イ) 「防犯リーダー」など人材の育成
- (ウ) 防犯アドバイザーの派遣
- (エ) 防犯パトロール活動に対する支援

B. 地域防犯ネットワークの構築

- (ア) 犯上の拠点整備
- (イ) 配達業務などにおける防犯パトロール活動の実施
- (ウ) 市公用車及び青色回転灯装着車による防犯パトロール活動の実施
- (エ) 防犯情報提供システムの構築
- (オ) 地域防犯連絡会（仮称）の発足

C. 子どもを犯罪から守る

- (ア) 学校、幼稚園、保育所（園）及び子育て関連施設における安全確保の取り組み
- (イ) 小中学校等の登下校時における安全確保の取り組み
- (ウ) 地域ぐるみでの取り組み
- (エ) 子どもが加害者とならないための取り組み

D. 防犯に配慮した公共施設等の整備

- (ア) 公共施設の整備及び管理における防犯上の配慮
- (イ) 公共施設の利用者を増やす取り組み
- (ウ) 防犯に配慮した住宅等の普及

E. 軽微な犯罪、犯罪に至らない義務違反対策との連携

根拠となる条例	内容
落書きの防止に関する条例	他人の建築物や工作物の目に触れる部分に落書きをしないこと。
路上喫煙等の防止に関する条例	道路、公園等の屋外の公共の場所では、喫煙をしないこと。
空地に係る雑草の除去に関する条例	空地は適正に管理し、雑草を繁茂させて周囲に迷惑を及ぼさないこと。
動物の愛護及び管理に関する条例	動物は、人に迷惑をかけないように飼うこと。犬やねこ等の排泄物は、適切に処理すること。犬は、引き綱等をつけて散歩させること。
放置自動車の発生の防止及び適正な処理に関する条例	自ら自動車を放置したり、他人に放置させたり、またはそのような行為をしようとする者に協力しないこと。
空き缶等の散乱の防止に関する条例	空き缶、空きびん、たばこの吸い殻等を持ち帰り、または適正な処理をするようにすること。
屋外広告物条例	屋外に広告物を掲出する場合には、市長の許可が必要となることがあります。なお、道路、街路樹、道路標識、消火栓、電話ボックス等の条例で定める禁止物件には、屋外に広告物を掲出することはできません。
自転車等の放置防止に関する条例	道路等の公共の場所には、自転車や原動機付自転車を放置しないこと。

F. 関係部署が連携した取り組みの推進

G. 警察との連携

(ア) 犯罪情報の提供

(イ) 防犯パトロール活動や防犯に配慮した都市空間づくりにおける実務上の支援

(ウ) 犯罪の取締りの徹底

次節では、こうした取り組みをより具体化した各支援対策・各条例が、千葉市民にどれだけ認知されているかについて分析を行う。

註

- 警察庁 HP>「捜査活動に関する統計等」>「平成 21 年の犯罪」 を参照。
(http://www.npa.go.jp/toukei/keiki/hanzai_h21/h21hanzaitoukei.htm、最終閲覧：2011/3/10)
- 犯罪について、被害の届出、告訴、告発その他の端緒により、警察等が発生を認知した事件の数をいう（法務省『犯罪白書』凡例より）。
- ここで用いた人口数は、以下を参照。
人口動態調査>平成 21 年人口動態統計>確定数>上巻>総覧>年次>2009 年>表 3-3-1
(http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&listID=000001066471&requestSender=search、最終閲覧：2011/3/10)
- 千葉県警察 HP>「犯罪統計」>「犯罪の発生状況 市町村別」 を参照。
(http://www.police.pref.chiba.jp/trouble/crime_statistics/index_town.php、最終閲覧：2011/3/10)
- 1-3 節における認知件数のデータはすべて註 4 と同じく、千葉県警察 HP を参照のこと。ただし、「窃盗」に占める各犯罪（「自転車盗」「空き巣」等）の割合は、千葉県警察のデータをもとに筆者が算出した。
- 千葉市 HP>市民局>市民部>地域振興課>「地域防犯計画」 を参照。
(<http://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/chiikishinko/pubcome.html>、最終閲覧：2011/3/10)

- 7) 詳しくは、次の文献を参照。J. ケリング & C. M. コールズ著、小宮信夫監訳、2004、『割れ窓理論による犯罪防止—コミュニティの安全をどう確保するか』 文化書房博文社。
- 8) 詳しくは、註 6 と同様、「千葉市地域防犯計画」の 14 頁以降を参照。

3. 千葉市の防犯対策と条例の認知・評価

A82001 相曾紗良亜

3. 1 問題意識と課題

私たちの生活する千葉市では様々な防犯対策が行われている。防犯対策は市民の安全・安心を守るためだけでなく、犯罪不安を解消することにつながっているのだろうか。そこで、人々の生活の中で関わりが多いと考えられる4つの防犯対策（「青色回転灯装着自動車（通称：青パト）」「防犯パトロール」「防犯カメラ」「子ども110番」）をとりあげて犯罪不安とどのように関連しているのか、検証することにした。さらに、千葉市防犯計画の千葉市条例に対する人々の認知と評価を基本属性別に分析していく。

3. 2 地域の防犯対策

（1）青パトの知覚頻度

青パト知覚の頻度は巻末の単純集計表 D1 によれば、「よく見る」8.9%と「たまに見る」34.0%を合わせると 42.9%、「あまり見ない」31.9%「全く見ない」24.4%を合わせると 56.3%であり、青パトの知覚頻度は低いことがわかった。

表 1 基本属性と青パト知覚の頻度

		見る	見ない	合計	人数	χ^2 値	p 値
性別	男性	39.6	60.4	100.0	159	1.315	0.252
	女性	45.4	54.7	100.0	258		
年代	20 代	28.2	71.8	100.0	39	7.749	0.101
	30 代	34.7	65.3	100.0	75		
	40 代	46.8	53.3	100.0	77		
	50 代	47.3	52.8	100.0	91		
	60 代	47.4	52.6	100.0	133		
子どもの有無	有	51.7	48.3	100.0	87	3.811	0.051
	無	40.1	59.9	100.0	322		

表 1 は基本属性と青パトの知覚頻度のクロス集計をし、 χ^2 検定を行った結果である。5%水準では有意差がなかったが、「小学生以下の子どもがいる（孫も含む）家庭」（51.7%）のほうが「いない家庭」（40.1%）より青パトの知覚頻度が高かった。

青パトの知覚頻度と「本人」「同居家族」「夜の一人歩き」犯罪不安のクロス集計をし、 χ^2 検定を行ったが、5%水準では有意差がなかった。また、罪種別犯罪不安との関連をみたが、全ての項目で5%水準では有意差がなかった。

（2）地域防犯パトロールへの参加

地域防犯パトロール（PTA 等の活動も含む）への参加は巻末の単純集計表 D2 によれば、「参加している」7.0%と「たまに参加している」10.8%を合わせると 17.8%、「あまり参加しない」12.4%「全く参加しない」68.5%を合わせると 80.9%であり、地域防犯パトロールに参加している人がそれほど多くないことがわかった。

表 2 基本属性と地域防犯パトロールへの参加

		参加	不参加	合計	人数	χ^2 値	p 値
性別	男性	13.4	86.6	100.0	157	4.116	0.043*
	女性	21.3	78.7	100.0	258		
年代	20 代	5.1	94.9	100.0	39	16.357	0.003**
	30 代	10.7	89.3	100.0	75		
	40 代	31.2	68.8	100.0	77		
	50 代	20.9	79.1	100.0	91		
	60 代	17.6	82.4	100.0	131		
子どもの有無	有	31.0	69.0	100.0	87	11.230	0.0008***
	無	16.7	83.3	100.0	233		

表 2 は基本属性と防犯パトロールへの参加のクロス集計をし、 χ^2 検定を行った結果である。「性別」では 5 % 水準、「年代」では 1 % 水準、「子どもの有無」では 0.1% 水準でそれぞれ有意差があった。そして、防犯パトロールに参加しているのは男性より女性が多く、年代では 40 代が多く、「小学生以下の子どもがいない家庭」より「いる（孫も含む）家庭」のほうが多いことがわかった。

表 3 犯罪不安と地域防犯パトロールへの参加

		参加	不参加	合計	人数	χ^2 値	p 値
本人	不安あり	22.2	77.8	100.0	239	5.500	0.019*
	不安なし	13.1	86.9	100.0	175		
同居家族	不安あり	22.4	77.6	100.0	277	4.501	0.034*
	不安なし	12.8	87.2	100.0	109		
夜の一人歩き	不安あり	23.5	76.5	100.0	213	7.394	0.007**
	不安なし	11.4	88.6	100.0	123		

表 3 は「本人」「同居家族」「夜の一人歩き」犯罪不安と地域防犯パトロールへの参加のクロス集計をし、 χ^2 検定を行った結果である。「本人」「同居家族」では 5 % 水準、「夜の一人歩き」では 1 % 水準で有意差があった。そして、犯罪不安が高い人ほど防犯パトロールに参加していて、犯罪不安が低い人ほど防犯パトロールに参加しない傾向がみられた。

（３）防犯カメラの設置

防犯カメラの設置において巻末の単純集計表 D3 によれば、「必要だと思う」44.6%と「やや必要だと思う」41.3%を合わせると 85.9%、「あまり必要だと思わない」10.8%と「全く必要と思わない」1.9%を合わせると 12.7%であり、全体的に 8 割を超える人が防犯カメラの設置が必要だと思っていることがわかる。

表 4 は基本属性と防犯カメラの設置のクロス集計をし、 χ^2 検定を行った結果である。「性別」では 5 % 水準で、「年代」では 1 % 水準で、有意差があった。そして、防犯カメラの設置が必要と思う人は男性（82.4%）より女性（90.2%）が多い。年代では 40 代以上は約 9 割が防犯カメラの設置が必要と思っているのに対して、年代が若いほど必要と思っている人の割合が低くなっており、20 代は 66.7%である。若い人ほど防犯カメラに抵抗があるのではないかと考えられる。

表 4 基本属性と防犯カメラの設置

		必要	不必要	合計	人数	χ^2 値	p 値
性別	男性	82.4	17.6	100.0	159	5.346	0.021*
	女性	90.2	9.8	100.0	255		
年代	20 代	66.7	33.3	100.0	39	17.601	0.002**
	30 代	86.7	13.3	100.0	75		
	40 代	90.8	9.2	100.0	76		
	50 代	91.0	9.0	100.0	89		
	60 代	89.5	10.5	100.0	133		
子どもの有無	有	89.7	10.3	100.0	87	0.602	0.438
	無	86.5	13.5	100.0	319		

表 5 防犯カメラの設置と犯罪不安

		必要	不必要	合計	人数	χ^2 値	p 値
本人	不安あり	90.3	9.7	100.0	238	4.372	0.037*
	不安なし	83.4	16.6	100.0	175		
同居家族	不安あり	90.2	9.8	100.0	276	5.515	0.019*
	不安なし	81.5	18.5	100.0	108		
夜の一人歩き	不安あり	91.9	8.1	100.0	211	12.881	0.0003***
	不安なし	78.2	21.8	100.0	124		

表 5 は防犯カメラの設置と「本人」「同居家族」「夜の一人歩き」犯罪不安のクロス集計をし、 χ^2 検定を行った結果である。「本人」「同居家族」の犯罪不安は 5 %水準で、「夜の一人歩き」とは 0.1%水準で有意差があり、統計的に関連があった。そして、犯罪不安が高い人のほうが低い人より防犯カメラの設置を必要だと思う傾向があることがわかった。犯罪不安が防犯カメラの設置の必要性を強めていると考えられる。

(4) 「子ども 110 番」の認知

近所に「子ども 110 番」の認知において巻末の単純集計表 D4 によれば、「たくさんある」16.9%と「ややある」43.0%を合わせると 59.0%、「あまりない」25.1%と「全くない」10.1%を合わせると 35.2%であり、全体の 6 割が「子ども 110 番」を認知していることがわかる。

表 6 は基本属性と「子ども 110 番」の認知とのクロス集計をし、 χ^2 検定を行った結果である。「性別」では 1 %水準で、「子どもの有無」では 0.1%水準で有意差があり、性別と子どもの有無は「子ども 110 番」の認知とは統計的に関連があった。そして、「子ども 110 番」の認知が高い人は女性が多く、小学生以下の子どもがいる（孫も含む）家庭が多いことがわかった。

「本人」「同居家族」「夜の一人歩き」犯罪不安と「子ども 110 番」の認知のクロス集計を行ったが 5 %水準では有意差がなく、統計的に関連がなかった。

表 6 基本属性と「子ども 110 番」の認知

		ある	ない	合計	人数	χ^2 値	p 値
性別	男性	52.7	47.3	100.0	150	9.902	0.002**
	女性	68.4	31.6	100.0	250		
年代	20 代	53.9	46.2	100.0	39	8.528	0.074
	30 代	62.2	37.8	100.0	74		
	40 代	71.2	28.8	100.0	73		
	50 代	70.0	30.0	100.0	90		
	60 代	55.3	44.7	100.0	123		
子どもの有無	有	80.0	20.0	100.0	85	12.938	0.0003***
	無	58.8	41.2	100.0	308		

3. 3 千葉市条例の認知・評価

(1) 千葉市条例の認知

千葉市では条例を制定し防犯対策を行っているのだが、市民は防犯と関係のある千葉市条例があることは知っているのだろうか。「落書き防止条例」「路上喫煙防止条例」「雑草除去条例」「自転車放置防止条例」「空き缶の散乱防止条例」の 5 つを取り上げ、認知状況を調査した。

条例の認知状況について巻末の単純集計表 D51 から D55 をみると、「落書き防止条例」は「知っている」10.8%「知らない」87.6%、「路上喫煙防止条例」は「知っている」50.5%「知らない」47.9%、「雑草除去条例」は「知っている」12.9%と「知らない」85.4%、「自転車放置防止条例」は「知っている」52.8%「知らない」45.5%、「空き缶の散乱防止条例」は「知っている」5.2%「知らない」93.2%、となっている。「路上喫煙防止条例」と「自転車放置防止条例」の 2 つは、5 割の人が「知っている」。これは、街中での呼びかけの成果ではないかと考える。そのほかの条例は「知っている」人がそれほど多くない。「落書き防止条例」と「雑草除去条例」を認知している人は 1 割程度であり、「空き缶散乱防止条例」は 5 %にすぎない。

表 7 は基本属性（性別・年代別）と千葉市条例の認知とをクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果である。「落書き防止条例」では年代別で 1 %水準で有意差があり、「雑草除去条例」では年代別で 0.1%水準で有意差があったが、それ以外は 5 %水準で有意差がなかった。

「落書き防止条例」は、20 代から 40 代の比較的若い世代において知っている人が少ないことがわかった（20 代が 3 %、30 代と 40 代では 5 %）。「雑草除去条例」もまた、とくに 20 代から 40 代まで年代の認知度が低く、それぞれの年代における知っている人の割合は 3～4 %にとどまっている。これに対して、60 代は 30%と知っている人が多いことがわかった。

統計的有意差はなかったが、「路上喫煙防止条例」は女性（47.7%）より男性（57.7%）のほうが知っている人が多かった。また、「自転車放置防止条例」の認知度に男女差はほとんどなかった。全体的に 60 代はどの条例も知っている人が多く、「路上喫煙防止条例」と「自転車放置防止条例」は 20 代の認知度が比較的高く、5 割をこえている。

表 7 基本属性と千葉市条例の認知

		知っている	知らない	合計	人数	χ^2 値	p 値
落書き防止条例	男性	11.5	88.5	100.0	157	0.027	0.869
	女性	10.9	89.1	100.0	256		
	20 代	2.6	97.4	100.0	39	15.336	0.004**
	30 代	5.4	94.6	100.0	74		
	40 代	5.2	94.8	100.0	77		
	50 代	15.4	84.6	100.0	91		
	60 代	17.7	82.3	100.0	130		
路上喫煙防止条例	男性	57.3	42.7	100.0	157	3.642	0.056
	女性	47.7	52.3	100.0	256		
	20 代	53.9	46.2	100.0	39	3.450	0.486
	30 代	44.6	55.4	100.0	74		
	40 代	46.8	53.3	100.0	77		
	50 代	56.0	44.0	100.0	91		
	60 代	54.6	45.4	100.0	130		
雑草除去条例	男性	13.4	86.6	100.0	157	0.0008	0.978
	女性	13.3	86.7	100.0	256		
	20 代	2.6	97.4	100.0	39	48.618	0.0001***
	30 代	2.7	97.3	100.0	74		
	40 代	3.9	96.1	100.0	77		
	50 代	11.0	89.0	100.0	91		
	60 代	30.0	70.0	100.0	130		
自転車放置防止 条例	男性	53.5	46.5	100.0	157	0.025	0.875
	女性	54.3	45.7	100.0	256		
	20 代	56.4	43.6	100.0	39	7.180	0.127
	30 代	50.0	50.0	100.0	74		
	40 代	44.2	55.8	100.0	77		
	50 代	53.9	46.2	100.0	91		
	60 代	62.3	37.7	100.0	130		
空き缶の散乱防止 条例	男性	7.6	92.4	100.0	157	2.695	0.101
	女性	3.9	96.1	100.0	256		
	20 代	5.1	94.9	100.0	39	not valid	0.019
	30 代	1.4	98.7	100.0	74		
	40 代	2.6	97.4	100.0	77		
	50 代	3.3	96.7	100.0	91		
	60 代	10.8	89.2	100.0	130		

（２）千葉市条例の評価

条例の評価について巻末の単純集計表 D61 から D65 によると、「落書き防止条例」は「とても役に立つ」と「やや役に立つ」を合わせると 71.2%、「あまり役に立たない」と「全く役に立たない」を合わせると 26.3%、「路上喫煙防止条例」は「とても役に立つ」と「やや役に立つ」を合わせると 78.2%、「あまり役に立たない」と「全く役に立たない」を合わせると 19.7%、「雑草除去条例」は「とても役に立つ」と「やや役に立つ」を合わせると 64.6%、「あまり役に立たない」と「全く役に立たない」を合わせると 32.9%、「自転車放置防止条例」は「とても役に立つ」と「やや役に立つ」を合わせると 76.5%、「あまり役に立たない」と「全く役に立たない」を合わせると 21.9%、「空き缶の散乱防止条例」は「とても役に立つ」と「やや役に立つ」を合わせると 74.4%、「あまり役に立たない」と「全く役に立たない」を合わせると 23.7%と、全ての条例において「役に立つ」という評価が「役に立たない」を大きく上回っている。

表 8 は基本属性（性別・年代）と千葉市条例の評価とをクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果である。性別では全ての条例が 5 % 水準以上で有意差がみられた。特に「雑草除去条例」「空き缶の散乱防止条例」では 0.1 % 水準で有意な差がみられ、条例の評価に性別が関連していることがわかった。そして、全ての条例で女性のほうが役に立っているという評価が多く、千葉市条例に対する女性の評価は高いといえる。

表 8 基本属性と千葉市条例の評価

		役に立つ	役に立たない	合計	人数	χ^2 値	p 値
落書き防止条例	男性	66.0	34.0	100.0	156	5.958	0.015*
	女性	77.1	22.9	100.0	253		
	20 代	74.4	25.6	100.0	39	7.743	0.102
	30 代	69.3	30.7	100.0	75		
	40 代	72.4	27.6	100.0	76		
	50 代	64.0	36.0	100.0	89		
	60 代	80.5	19.5	100.0	128		
路上喫煙防止条例	男性	71.8	28.2	100.0	156	10.011	0.002**
	女性	84.7	15.3	100.0	255		
	20 代	84.6	15.4	100.0	39	7.634	0.106
	30 代	78.7	21.3	100.0	75		
	40 代	76.6	23.4	100.0	77		
	50 代	71.9	28.1	100.0	89		
	60 代	86.1	14.0	100.0	129		
雑草除去条例	男性	50.6	49.4	100.0	156	27.516	0.0001***
	女性	75.9	24.1	100.0	253		
	20 代	61.5	38.5	100.0	39	4.920	0.296
	30 代	62.7	37.3	100.0	75		
	40 代	60.5	39.5	100.0	76		
	50 代	65.2	34.8	100.0	89		
	60 代	73.4	26.6	100.0	128		
自転車放置防止 条例	男性	70.7	29.3	100.0	157	7.783	0.005**
	女性	82.4	17.6	100.0	256		
	20 代	79.5	20.5	100.0	39	2.829	0.587
	30 代	77.3	22.7	100.0	75		
	40 代	74.0	26.0	100.0	77		
	50 代	74.4	25.6	100.0	90		
	60 代	82.3	17.7	100.0	130		
空き缶の散乱防止 条例	男性	66.2	33.8	100.0	157	12.419	0.0004***
	女性	81.6	18.4	100.0	255		
	20 代	76.9	23.1	100.0	39	7.656	0.105
	30 代	77.3	22.7	100.0	75		
	40 代	72.4	27.6	100.0	76		
	50 代	66.7	33.3	100.0	90		
	60 代	82.3	17.7	100.0	130		

3. 4 考察

地域の防犯対策として行われている青パトの知覚頻度と犯罪不安との関連がないことがわかった。青パトの巡回が人々に安心感を与えていないのではないか、あるいはまだ青パトの認知度が低いからであろうか。また、4章の3でみたように小学生以下の子どもがいる（孫も含む）家庭では犯罪不安が高かったが、青パトの知覚頻度も高かった。

地域の防犯パトロールへの参加は犯罪不安と関連があり、犯罪不安が高い人ほど参加することがわかった。しかし、犯罪不安を感じていても防犯パトロールに参加する人よりも不参加の人が多く、防犯パトロールへ参加しにくい状況があるのではないかと考える。そして、防犯パトロールへの参加率は女性の40代で高いことがわかった。

また、防犯カメラの設置は犯罪不安と関連があり、犯罪不安が高い人ほど必要であると思っていることがわかった。しかし、20代では防犯カメラを必要と思う人の割合が他の年代よりも低く、プライバシーの侵害への意識が高いのではないかと考える。

「子ども110番」の認知では子ども110番の認知と犯罪不安との関連がないことがわかった。しかし「子ども110番」の認知は6割近くあり、女性のほうが認知度が高く、小学生以下の子どもがいる（孫も含む）家庭の認知度も高かった。

千葉県条例の認知はあまり高くないことがわかった。しかし「路上喫煙防止条例」と「自転車放置防止条例」の認知度は比較的高かった。とくに、20代は、「落書き防止条例」や「雑草除去条例」「空き缶の散乱防止条例」といった条例の認知度は低かったが、全体的に認知度が高い「路上喫煙防止条例」と「自転車放置防止条例」については、20代の認知度は高かった。そして千葉県条例の評価では、女性のほうが男性よりも安全・安心な社会の実現に役に立つと思っていることがわかった。条例の認知と評価からみると、「路上喫煙防止条例」と「自転車放置防止条例」はよく知られていて役に立つと思われていることがわかった。

人々の安全・安心な社会の実現のため行われている防犯対策への参加や必要性、あるいは条例の認知・評価には、性や年代などの基本属性や犯罪不安の高低によって違いがあることがわかった。防犯対策や条例が、どこまで人々の生活に踏み込むことが出来て、どこまで守ることができるのだろうか、考えさせられた。

4 章 犯罪不安の構造

1. 犯罪不安の内部構造

A82102 松本節子

1. 1 問題意識

本節では、犯罪に対する不安の内実を詳しく調べる。まず、罪種別犯罪不安と一般的犯罪不安との関連を分析していく。さらに、相関分析と因子分析を行って、罪種別の犯罪不安の内部構造を明らかにする。

1. 2 罪種別犯罪不安と一般的犯罪不安の関連の分析

(1) 罪種別犯罪不安と一般的犯罪不安のクロス集計

12 項目の罪種別犯罪不安を独立変数とし、本人の一般的犯罪不安とのクロス集計を行った。本人の犯罪不安は「あなたは、日頃、ご自身が犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じることがありますか」という設問である。「よくある」と「たまにある」を「不安あり」に、「ほとんどない」と「全くない」を「不安なし」と 2 カテゴリーに統合した。

罪種別犯罪不安は、12 の罪種に対し「あなたは、日頃、犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じていますか」とたずねた。「不安である」と「少し不安である」を「ある」とし、「あまり不安ではない」と「不安ではない」を「ない」と 2 カテゴリーに統合した。

表 1 は、罪種別犯罪不安と一般的犯罪不安とのクロス集計結果であり、 ϕ 係数の高い順に罪種を並べかえてある。

暴力に不安を持つ人では、一般的犯罪不安のある割合は 82.9% であり、暴力に不安がない人では、31.5% であった。両者の差は 51.4 ポイントであった。

通り魔の不安を持つ人では、一般的犯罪不安のある割合は 78.7% であり、ない人では 27.1% であった。両者の差は 51.6 ポイントであった。

空き巣に不安を持つ人では、一般的犯罪不安のある割合は 69.2% であり、ない人では 29.8% であった。両者の差は 39.4 ポイントであった。

ひったくりに不安を持つ人では、一般的犯罪不安のある割合は 71.7% であり、ない人では 35.9% であった。両者の差は 35.8 ポイントであった。

恐喝に不安を持つ人では、一般的犯罪不安のある割合は 81.3% であり、ない人では 45.2% であった。両者の差は 36.1 ポイントであった。

痴漢に不安を持つ人では、一般的犯罪不安のある割合は 79.7% であり、ない人では 47.3% であった。両者の差は 32.4 ポイントであった。

放火に不安を持つ人では、一般的犯罪不安がある割合は 76.8% であり、ない人では 46.0% であった。両者の差は 30.8 ポイントであった。

落書きに不安を持つ人では、一般的犯罪不安がある割合は 84.4% であり、ない人では 51.2% であった。両者の差は 33.2 ポイントであった。

架空請求に不安を持つ人では、一般的犯罪不安のある割合は 70.7% であり、ない人では 46.8% であった。両者の差は 23.9 ポイントであった。

ストーカーに不安を持つ人では、一般的犯罪不安がある割合は 80.0% であり、ない人では、20.0% であった。両者の差は 60.0 ポイントであった。

振り込め詐欺に不安を持つ人では、一般的犯罪不安がある割合は 68.1% であり、ない人では 53.6% であった。両者の差は 14.5 ポイントであった。

悪質商法に不安を持つ人では、一般的犯罪不安がある割合は 64.4% であり、ない人では 53.0% であった。両者の差は 11.4 ポイントであった。

ϕ 係数の高低に注目すると、0.5 以上の罪種は暴力と通り魔であった。0.52 の暴力がもっとも高い結果となった。次に 0.3 以上の罪種は、空き巣、ひったくり、恐喝、痴漢、放火の 5 種類の罪種が上げられた。一般的犯罪不安との関連の強い罪種は、「暴力」や「通り魔」といった身体的接触を伴う罪種であることが注目される。ただし、「空き巣」も一般的犯罪不安との関連が強い。これに関しては、本節 2 - 3 で再び検討したい。

表 1 罪種別犯罪不安と一般的犯罪不安との関連

		不安あり	不安なし	人数	χ^2 値	p 値	ϕ 係数
暴力	ある	82.9	17.1	205	110.17	p<.001	0.52
	ない	31.5	68.5	203			
通り魔	ある	78.7	21.3	239	106.55	p<.001	0.51
	ない	27.1	72.9	166			
空き巣	ある	69.2	30.8	292	52.169	p<.001	0.36
	ない	29.8	70.2	114			
ひったくり	ある	71.7	28.3	247	50.804	p<.001	0.35
	ない	35.9	64.2	159			
恐喝	ある	81.3	18.7	139	48.390	p<.001	0.34
	ない	45.2	54.9	268			
痴漢	ある	79.7	20.3	128	38.602	p<.001	0.31
	ない	47.3	52.7	277			
放火	ある	76.8	23.2	151	36.643	p<.001	0.30
	ない	46.0	54.0	252			
落書き	ある	84.4	15.6	77	28.202	p<.001	0.26
	ない	51.2	48.8	332			
架空請求	ある	70.7	29.3	188	23.762	p<.001	0.25
	ない	46.8	53.2	218			
ストーカー	ある	80.0	20.0	80	20.829	p<.001	0.23
	ない	51.8	48.2	326			
振り込め	ある	68.1	31.9	116	7.178	p=.007	0.14
	ない	53.6	46.4	293			
悪質商法	ある	64.4	35.6	160	5.108	p=.023	0.12
	ない	53.0	47.0	247			

(2) 罪種別犯罪不安相互の相関分析

12 種類の罪種別犯罪不安相互の相関係数を 4 件法のまま算出した。

表 2 罪種別犯罪不安の相関係数

	悪質	暴力	恐喝	痴漢	空き巣	通り魔	ひったくり	ストーカー	架空請求	放火	振り込め	落書き
悪質商法		0.14	0.21	0.10	0.23	0.18	0.21	0.20	0.49	0.28	0.54	0.18
暴力			0.59	0.44	0.31	0.55	0.38	0.37	0.23	0.31	0.18	0.33
恐喝				0.38	0.24	0.45	0.37	0.38	0.35	0.33	0.27	0.24
痴漢					0.20	0.42	0.40	0.51	0.21	0.20	0.20	0.18
空き巣						0.39	0.33	0.18	0.26	0.39	0.19	0.19
通り魔							0.63	0.34	0.27	0.37	0.23	0.22
ひったくり								0.27	0.27	0.29	0.27	0.22
ストーカー									0.20	0.19	0.23	0.16
架空請求										0.31	0.51	0.21
放火											0.28	0.36
振り込め												0.18
落書き												

注) 全ての相関が 0.1%水準で有意。

表 2 の罪種別相関係数において、0.4 以上の罪種の組み合わせに網掛けをした。すべての相関係数は、0.1%水準で有意であった。もっとも高い罪種同士が「恐喝」と「暴力」の 0.59 である。次に「通り魔」と「暴力」の 0.55、「振り込め」と「悪質商法」の 0.54、「ストーカー」と「痴漢」の組み合わせと、「振り込め」と「架空請求」では 0.51 であった。暴力、恐喝、通り魔といった、これらの犯罪は、身体的な犯罪である。身体に対する不安の相互の相関が高いということである。

振り込め詐欺、悪質商法の相関も高かった。これらは、財産目当ての犯罪である。

(3) 性別ごとの罪種の相関分析

次に、性別ごとに罪種の相関係数を算出した。

表 3 罪種別犯罪不安の相関係数 男性

	悪質	暴力	恐喝	痴漢	空き巣	通り魔	ひったくり	ストーカー	架空請求	放火	振り込め	落書き
悪質商法		0.09	0.66	0.17	0.31	0.17	0.28	0.18	0.56	0.34	0.47	0.25
暴力			0.56	0.33	0.34	0.47	0.34	0.18	0.14	0.35	0.08	0.31
恐喝				0.29	0.30	0.44	0.32	0.25	0.16	0.28	0.12	0.18
痴漢					0.21	0.28	0.28	0.51	0.27	0.06	0.28	0.16
空き巣						0.37	0.31	0.17	0.26	0.47	0.18	0.28
通り魔							0.58	0.34	0.19	0.45	0.21	0.23
ひったくり								0.33	0.21	0.34	0.18	0.35
ストーカー									0.21	0.14	0.26	0.18
架空請求										0.17	0.38	0.18
放火											0.23	0.48
振り込め												0.15
落書き												

注) 全ての相関が 5 %水準で有意。

表 3 の男性の罪種別相関係数において、0.4 以上の罪種の組み合わせに網掛けをした。もっとも高い罪種同士が「恐喝」と「悪質商法」の 0.66 である。次に「恐喝」と「暴力」の組み合わせと、「架空請求」と「悪質商法」の組み合わせが 0.56 であった。

表 4 罪種別犯罪不安の相関係数 女性

	悪質	暴力	恐喝	痴漢	空き巣	通り魔	ひったくり	ストーカー	架空請求	放火	振り込め	落書き
悪質商法		0.19	0.29	0.07	0.19	0.19	0.20	0.21	0.45	0.23	0.57	0.15
暴力			0.58	0.49	0.28	0.58	0.38	0.43	0.28	0.29	0.24	0.34
恐喝				0.42	0.20	0.44	0.40	0.41	0.45	0.36	0.35	0.27
痴漢					0.18	0.42	0.33	0.48	0.20	0.27	0.15	0.20
空き巣						0.37	0.32	0.17	0.25	0.35	0.18	0.13
通り魔							0.59	0.29	0.32	0.33	0.23	0.21
ひったくり								0.16	0.35	0.31	0.32	0.15
ストーカー									0.19	0.20	0.21	0.15
架空請求										0.38	0.58	0.23
放火											0.28	0.30
振り込め												0.20
落書き												

注) 全ての相関が 1 %水準で有意。

表 4 の女性の罪種別相関係数において、0.4 以上の罪種の組み合わせに網掛けをした。もっとも高い罪種同士が「ひったくり」と「通り魔」の 0.59 である。以下の 3 つの組み合わせが同じ 0.58 であった。「恐喝」と「暴力」、「通り魔」と「暴力」、「振り込め」と「架空請求」と、身体犯相互の相関と詐欺的犯罪相互の相関が高い。

次に、「痴漢」と「暴力」、「痴漢」と「恐喝」、「痴漢」と「通り魔」に注目してみた。これらは女性特有の被害である「痴漢」にどのような特徴があるのかみていくためである。もっとも高かったのは「痴漢」と「暴力」の 0.49 であるが、いずれも 0.4 以上である。「痴漢」は身体的暴力への不安と高い相関がみられるという知見がえられた。

(4) 犯罪不安の因子分析

12 の罪種について、その内部構造を見るため、犯罪不安の因子分析を行った。表 1 より「あなたは、日頃、ご自身が犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じることがありますか」という設問の回答を 4 件法のまま用いて因子分析を行った。因子の回転方法はプロマックス回転で行った。

なお、本調査の質問紙における罪種の並び順は、ランダム化されている。まず適当に番号をふり、ついで 1～12 の乱数を作成し、質問紙ではその順で並べかえたものである。

表 5 犯罪不安の因子分析

質問項目			身体犯	財産犯
			第一因子	第二因子
6) 通り魔にあう不安			0.86*	-0.04
2) 暴行にあう不安			0.84*	-0.11
4) 痴漢にあう不安			0.78*	-0.05
7) ひったくりにあう不安			0.76*	0.04
3) 恐喝にあう不安			0.69*	0.11
8) ストーカーにあう不安			0.66*	0.08
5) 空き巣にあう不安			0.54*	0.15
10) 放火にあう不安			0.50*	0.32
12) 自宅に落書きされる不安			0.38	0.33
11) 振り込め詐欺にあう不安			-0.02	0.86*
1) 悪質商法にあう不安			-0.03	0.84*
9) 架空請求にあう不安			0.06	0.79*

表 5 の因子分析の結果、第一因子は、暴行など身体に影響を及ぼす犯罪である「身体犯」、第二因子は、自宅や財産に影響を及ぼす犯罪でまとまった「財産犯」という 2 つの因子にわかれた。「自宅に落書きされる不安」は、第一因子の身体犯、第二因子の財産犯のどちらにも入らなかった。

より詳細にみると、「空き巣」不安は第一因子の得点が 0.54 と高く、人々には「財産」に対する不安というよりも、身体的な不安として捉えられていることがわかる。第一因子でもっとも高い因子が算出された罪種は「通り魔」であった。

また、「放火」に対する不安は、第二因子の因子得点も 0.32 と高めであるが、それ以上に第一因子の得点が 0.50 と高く、身体的な不安が強いことがわかる。第一因子と第二因子の相関係数は、 $r=0.46$ であった。

1. 3 まとめ

一般的犯罪不安ともっとも関連の強い罪種は、暴力、通り魔といった身体的な犯罪不安であった。ついで、空き巣、ひったくりとも強い関連がみられたが、これらも、財産のみならず身体的な被害にあう不安をおぼえる罪種である。

12 の罪種間相互の相関係数を算出したところ、身体犯どうし、財産犯どうしの相関が高い傾向がみられた。性別に相関係数を算出したところ、性別による違いがみられた。とりわけ、女性において痴漢やストーカーは、身体犯的な罪種と高い相関がみられたことが特徴的である。

因子分析の結果、罪種別の犯罪不安は、身体犯と財産犯にわかれた。空き巣は法的には財産犯であるが、人びとには身体的な不安として受け取られていることがわかった。

2. 基本属性と犯罪不安

A82027 加納寛之

2. 1 テーマ

私たちの日常生活において、犯罪に巻き込まれる可能性は決してないとは言えない。犯罪には殺人や強盗などの重大な犯罪から自転車の窃盗といった軽微な犯罪など、様々な罪種がある。こういった人がどのような罪種に対する犯罪不安を抱きやすいのだろうか。

私は性別・年代別といった基本属性と、住居形態の違いが様々な罪種の犯罪不安とどう関係しているのかを分析する。

住居形態には一戸建ての住宅や団地・マンション・アパート等の集合住宅がある。マンションや団地などの集合住宅に住んでいる人は、1階に住んでいる人もいれば、4階に住んでいる人もおり、高層マンションに住んでいる人だと10階以上に住んでいる人もいる。集合住宅の1、2階や一戸建て住宅の場合、その家の様子が伺えやすく、在宅しているか、していないかがわかりやすいため、空き巣などの犯罪不安が高いのではないだろうか。集合住宅の高層だとそれらの犯罪の対象になりにくいと思われ、犯罪不安は低いと私は予想する。つまり、一戸建て住宅や集合住宅の階層が異なると犯罪不安は異なるのではないか。本節では、まず、性別と年代別に犯罪不安のあり様を観察し記述していく。ついで、以下の仮説を検証していく。

2. 2 仮説

集合住宅の高層に住んでいる人より、低層や一戸建てに住んでいる人の方が犯罪不安が高い。

2. 3 分析に用いた変数

「あなたは、日頃、犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じていますか」という質問の回答の「不安である」と「少し不安である」を「不安あり」に、「不安ではない」と「あまり不安ではない」を「不安なし」にカテゴリー統合した。

また、年齢は「20代～30代」「40代～50代」「60代」の3群に分けた。

罪種別犯罪不安について聞いている質問の「悪質商法にあう不安」、「暴行などの暴力的な犯罪にあう不安」、「恐喝にあう不安」、「痴漢にあう不安」、「空き巣に入られる不安」、「通り魔にあう不安」、「ひったくりにあう不安」、「ストーカーにあう不安」、「架空請求にあう不安」、「放火にあう不安」、「振り込め詐欺にあう不安」、「自宅などに落書きされたりする不安」の12項目を用いた。

2. 4 記述分析

(1) 性別と犯罪不安

一般的犯罪不安の「不安である」という割合は男性が46.5%で、女性が64.6%と女性の方が男性よりも高かった。

罪種別犯罪不安は、5%水準で、6罪種において有意差が見られ、6罪種において有意差がみられなかった。有意差がみられた罪種は、「暴力的な犯罪にあう不安」「痴漢にあう不安」「空き巣にあう不安」「通り魔にあう不安」「ひったくりにあう不安」「ストーカーにあう不安」であった。いずれも女性は男性よりも犯罪不安が高いことが明らかとなった。

これらの罪種では、女性の体力的な面や、女性の方が性的な犯罪のターゲットになりやすい面があるから不安も高く、有意差のある結果が出たのではないかと思う。「空き巣にあう不安」もまた、女性の方が有意に不安が高かった。

表 1 性別の犯罪不安

単位 (%)

		不安		計	人数	χ^2 値	p 値
		あり	なし				
一般的犯罪不安	男性	46.5	53.5	100.0	159人	13.013	p<0.001
	女性	64.6	35.4	100.0	254人		
悪質商法にあう不安	男性	36.4	63.6	100.0	154人	0.578	p=0.447
	女性	40.2	59.8	100.0	249人		
暴力的な犯罪にあう不安	男性	42.6	57.4	100.0	155人	6.302	p=0.012
	女性	55.4	44.6	100.0	249人		
恐喝にあう不安	男性	28.6	71.4	100.0	154人	3.561	p=0.592
	女性	37.8	62.2	100.0	249人		
痴漢にあう不安	男性	14.5	85.5	100.0	152人	32.629	p<0.001
	女性	41.8	58.2	100.0	249人		
空き巣にあう不安	男性	64.5	35.5	100.0	155人	6.789	p=0.009
	女性	76.5	23.5	100.0	247人		
通り魔にあう不安	男性	39.2	60.8	100.0	153人	39.395	p<0.001
	女性	71.0	29.0	100.0	248人		
ひったくりにあう不安	男性	35.0	65.0	100.0	154人	69.225	p<0.001
	女性	76.7	23.3	100.0	249人		
ストーカーにあう不安	男性	10.4	80.6	100.0	154人	13.563	p<0.001
	女性	25.4	74.6	100.0	248人		
架空請求にあう不安	男性	44.2	55.8	100.0	154人	0.262	p=0.681
	女性	46.8	53.2	100.0	248人		
放火にあう不安	男性	36.0	64.0	100.0	153人	0.139	p=0.709
	女性	37.8	62.2	100.0	246人		
振り込め詐欺にあう不安	男性	23.4	76.6	100.0	154人	2.529	p=0.112
	女性	30.7	69.3	100.0	251人		
自宅などに落書きされる不安	男性	18.0	82.0	100.0	156人	0.186	p=0.666
	女性	19.7	80.3	100.0	249人		

(2) 年代別と犯罪不安

一般的犯罪不安をみると、不安ありという構成比が 20 代～30 代が 63.5%、40 代～50 代が 61.7%、60 代が 47.3% となり、20 代～30 代が一番犯罪不安が高かった。60 代では、不安があると答えた割合が半分未満となっている。

5%水準で、4 罪種において有意差がみられ、8 罪種において有意差がみられなかった。

有意差がみられた罪種は、「暴力的な犯罪にあう不安」「痴漢にあう不安」「振り込め詐欺にあう不安」「自宅などに落書きされる不安」であった。「暴力的な犯罪にあう不安」「痴漢にあう不安」では、20 代～30 代が一番不安が高く、年代が上がるにつれて不安が低い。「振り込め詐欺にあう不安」では、60 代が不安が高く、年代が下がるにつれて不安が低い。「自宅などに落書きされる不安」では、40 代～50 代がどの年代よりも不安が高い。「暴力的な犯罪にあう不安」「痴漢にあう不安」「振り込め詐欺にあう不安」がこのような結果になったのは、その犯罪の狙われる対象がその年代が一番高いからではないかと思う。「自宅などに落書きされる不安」において、40 代～50 代が不安が一番高いのは、家や家庭を持つ年齢がその年代に集中し、家の価値意識がどの年代よりも高いからではないかと私は思う。

表 2 年代別の犯罪不安

単位 (%)

		不安		計	人数	χ^2 値	p 値
		あり	なし				
一般的犯罪不安	20代～30代	63.5	36.5	100.0	115人	8.384	p=0.015
	40代～50代	61.7	38.3	100.0	167人		
	60代	47.3	52.7	100.0	129人		
悪質商法にあう不安	20代～30代	33.6	66.4	100.0	134人	2.450	p=0.294
	40代～50代	39.0	61.0	100.0	164人		
	60代	43.5	56.5	100.0	124人		
暴力的な犯罪にあう不安	20代～30代	58.4	41.6	100.0	134人	11.079	p=0.004
	40代～50代	54.3	45.7	100.0	164人		
	60代	38.4	61.6	100.0	125人		
恐喝にあう不安	20代～30代	34.2	65.8	100.0	114人	2.354	p=0.308
	40代～50代	38.3	61.7	100.0	162人		
	60代	29.6	70.4	100.0	125人		
痴漢にあう不安	20代～30代	38.4	61.6	100.0	112人	6.340	p=0.042
	40代～50代	32.5	67.5	100.0	163人		
	60代	23.4	76.6	100.0	124人		
空き巣にあう不安	20代～30代	71.7	28.3	100.0	113人	0.008	p=0.996
	40代～50代	72.1	27.9	100.0	165人		
	60代	72.1	27.9	100.0	122人		
通り魔にあう不安	20代～30代	62.8	37.2	100.0	113人	2.146	p=0.342
	40代～50代	60.0	40.0	100.0	165人		
	60代	53.7	46.3	100.0	121人		
ひったくりにあう不安	20代～30代	60.5	39.5	100.0	114人	1.274	p=0.529
	40代～50代	63.8	36.2	100.0	163人		
	60代	57.3	42.7	100.0	124人		
ストーカーにあう不安	20代～30代	17.7	82.3	100.0	113人	1.079	p=0.583
	40代～50代	18.9	81.1	100.0	164人		
	60代	22.8	77.2	100.0	123人		
架空請求にあう不安	20代～30代	40.7	59.3	100.0	113人	4.622	p=0.099
	40代～50代	52.1	47.9	100.0	165人		
	60代	41.8	58.2	100.0	122人		
放火にあう不安	20代～30代	34.5	65.5	100.0	113人	0.678	p=0.712
	40代～50代	39.3	60.7	100.0	163人		
	60代	36.4	63.6	100.0	121人		
振り込め詐欺にあう不安	20代～30代	17.5	82.5	100.0	114人	12.903	p=0.002
	40代～50代	27.4	72.6	100.0	164人		
	60代	38.4	61.6	100.0	125人		
自宅などに落書きされる不安	20代～30代	14.2	85.8	100.0	113人	6.849	p=0.033
	40代～50代	25.0	75.0	100.0	164人		
	60代	15.1	84.9	100.0	126人		

2. 5 仮説検証

仮説 集合住宅の高層に住んでいる人より、低層や一戸建てに住んでいる人の方が犯罪不安が高い。

住居形態について聞いている質問の「一戸建て」と「集合住宅」という項目と、集合住宅の何階に住んでいるかについて聞いている質問の「〇〇階」という項目を変数として用いた。

仮説検証を行うために、一戸建てに住んでいる人、集合住宅の1階から4階（これを低層とする）に住んでいる人、集合住宅の5階以上（これを高層とする）に住んでいる人の3群に分け、罪種別犯罪不安とクロス集計をし、 χ^2 検定を行った。以下にある表4は、クロス集計によって5%水準で有意な差のあった結果を表している。

一戸建てに住んでいる人では、「空き巣にあう不安」が高く 78.0%であり、集合住宅の高層に住んでいる人の 58.2%より犯罪不安が高い結果となった。集合住宅の低層に住んでいる人も「空き巣にあう不安」が 71.1%と高いことから、集合住宅の高層に住んでいる人の空き巣にあう不安は低く、一戸建てや集合住宅の低層に住んでいる人の方が不安を抱いていることがわかる。

また、「放火にあう不安」と「自宅などに落書きされる不安」も一戸建てに住んでいる人の方が犯罪不安は高かった。「放火にあう不安」では、不安があると答えた一戸建ては 49.2%、低層は 28.9%、高層は 22.2%となり、集合住宅に住んでいる人よりも一戸建てに住んでいる人の方が放火にあう不安が高い。「自宅などに落書きされる不安」でも一戸建てが 25.3%、低層が 13.0%、高層が 12.2%と、「放火にあう不安」と同様に一戸建ての方が集合住宅よりも犯罪不安が高いことがわかった。

分析の結果としては、集合住宅の高層に住んでいる人よりも一戸建てに住んでいる人の方が犯罪不安が高い罪種があることが明らかになった。「空き巣に入られる不安」「放火にあう不安」「自宅などに落書きされる不安」の 3 項目において、集合住宅の高層に住んでいる人よりも一戸建てに住んでいる人の方が不安が高かった。

表3 住居形態の単純集計 単位(%)

		(度数)
一戸建て	50.3	209
低層	30.1	125
高層	19.7	82

表4 住居形態と犯罪不安 単位(%)

		不安			人数	χ^2 値	p 値
		あり	なし	計			
空き巣に入られる不安	一戸建て	78.0	22.0	100.0	200 人	11.055	0.004
	低層	71.1	28.9	100.0	121 人		
	高層	58.2	41.8	100.0	79 人		
放火にあう不安	一戸建て	49.2	50.8	100.0	195 人	23.304	<.0001
	低層	28.9	71.1	100.0	121 人		
	高層	22.2	77.8	100.0	81 人		
自宅などに落書きされる不安	一戸建て	25.3	74.7	100.0	198 人	10.421	0.006
	低層	13.0	87.0	100.0	123 人		
	高層	12.2	87.8	100.0	82 人		

2. 6 まとめ

性別では、女性の方が男性よりも犯罪不安を抱いている人が多かった。有意差がみられた罪種は、「暴力的な犯罪にあう不安」「痴漢にあう不安」「空き巣にあう不安」「通り魔にあう不安」「ひったくりにあう不安」「ストーカーにあう不安」の 6 罪種であった。

どの罪種も男性より女性の方が不安が高く、有意差がみられたのはそれらの罪種の犯罪が主に女性をターゲットにしているためではないかと私は思う。

年代別では、20 代～30 代が一番犯罪不安を多く抱いており、60 代が一番犯罪不安を抱いている人が少なかった。

年代の違いで有意差がみられた罪種は、「暴力的な犯罪にあう不安」「痴漢にあう不安」「振り込め詐欺にあう不安」「自宅などに落書きされる不安」の 4 罪種であった。「暴力的な犯罪にあう不安」「痴漢にあう不安」では 20 代～30 代が不安が高く、「振り込め詐欺にあう不安」では 60 代が不安が高く、「自宅などに落書きされる不安」では 40 代～50

代が不安が高い。これは、年齢によってそれらの犯罪のターゲットになりやすい傾向があるからではないかと思う。

住居形態では、一戸建て住宅だと空き巣、放火、自宅などに落書きされる不安が集合住宅の高層に比べて高い結果となった。

一戸建てや集合住宅の低層に住んでいる人が高層に住んでいる人よりも空き巣にあう不安が高いのは、一戸建てや集合住宅の低層だと空き巣に家の様子が伺えやすく、狙われやすいという意識が働いて不安を抱いている人が多いのではないかと思う。一戸建てに住んでいる人が放火や自宅などに落書きされる不安が集合住宅に住んでいる人よりも高いのは、家への価値意識が集合住宅に住んでいる人よりも一戸建てに住んでいる人の方が高いからではないかと私は思う。

以上のことから性別や年齢、住居形態などの基本属性が異なると抱く罪種の犯罪不安は異なることがわかった。

3. 子どもの状況・子どもに関わる不安と犯罪不安

A82083 稲阪 薫

3. 1 問題意識

私たちの生活する千葉市では小学生以下の子どもと暮らす人々がどの位住んでいるのだろうか。小学生以下の子どもと同居することで、一緒に暮らしている人々の犯罪不安に影響があるのではないだろうかを考える。子どもの状況が同居家族の犯罪不安に影響を与え同居家族の犯罪不安を高くし、結果、小学生以下の子どもと同居している人のほうが犯罪不安が高いものとなるのではないか。

以上について検証していく。

3. 2 仮説

仮説 小学生以下の子どもと同居している人の方が、同居家族の犯罪不安が高い

3. 3 仮説検証に用いた変数

独立変数として、同居する小学生以下の子どもの有無について調査した。さらに、「お住まいに小学生以下の子ども（孫も含む）がいる」と答えた人に、「小学生以下の子どもが見知らぬ人に声をかけられる不安」、「小学生以下の子どもが見知らぬ人に連れ去られそうになる不安」、「家に小学生以下の子どもだけになることがありますか」、「小学生以下の子どもが外出する際、行き先や帰宅時間を聞いていますか」、「小学生以下の子どもが見知らぬ人に声をかけられたことがありますか」と質問し、子どもの状況・子どもに関わる不安を調査し、独立変数とした。

従属変数として、同居家族の犯罪不安についての「あなたは、日頃、同居家族が犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じることはありませんか」を用いた。

このほか、周囲の小学生以下の子どもへの関心を、「あなたは、隣近所に住んでいる小学生以下の子どもを見知っていますか」、「あなたは隣近所で虐待を受けている疑いがあると思われる子どもを見かけたら、警察などに通報しますか」と質問して調査した。

（1）性別と同居する子どもの有無

同居する子どもの有無について巻末の単純集計表 J156 を参照すると、小学生以下の子どもと同居（孫も含む）している人は 20.7% であり、いない人は 76.1% であった。小学生以下の子どもと同居している人は 5 人に 1 人しかおらず、少ないことがわかった。

表 1 性別と同居する子どもの有無			単位 (%)			
	同居する子どもの有無		合計	人数	χ^2 値	P 値
	はい	いいえ				
男性	20.8	79.2	100	144	0.591	0.442
女性	24.3	75.7	100	235		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

表 1 は性別と同居する小学生以下の子どもの有無をクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果である。男性で小学生以下の子どもと同居している人は 20.8% であり、女性で小学生以下の子どもと同居している人は 24.3% であった。女性の方が小学生以下の子どもと同居している人の割合がやや高いことがわかる。統計的に有意な差はみられなかった。

（2）年代と同居する子どもの有無

年代について巻末の単純集計表 J2 を参照すると、20 歳代は 9.2%、30 歳代は 18.1%、40 歳代は 18.1%、50 歳代は 21.4%、60 歳代は 31.5% であった。一番多い年代は 60 歳代であり、一番少ないのは 20 歳代だった。

表2 年代と同居する子どもの有無

単位 (%)

	同居する子どもの有無		合計	人数	χ^2 値	P 値
	はい	いいえ				
20 代	22.2	77.8	100.0	36	67.094	<.0001***
30 代	53.5	46.5	100.0	71		
40 代	38.8	61.2	100.0	67		
50 代	5.9	94.1	100.0	85		
60 代	6.1	93.9	100.0	66		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

表2は年代と同居する小学生以下の子どもの有無をクロス集計し χ^2 検定を行った結果である。0.1%水準で有意な差がみられた。小学生以下の子どもと同居していると答えた20歳代は22.2%、30歳代は53.5%、40歳代は38.8%、50歳代は5.9%、60歳代は6.1%であった。30歳代が53.5%と、小学生以下の子どもと同居している人は2人に1人であり、60歳代では6.1%と大きな差がある。

(3) 同居する子どもの有無と近所の子どもへの関心

近所の子どもを見知っているかについて巻末の単純集計表E10を参照すると、「よく知っている」8.2%、「まあまあ知っている」30.0%、「あまり知らない」41.3%、「全く知らない」18.8%であった。「あまり知らない」「全く知らない」と答えた人は合計で60.1%であり、多くの人が近所に住んでいる小学生以下の子どもを知らないと答えている。

また、虐待について通報するかについて巻末の単純集計表E12を参照すると、「積極的にする」17.8%、「なるべくする」55.4%、「あまりしない」20.4%、「全くしない」4.9%であった。「積極的にする」「なるべくする」と答えた人の合計は73.2%であり、ほとんどの人が通報すると答えている。

表3 同居する子どもの有無と近所の子どもを知っているか

単位 (%)

	近所の子ども		合計	人数	χ^2 値	P 値
	知っている	知らない				
同居する	いる	67.8	32.2	100.0	32.587	<0.001***
子どもの有無	いない	33.5	66.6	100.0		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

表3は同居する小学生以下の子どもの有無と、近所の子どもを見知っているかについて尋ねた質問をクロス集計し、 χ^2 検定を行ったものである。0.1%水準で有意差があった。子どもが「いる」と答えた人で近所の子どもを「知っている」と答えた人は67.8%で、子どもが「いない」と答えた人の33.5%よりも高いことがわかった。

子どもと同居している人の方が近所の子どもを見知っていることがわかる。

表4 同居する子供の有無と虐待を通報するか

単位 (%)

	通報		合計	人数	χ^2 値	P 値
	する	しない				
同居する	いる	75.6	24.4	100.0	0.000	0.984
子どもの有無	いない	75.7	24.3	100.0		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

表4は同居する子どもの有無と、「あなたは隣近所で虐待を受けている疑いがあると思われる子どもを見かけたら、警察などに通報しますか」と尋ねた質問をクロス集計し、 χ^2 検定を行ったものである。5%水準では統計的に有意な差がみられなかった。子どもが「いる」と答えた人で「通報する」と答えた人は75.6%であり、「いない」と答えた人で「通報する」と答えた人は75.7%であった。

(4) 子どもに関わる不安・子供の状況と同居する子どもの有無

子どもに関わる不安・子どもの状況を、性別でクロス集計し、 χ^2 検定を行ったところ、5%水準で統計的に有意な差はみられなかった。子どもに関わる不安・子どもの状況と性別は関連がみられなかった。

表 5 年代と子どもに関する不安・子どもの状況					単位 (%)	
	声をかけられる不安		合計	人数	χ^2 値	P 値
	あり	なし				
20 代	87.5	12.5	100.0	8	1.600	not valid
30 代	92.1	7.9	100.0	38		
40 代	88.5	11.5	100.0	26		
50 代	80.0	20.0	100.0	5		
60 代	75.0	25.0	100.0	4		
***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05						

表 6 年代と子どもに関する不安・子どもの状況					単位（％）	
	連れ去られそうになる不安		合計	人数	χ^2 値	P 値
	あり	なし				
20 代	87.5	12.5	100.0	8	1.521	not valid
30 代	91.9	8.1	100.0	37		
40 代	88.5	11.5	100.0	26		
50 代	80.0	20.0	100.0	5		
60 代	75.0	25.0	100.0	4		
***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05						

表 7 年代と子どもに関する不安・子どもの状況					単位 (%)	
	子どもだけになる		合計	人数	χ^2 値	P 値
	あり	なし				
20 代	0.0	100.0	100.0	8	17.126	not valid
30 代	31.6	68.4	100.0	38		
40 代	65.4	34.6	100.0	26		
50 代	20.0	80.0	100.0	5		
60 代	0.0	100.0	100.0	4		
***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05						

表 8 年代と子どもに関する不安・子どもの状況					単位（％）	
	行き先を聞いている		合計	人数	χ^2 値	P 値
	はい	いいえ				
20 代	28.6	71.4	100.0	7	27.164	not valid
30 代	96.9	3.1	100.0	32		
40 代	92.0	8.0	100.0	25		
50 代	100.0	0.0	100.0	5		
60 代	66.7	33.3	100.0	3		
***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05						

表 9 年代と子どもに関する不安・子どもの状況

単位 (%)

	声をかけられた		合計	人数	χ^2 値	P 値
	はい	いいえ				
20 代	50.0	50.0	100.0	7	2.264	not valid
30 代	27.3	72.7	100.0	32		
40 代	42.3	57.7	100.0	25		
50 代	40.0	60.0	100.0	5		
60 代	33.3	66.7	100.0	3		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

表 5 は子どもに関わる不安・子どもの状況の「声をかけられる不安」について、表 6 は「連れ去られそうになる不安」、表 7 は「子どもだけになる」、表 8 は「子どもに行き先を聞くか」、表 9 は「声をかけられた」について、それぞれ年代とクロス集計し、 χ^2 検定を行ったものである。

表 10 子どもに関わる不安・子どもの状況と近所の子どもへの関心

単位 (%)

		見知っているか		合計	人数	χ^2 値	P 値
		はい	いいえ				
見知らぬ人に声をかけられる不安	ある	70.1	29.9	100.0	77	2.421	not valid
	ない	44.4	55.6	100.0	9		
見知らぬ人に連れ去られそうになる不安	ある	69.7	30.3	100.0	76	0.747	not valid
	ない	55.6	44.4	100.0	9		
子供だけになる	ある	87.1	12.9	100.0	31	8.528	0.004***
	ない	56.4	43.6	100.0	55		
行先や帰宅時刻を聞いている	ある	68.2	31.8	100.0	66	0.568	not valid
	ない	55.6	44.4	100.0	9		
見知らぬ人に声をかけられた	ある	75.0	25.0	100.0	28	1.230	0.268
	ない	62.8	37.3	100.0	51		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

表 10 は子どもに関わる不安・子どもの状況と、近所の子どもへの関心についてクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果である。「子どもだけになる」ことのみ、0.1%水準で統計的に有意な差がみられた。子どもだけになることがある人のほうが、近所の子どもを見知っており、子どもへの関心が高いといえる。

表 11 子供に関わる不安・子どもの状況と虐待を通報するか

単位 (%)

		通報するか		合計	人数	χ^2 値	P 値
		する	しない				
見知らぬ人に声をかけられる不安	ある	75.0	25.0	100.0	76	0.033	not valid
	ない	77.8	22.2	100.0	9		
見知らぬ人に連れ去られそうになる不安	ある	75.0	25.0	100.0	76	0.033	not valid
	ない	77.8	22.2	100.0	9		
子供だけになる	ある	74.2	25.8	100.0	31	0.032	0.859
	ない	75.9	24.1	100.0	55		
行先や帰宅時刻を聞いている	ある	74.2	25.8	100.0	66	0.232	not valid
	ない	66.7	33.3	100.0	9		
見知らぬ人に声をかけられた	ある	78.6	21.4	100.0	28	0.590	0.442
	ない	70.6	29.4	100.0	51		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

表 11 は子どもに関わる不安・子どもの状況と「あなたは隣近所で虐待を受けていると思われる子どもをみかけたら、警察などに通報するか」とをクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果である。どの項目も、5%水準では統計的に有意な差がえられなかった。

3. 4 仮説検証

表 12 同居する子どもの有無と同居家族の犯罪不安

単位 (%)

		同居家族不安		合計	人数	χ^2 値	P 値
		不安あり	不安なし				
小学生以下の子どもの有無	はい	82.8	17.2	100.0	87	6.534	0.011*
	いいえ	68.7	31.3	100.0	291		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

表 12 は同居する子どもの有無と、同居家族についての犯罪不安をクロス集計した結果である。 χ^2 検定を行ったところ、5%水準で統計的に有意な差がみられた。「お住まいに小学生以下の子ども（孫も含む）がいる」を「はい」と答えた人で、同居家族が犯罪の被害にあうのではないかと感じている人は 82.8%、「いいえ」と答えた人は 68.7%であり、子どもと同居している人ほど同居家族についての犯罪不安は高いものとなっている。

3. 5 考察

同居する小学生以下の子どもの有無と同居家族の犯罪不安では、統計的に有意な差がみられた。小学生以下の子どもと同居している人は同居家族が犯罪にあうのではないかと強く感じており、仮説は検証された。小学生以下の子どもと同居している人は同居家族の犯罪不安が高いのは、小学生以下の子どもと同居していることによって同居家族の犯罪不安が高められているといえるのではないだろうか。

5章 犯罪不安をもたらす要因

1. 地域のつながりと犯罪不安

A82005 江口 芙美

1. 1 問題意識

最近、「隣近所にどんな人物が住んでいるのかわからない」、そんな話をニュースでたびたび聞くようになった。どんな人物が、どんな生活をしているのか分からない。隣に人が住んでいるのかさえ、わからない。このような状況で、日々の生活をしている人は、昔に比べて、多いように思う。一方で、今もなお、自分の住んでいる地域とのつながりを大切にしている人たちも、存在しているだろう。

一見すると、地域とのつながりが希薄な地域に住んでいる人々の方が、日頃、自身が犯罪にあうのでは、という不安を抱えて生きているように思う。しかし実際はどうなのだろうか。地域とのつながりをたくさん持つがゆえに、トラブルや犯罪に巻き込まれるのでは、という不安を持つ人もいるかもしれない。

人々が日々の生活の中でより多くの犯罪不安を覚えるのは、どちらの状況であるのか、今回私は「地域とのつながりが密接な人ほど、犯罪不安が少ない」という仮説を立て、検証する。

1. 2 仮説

地域とのつながりが密接な人ほど、犯罪不安が低い。

1. 3 仮説検証に使用する質問の単純集計結果

(1) 地域とのつながり（独立変数）

地域とのつながりを調べるために、「あなたの家庭は、自治会・町内会に加入していますか」、「あなた、または同居の家族は隣近所の人が亡くなった時、お葬式に参列することがありますか」、「あなたの家には回覧板が回ってきますか」、「あなたは隣近所に住んでいる小学生以下の子供を見知っていますか」という4つの質問を用いた。

自治会・町内会に「加入している」と答えたのは全体の77.9%、「近所の人のお葬式に参列することがありますか」の質問では、「ほとんど参列している」「たいてい参列している」を合わせて49.0%、「回覧板が回ってきますか」の質問に、「回ってくる」と答えたのは74.6%であった。また、「隣近所に住んでいる小学生以下の子供を見知っていますか」の質問に、「よく知っている」「まあまあ知っている」と答えたのは合わせて38.2%となった。

(2) 犯罪不安（従属変数）

犯罪不安を調べるために、「あなたは日頃、ご自身が犯罪の被害にあうのではないかと、不安になることがありますか」「あなたは日頃、同居の家族が犯罪の被害にあうのではないかと、不安になることがありますか」「あなたは夜11時を過ぎてから、住んでいる地域を1人で歩いているとき、犯罪にあう不安をどの程度感じていますか」という3つの質問を用いた。

自身の犯罪不安について「よくある」「たまにある」と答えた人は合わせて56.5%と半数以上であり、同居家族が犯罪の被害にあう不安が「よくある」「たまにある」と答えた人は合わせて66.0%と、自身の感じている犯罪不安を上回った。また、「夜11時以降の外出時、犯罪にあう不安」についての質問で「非常に不安」「ある程度不安」と答えたのは合わせて50.5%であり、この質問に対して「出歩かない」と答えた人の割合が18.3%おり、夜の一人歩き不安でもまた、犯罪不安を感じている人は、全体の半数以上に上ることが分かる。

1. 4 仮説の検証

(1) 地域とのつながりと犯罪不安

「地域とのつながり」を測定する4つの質問と「一般的犯罪不安」、「同居家族の犯罪不安」、「夜の一人歩き犯罪不安」の3つの質問をそれぞれクロス集計し、 χ^2 検定を行った。その際、すべての質問項目の回答を4件法から2件法に統合した。12通りのクロス集計のうち、10%水準で統計的に有意な傾向差が見られた結果を、表1に示す。

隣近所の人がなくなったとき、「葬儀に参列する」と答えた人は「参列しない」と答えた人に比べて不安が少なく、「参列しない」と答えた人のほうが一般的犯罪不安が高いという結果が見られた(表1)。

隣近所の人が亡くなったとき、「葬儀に参列する」と答えた人は「参列しない」と答えた人に比べ、11時以降に近所を1人で出歩くことに不安を感じている人は少なかった(表1)。

近所に住む小学生以下の子供を「見知っている」と答えた人は「知らない」と答えた人に比べて、不安が高いという結果が見られた(表1)。

近所に住む小学生以下の子供を「見知っている」と答えた人は「知らない」と答えた人に比べて「同居家族が犯罪にあうのでは」という不安を感じている人の割合が大きい(表1)。

私の立てた仮説とは逆方向での有意な関連が見られる結果となった。そこで、「自身に子供がいる人ほど、近所の子供を知っている」という仮説を立てクロス集計を行った。その結果、仮説通りの方向で0.1%水準で有意な差が見られた。次に、「未成年の子供がいる人は、犯罪不安が高い傾向がある」という仮説を立てクロス集計を行った。結果、一般的犯罪不安、同居家族犯罪不安ともに仮説通りの方向で5%水準で有意な差が見られた。

しかし、小学生以下の子供との同居の有無、近所の子供認知、各犯罪不安で二重クロス集計をした結果、有意差は見られなかった。

よって、近所に住む子供を「見知っている」と答えた人の方が犯罪不安が高いという結果は見せかけの関連であることがわかった。

表1 地域とのつながりと犯罪不安

	葬儀参列	あり	なし			χ^2 値	p値
一般的犯罪不安	する	53.7	46.3	100.0	205人	2.823	p=0.090
	しない	61.8	38.2	100.0	207人		
夜の一人歩き不安	する	57.9	42.1	100.0	214人	4.375	p=0.030
	しない	68.9	31.1	100.0	124人		

	近所の子供認知	あり	なし			χ^2 値	p値
一般的犯罪不安	知っている	64.2	35.8	100.0	159人	4.009	p=0.040
	知らない	54.2	45.8	100.0	253人		
同居家族の犯罪不安	知っている	79.8	20.2	100.0	158人	7.403	p=0.006
	知らない	67.1	32.9	100.0	225人		

(2) 地域とのつながりと罪種別犯罪不安

次に、「地域とのつながり」の質問項目である、「あなたの家族は、自治会・町内会に加入していますか」、「あなた、または同居の家族は、地域の住民団体に所属していますか」、「あなた、または同居の家族は、隣近所の人亡くなった時、お葬式に参列することがあります」、「あなたの家には回覧板が回ってきますか」、「あなたが困っているとき、地域に助けてくれる人はいますか」、「あなたの隣近所に住む人たちは、お互いに交流しているほうだと思いますか」、「もし、近所で何か問題が起きた場合、住民や自治会などで解決ができると思いますか」、「もし、近所で困っている人がいたら、たとえばあまり話したことがない人でも声をかけることができますか」、「あなたは、隣近所に住んでいる小学生以下の子どもを見知っていますか」の9つの質問と「罪種別犯罪不安」の12項目の質問をそれ

ぞれクロス集計し、 χ^2 検定を行った。その際、すべての質問項目に対しての回答を4件法から2件法に統合した。計108通りのクロス集計のうち、5%水準で統計的に有意な差が見られた結果のみを、表2～7に示す。

表2から、以下のことが読み取れる。自宅に回覧板が「回ってくる」と答えた人は「回ってこない」と答えた人に比べて悪徳商法にあうのではという不安を感じている人が多い。

自宅に回覧板が「回ってこない」と答えた人は「回ってくる」と答えた人に比べて通り魔にあうのではという不安を感じている人が多い。

自宅に回覧板が「回ってくる」と答えた人は「回ってこない」と答えた人に比べて放火にあうのではという不安を感じている人が多い。

自宅に回覧板が「回ってくる」と答えた人は「回ってこない」と答えた人に比べて振り込め詐欺にあうのではという不安を感じている人が多い。

自宅に回覧板が「回ってくる」と答えた人は「回ってこない」と答えた人に比べて自宅などに落書きされるのではという不安を感じている人が多い。

表3から、隣近所の人が亡くなった際、葬儀に「参列しない」と答えた人は「参列する」と答えた人に比べ暴行などの暴力的な犯罪にあうのではという不安を感じている人が多い。

隣近所の人が亡くなった際、葬儀に「参列しない」と答えた人は「参列する」と答えた人に比べて痴漢にあうのではという不安を感じている人が多い。

隣近所の人が亡くなった際、葬儀に「参列しない」と答えた人は「参列する」と答えた人に比べて通り魔にあうのではという不安を感じている人が多い。

近所の人が亡くなった際、葬儀に「参列しない」と答えた人は「参列する」と答えた人に比べてひったくりにあうのではという不安を感じている人が多い。

隣近所の人が亡くなった際、葬儀に「参列する」と答えた人は「参列しない」と答えた人に比べて放火にあうのではという不安を感じている人が多い。ただし、これは住居形態（一戸建てか集合住宅か）の違いによる見せかけの関連であろう。

表2 回覧板の有無と罪種別不安

	回覧板					χ^2 値	p 値
		あり	なし				
悪徳商法にあう不安	回る	41.9	58.1	100.0	303 人	5.285	p=0.020
	回らない	29.0	71.0	100.0	100 人		
通り魔にあう不安	回る	56.0	44.0	100.0	302 人	4.996	p=0.030
	回らない	68.7	31.3	100.0	99 人		
放火にあう不安	回る	40.7	59.3	100.0	300 人	6.692	p=0.030
	回らない	28.3	71.7	100.0	99 人		
振り込め詐欺にあう不安	回る	32.5	67.5	100.0	305 人	8.805	p=0.003
	回らない	17.0	83.0	100.0	100 人		
落書きにあう不安	回る	21.6	78.4	100.0	305 人	6.692	p=0.009
	回らない	10.0	90.0	100.0	100 人		

表3 葬儀参列と罪種別犯罪不安

	葬儀参列					χ^2 値	p 値
		あり	なし				
暴力的犯罪不安	する	42.2	57.8	100.0	199 人	11.789	p=0.001
	しない	59.3	40.7	100.0	204 人		
痴漢にあう不安	する	27.1	72.9	100.0	199 人	3.891	p=0.049
	しない	36.3	63.7	100.0	201 人		
通り魔にあう不安	する	51.5	48.5	100.0	198 人	9.080	p=0.003
	しない	66.3	33.7	100.0	202 人		
ひったくりにあう不安	する	53.5	64.5	100.0	198 人	8.172	p=0.004
	しない	67.5	32.5	100.0	203 人		
放火にあう不安	する	43.2	56.8	100.0	197 人	4.949	p=0.030
	しない	32.3	67.6	100.0	201 人		

表 4 からは、自分の住んでいる地域の人たちは、お互いに「交流をしていない」と答えた人は「交流しているほうだ」と答えた人に比べて暴行などの暴力的犯罪にあうのではという不安を感じている人が多い。

自分の住んでいる地域の人たちは、お互いに「交流をしていない」と答えた人は「交流しているほうだ」と答えた人に比べて通り魔にあうのではという不安を感じている人が多い。

自分の住んでいる地域の人たちは、お互いに「交流をしていない」と答えた人は「交流しているほうだ」と答えた人に比べてひったくりにあうのではという不安を感じている人が多い。

表 4 地域との交流と罪種別犯罪不安

	地域との交流					χ^2 値	p 値
		あり	なし				
暴力的犯罪不安	あり	46.1	53.9	100.0	256 人	6.042	p=0.010
	なし	58.8	41.2	100.0	148 人		
通り魔にあう不安	あり	53.4	46.6	100.0	253 人	9.352	p=0.002
	なし	68.9	31.1	100.0	148 人		
ひったくりにあう不安	あり	55.9	44.1	100.0	254 人	7.362	p=0.006
	なし	69.6	30.4	100.0	148 人		

表 5 からは、地域の住民団体に「所属していない」と答えた人は「所属している」と答えた人に比べて暴行などの暴力的な犯罪にあうのではという不安を感じている人が多い。

表 6 からは、もしも近所で何か問題が起きた時、住民や自治会などで解決が「できないと思う」と答えた人は「できると思う」と答えた人に比べて暴行などの暴力的犯罪にあうのではという不安を感じている人が多い。

表 7 からは、自治会・町内会に「参加している」と答えた人は「参加していない」と答えた人に比べて自宅などに落書きされるのではという不安を感じている人が多い。

表 5 住民団体所属と罪種別犯罪不安

	住民団体					χ^2 値	p 値
		あり	なし				
暴力的犯罪不安	所属	43.6	56.4	100.0	149 人	4.611	p=0.030
	無所属	54.7	45.3	100.0	256 人		

表 6 住民解決と罪種別犯罪不安

	住民解決					χ^2 値	p 値
		あり	なし				
暴力的犯罪不安	できる	43.5	56.5	100.0	161 人	5.651	p=0.020
	できない	55.6	44.4	100.0	243 人		

表 7 自治会・町内会参加と罪種別犯罪不安

	自治会					χ^2 値	p 値
		あり	なし				
落書きにあう不安	参加	21.3	78.7	100.0	320 人	6.174	p=0.010
	非参加	9.4	90.6	100.0	85 人		

1. 5 まとめと考察

以上の分析の結果、隣近所の人々が亡くなったとき、「葬儀に参列する」と答えた人は犯罪不安が低いということが明らかになった。

また、罪種別犯罪不安については、地域とのつながりが密接な人ほど不安が軽減する罪種（たとえば暴力的犯罪不安や通り魔にあう不安）、地域とのつながりが密接であるがゆえに不安が増す罪種（たとえば放火にあう不安や自宅などへ落書きされるのではという不安）、そして地域とのつながりとはあまり関連がない罪種の 3 つに区分できそうであることが分かった。

地域とのつながりと罪種別犯罪不安をクロス集計した結果、計 108 通りのクロス集計のうち、統計的に有意な差が見られたのは 16 のクロス集計であった。うち、「隣近所の人

葬儀参列」に関する集計が5個、「自宅への回覧板の有無」についての表が5個と、考察をするにあたって軸になりそうな2つが浮び上がった。葬儀に「参列する」と答えた人は「参列しない」と答えた人に比べて犯罪不安が少ないということは、最初の分析で明らかになった。葬儀に「参列する」と答えた人は「参列しない」と答えた人に比べて暴力的犯罪不安、通り魔犯罪不安、痴漢犯罪不安、ひったくり犯罪不安が少ないという結果からもそのことがうかがえる。

また、自宅に回覧板が「回ってくる」と答えた人は「回ってこない」と答えた人に比べて悪徳商法にあうのではという不安、放火にあう不安、自宅などへの落書きをされるのではという不安を感じている人が多いという結果が得られた。しかし、回覧板が「回ってくる」と答えた人は「回ってこない」と答えた人に比べて、通り魔にあうのではという不安を感じている人が少ないという結果が得られた。この結果から、地域とのつながりが密接な人ほど不安が軽減する罪種と、地域とのつながりが密接であるがゆえに不安が増してしまう罪種があるということが明らかになった。

2. 社会的環境と犯罪不安

A82131 簾 由佳

2. 1 問題意識とテーマ

日々、犯罪のニュースは後を絶たない。例えば無差別殺傷事件が起こるなど、いつ犯罪に巻き込まれてもおかしくない状況になっている。このような犯罪がもし自宅周辺で起きたらと考えると恐ろしい。また、公園などの身近にある施設も、子ども達が安心して遊べる空間ではなく、若者が集まって夜遊びをするなどの行為が頻繁に起こるような場所になってしまっている。自宅周辺の施設（カラオケ店や居酒屋など）によって生活が便利で快適なものとなるが、反対に犯罪を引き起こすリスクも高めているのではないか。

そこで、自宅周辺にある建物や施設（カラオケ店や居酒屋など）は犯罪不安にどのような影響を与えているのか。また、自宅周辺の迷惑行為やマナー違反をしている人の存在は、犯罪不安を高めているのではないか。このような社会的環境に着目し、犯罪不安との関連を検証する。

2. 2 仮説

- I 自宅周辺に人が集まる施設がある人ほど、犯罪不安が高い
- II 自宅周辺で迷惑行為があると感じる人ほど、犯罪不安が高い

2. 3 仮説検証のために使用した変数

(1) 自宅周辺の人の集まる施設の有無（独立変数）

自宅周辺の人の集まる施設の有無については、「あなたの自宅周辺に以下の施設や建物がありますか」という質問を用いた。「すべてない」を除く6項目を使用した。人がよく集まると考えられる「カラオケ店」は25.4%、「パチンコ店」は34.3%、「居酒屋」は63.5%、「漫画喫茶・ネットカフェ」は9.3%の人が自宅周辺に「ある」と回答していた（表1）。

表1 自宅周辺の施設の有無	単位(%)		
	ある	ない	計
1) 交番	53.7	46.3	100.0 (417人)
2) カラオケ店	25.4	74.6	100.0 (417人)
3) パチンコ店	34.3	65.7	100.0 (417人)
4) 居酒屋	63.5	36.5	100.0 (417人)
5) 漫画喫茶・ネットカフェ	9.3	90.7	100.0 (417人)
6) 見通しの悪い公園	36.7	63.3	100.0 (417人)

(2) 自宅周辺の迷惑行為の有無（独立変数）

自宅周辺での迷惑行為の有無については、「あなたの自宅周辺に以下のような人や状況を見たり聞いたりすることがありますか」という質問を用いた。4件法の「よくある」「たまにある」を“ある”と、「あまりない」「まったくない」を“ない”にカテゴリー統合した（表2）。

その結果、自宅周辺の迷惑行為で「歩きタバコをしている人を見かける」は74.2%で一番多く、「コンビニエンスストアにたむろしている若者を見かける」は53.2%、「バイクを乗り回している」は52.3%と5割を超えていた。反対に、「入れ墨やタトゥーの人を見かける」は20.3%、「暴力団と付き合いのある人を見かける」は6.8%であり、自宅周辺で見かけることは少ないという傾向がみられた。

表2 自宅周辺の迷惑行為	単位(%)		
	ある	ない	計
1) 入れ墨やタトゥーの人を見かける	20.3	79.7	100.0 (418人)
2) 暴力団と付き合いのある人を見かける	6.8	93.2	100.0 (415人)
3) 歩きタバコをしている人を見かける	74.2	25.8	100.0 (418人)
4) 道端にたむろしている若者を見かける	48.1	51.9	100.0 (418人)
5) コンビニエンスストアにたむろしている若者を見かける	53.2	46.8	100.0 (419人)
6) 夜に騒ぎ声をする	43.7	56.3	100.0 (419人)
7) 夜に若者が集まっている	31.9	68.1	100.0 (417人)
8) バイクを乗り回している	52.3	47.7	100.0 (419人)
9) 酔っ払いがいる	30.3	69.7	100.0 (419人)

（３）本人の犯罪不安（従属変数）

本人の犯罪不安を調べるために「あなたは、日頃、ご自身が犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じることがありますか」という質問を用いた。４件法の「よくある」「たまにある」を“不安あり”に、「ほとんどない」「全くない」を“不安なし”にカテゴリー統合した。その結果、「不安あり」は 57.5%、「不安なし」は 42.5%であり、犯罪不安がある人の方が多いことがわかる。

また、本人の犯罪不安が高くなるのはどのような人たちなのか、性別、年代別と本人の犯罪不安をクロス集計し、関連をみた。その結果、男性より女性の方が犯罪不安が高い傾向がみられ、また 20 代～50 代で犯罪不安が 6 割を超えていた（４章の 2 参照）。以上のことから、本人の犯罪不安には、性別が特に影響しているといえる。

（４）同居家族への犯罪不安（従属変数）

同居の家族が被害にあう不安を調べるために「あなたは、日頃、同居の家族が犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じることがありますか」という質問を用いた。５件法の「よくある」「たまにある」を“同居家族不安あり”に、「ほとんどない」「全くない」を“同居家族不安なし”にカテゴリー統合し、「同居家族はいない」を欠損値として処理した。「同居家族不安あり」は 72.1%、「同居家族不安なし」は 27.9%で、約 7 割の人が同居家族への犯罪不安があるという結果であった。

そして、同居家族への犯罪不安が高くなるのはどのような人たちなのか、性別、年代別、同居している小学生以下の子どもの有無と同居家族への犯罪不安をクロス集計し、関連をみた。その結果、男性より女性で、また 40 代～50 代、そして同居している子どもがいる人の方が同居家族への犯罪不安が高い傾向がみられた（４章の 3 参照）。以上のことから、同居家族への犯罪不安は女性や子供を持つ家族の不安が高く、子どもに対する犯罪不安が関連していると考えられる。

（５）夜の 1 人歩きの犯罪不安（従属変数）

夜の 1 人歩きの犯罪不安を調べるために「あなたは夜 11 時を過ぎてから、住んでいる地域を 1 人で歩いているとき、犯罪にあう不安をどの程度感じていますか」という質問を用いた。５件法の「非常に不安を感じる」「ある程度不安を感じる」を“夜の 1 人歩き不安あり”に、「あまり不安を感じない」「全く不安を感じない」を“夜の 1 人歩き不安なし”にカテゴリー統合し、「出歩かないからわからない」を欠損値として処理した。「夜の 1 人歩き不安あり」は 63.1%、「夜の 1 人歩き不安なし」は 36.9%で約 6 割の人が夜の 1 人歩きに不安を感じていることがわかった。

そして、夜の 1 人歩きの犯罪不安が高くなるのはどのような人たちなのか、性別、普段の帰宅時間と夜の 1 人歩きの犯罪不安をクロス集計し、関連をみた。その結果、女性の方が圧倒的に夜の 1 人歩きの犯罪不安が高い傾向がみられた。帰宅時間については、普段の帰宅時間を“20 時前”“20 時以降”“ほとんど家にいる”にカテゴリー統合し、「その他」を欠損値として処理した。その結果、帰宅時間が 20 時前やほとんど家にいる人の方が、帰宅時間が 20 時以降の人より夜の 1 人歩きの犯罪不安が高い傾向がみられた。また、夜の 1 人歩きの不安がある人の方が、帰宅時間が 20 時前やほとんど家にいると回答した人が多かったことから、不安がある人の方が早く帰宅していると考えられる。以上のことから、夜の 1 人歩きの不安は、女性と夜という状況が不安を高めていると考えられる。

2. 4 仮説の検証

仮説を検証するために、「自宅周辺の施設の有無」（仮説Ⅰ）と「自宅周辺の迷惑行為」（仮説Ⅱ）を独立変数とし、「本人の犯罪不安」、「同居家族への犯罪不安」、「夜の 1 人歩きの犯罪不安」の 3 項目を従属変数としてそれぞれクロス集計し、 χ^2 検定を行った。また、女性を対象とした先行研究（吉井ほか,2002）との比較を行うため、女性に限定した集計も行った（それぞれ結果は表 3～10 に示す）。ただし、この先行研究では社会的環境ではなく物的環境と不安の関係を把握することを目的としているため、厳密な比較はできないので参考として扱う。

(1) 仮説Ⅰの検証

①人の集まる施設の有無と本人の犯罪不安との関連

表3 自宅周辺の施設の有無と本人の犯罪不安のクロス集計

		不安あり	不安なし	合計	人数	χ^2 値	p 値
交番	ある	60.2	39.8	100.0	221	1.607	p=0.204
	ない	54.0	46.0	100.0	189		
カラオケ店	ある	46.2	53.8	100.0	106	7.188	p=0.007
	ない	61.2	38.8	100.0	304		
パチンコ店	ある	52.5	47.5	100.0	141	2.053	p=0.151
	ない	59.9	40.1	100.0	269		
居酒屋	ある	54.8	45.2	100.0	263	1.972	p=0.160
	ない	61.9	38.1	100.0	147		
漫画喫茶・ネットカフェ	ある	43.6	56.4	100.0	39	3.320	p=0.068
	ない	58.8	41.2	100.0	371		
見通しの悪い公園	ある	61.3	38.7	100.0	150	1.560	p=0.211
	ない	55.0	45.0	100.0	260		

クロス集計し（表3）、 χ^2 検定した結果、「カラオケ店」は「本人の犯罪不安」と1%水準で統計的に有意な関連がみられ、カラオケ店が自宅周辺にある人の方が犯罪不安が低いといえる。カラオケ店は幅広い世代に利用される娯楽施設であるため、犯罪不安を低めているのではない。

表4 自宅周辺の施設の有無と本人の犯罪不安（女性のみ）のクロス集計

		不安あり	不安なし	合計	人数	χ^2 値	p 値
交番	ある	70.4	29.6	100.0	125	4.658	p=0.030
	ない	57.3	42.7	100.0	124		
カラオケ店	ある	51.9	48.1	100.0	52	4.054	p=0.044
	ない	67.0	33.0	100.0	197		
パチンコ店	ある	60.5	39.5	100.0	76	0.525	p=0.468
	ない	65.3	34.7	100.0	173		
居酒屋	ある	64.0	36.1	100.0	147	0.001	p=0.971
	ない	63.7	36.3	100.0	102		
漫画喫茶・ネットカフェ	ある	52.6	47.4	100.0	19	1.122	p=0.289
	ない	64.8	35.2	100.0	230		
見通しの悪い公園	ある	66.3	33.7	100.0	98	0.427	p=0.513
	ない	62.2	37.8	100.0	151		

表4は女性に限定してクロス集計した結果である。 χ^2 検定の結果、「交番」「カラオケ店」は「本人の犯罪不安」と5%水準で統計的に有意な関連がみられ、交番が自宅周辺にある人の方が犯罪不安が高く、反対に女性に限定してもカラオケ店が自宅周辺にある人の方が犯罪不安が低いといえる。交番は犯罪と密接に関わっている施設であるため不安が高くなったのではない。

②人の集まる施設の有無と同居家族への犯罪不安との関連

表5 自宅周辺の施設の有無と同居家族への犯罪不安のクロス集計

		同居家族 不安あり	同居家族 不安なし	合計	人数	χ^2 値	p 値
交番	ある	71.4	28.6	100.0	206	0.019	p=0.890
	ない	72.0	28.0	100.0	175		
カラオケ店	ある	63.9	36.1	100.0	97	3.834	p=0.050
	ない	74.3	25.7	100.0	284		
パチンコ店	ある	68.2	31.8	100.0	132	1.199	p=0.273
	ない	73.5	26.5	100.0	249		
居酒屋	ある	69.8	30.2	100.0	242	1.080	p=0.298
	ない	74.8	25.2	100.0	139		
漫画喫茶・ネットカフェ	ある	60.6	39.4	100.0	33	2.171	p=0.140
	ない	72.7	27.3	100.0	348		
見通しの悪い公園	ある	80.0	20.0	100.0	150	7.591	p=0.005
	ない	66.8	33.2	100.0	241		

クロス集計し（表5）、 χ^2 検定した結果、「見通しの悪い公園」では1%水準で「同居家族への犯罪不安」と統計的に有意な関連がみられ、見通しの悪い公園が自宅周辺にある人の方が同居家族への犯罪不安が高いといえる。

また、女性に限定してクロス集計した結果では、「交番」「見通しの悪い公園」は自宅周辺にある人の方が同居家族への犯罪不安が高い傾向がみられたが、「カラオケ店」「パチンコ店」「居酒屋」「漫画喫茶・ネットカフェ」は自宅周辺にある人の方が同居家族への犯罪

不安が低い傾向がみられた。 χ^2 検定した結果、「カラオケ店」「見通しの悪い公園」は「同居家族への犯罪不安」と5%水準で統計的に有意な関連がみられ、カラオケ店が自宅周辺にある人の方が同居家族への犯罪不安が低く、反対に見通しの悪い公園が自宅周辺にある人の方が同居家族への犯罪不安が高いといえる。

③人の集まる施設の有無と夜の1人歩きの犯罪不安との関連

表6 自宅周辺の施設の有無と夜の1人歩きの犯罪不安のクロス集計

		夜の一人歩き 不安あり	夜の一人歩き 不安なし	合計	人数	χ^2 値	p 値
交番	ある	61.8	38.2	100.0	178	0.404	p=0.525
	ない	65.2	34.8	100.0	155		
カラオケ店	ある	50.0	50.0	100.0	84	8.642	p=0.003
	ない	67.9	32.1	100.0	249		
パチンコ店	ある	57.9	42.1	100.0	114	2.233	p=0.135
	ない	66.2	33.8	100.0	219		
居酒屋	ある	59.0	41.0	100.0	210	4.562	p=0.032
	ない	70.7	29.3	100.0	123		
漫画喫茶・ネットカフェ	ある	56.8	43.2	100.0	37	0.783	p=0.376
	ない	64.2	35.8	100.0	296		
見通しの悪い公園	ある	67.7	32.3	100.0	130	1.722	p=0.189
	ない	60.6	39.4	100.0	203		

クロス集計（表6）し、 χ^2 検定した結果、「カラオケ店」は1%水準で、「居酒屋」は5%水準で「夜の1人歩きの不安」と統計的に有意な関連がみられた。自宅周辺にカラオケ店や居酒屋がある人の方が夜の1人歩きの不安が低いといえる。

また、女性に限定してクロス集計した結果では、「交番」「居酒屋」「見通しの悪い公園」は自宅周辺にある人の方が夜の1人歩きの不安が高い傾向がみられたが、「カラオケ店」「パチンコ店」「漫画喫茶・ネットカフェ」は自宅周辺にある人の方が1人歩きの不安が低い傾向がみられた。しかし統計的に有意な関連はみられなかった。

④仮説Ⅰ（女性を対象とした集計）と先行研究の比較

先行研究（吉井ほか,2002）では、犯罪にあいそうになっても誰かに助けてもらえるだろうなど、犯罪抑制者の存在を予測・確認できる場合や「街灯で明るい」など場所・モノの関係によって安心感が高まるという結果が得られている。今回、調査の女性に限定した集計でも人の集まる施設が自宅周辺にある人ほど犯罪不安が低くなるという結果であった。

（2）仮説Ⅱの検証

①迷惑行為の有無と本人の犯罪不安との関連

表7 自宅周辺の迷惑行為と本人の犯罪不安のクロス集計

		不安あり	不安なし	合計	人数	χ^2 値	p 値
入れ墨やタトゥーの人を見かける	ある	69.0	31.0	100.0	84	5.604	p=0.017
	ない	54.7	45.3	100.0	327		
暴力団と付き合いのある人を見かける	ある	59.3	40.7	100.0	27	0.033	p=0.856
	ない	57.5	42.5	100.0	381		
歩きタバコをしている人を見かける	ある	60.7	39.3	100.0	308	5.452	p=0.019
	ない	47.6	52.4	100.0	103		
道端にたむろしている若者を見かける	ある	64.1	35.9	100.0	198	6.831	p=0.009
	ない	51.4	48.6	100.0	214		
コンビニにたむろしている若者を見かける	ある	62.3	37.7	100.0	220	4.356	p=0.036
	ない	52.1	47.9	100.0	192		
夜に騒ぎ声がある	ある	62.1	37.9	100.0	182	2.943	p=0.086
	ない	53.7	46.3	100.0	231		
夜に若者が集まっている	ある	67.9	32.1	100.0	131	8.488	p=0.003
	ない	52.7	47.3	100.0	279		
バイクを乗り回している	ある	62.0	38.0	100.0	216	3.784	p=0.051
	ない	52.6	47.4	100.0	196		
酔っ払いがいる	ある	59.2	40.8	100.0	125	0.206	p=0.649
	ない	56.8	43.2	100.0	287		

クロス集計し（表 7）、 χ^2 検定した結果、「入れ墨やタトゥーの人を見かける」「歩きタバコをしている人を見かける」「コンビニにたむろしている若者を見かける」は 5 % 水準で、「道端にたむろしている若者を見かける」「夜に若者が集まっている」は 1 % 水準で「本人の犯罪不安」と統計的に有意な関連がみられた。自宅周辺で迷惑行為がある人の方が本人の犯罪不安が高いといえる。

表 8 自宅周辺の迷惑行為と本人の犯罪不安（女性のみ）のクロス集計

		不安あり	不安なし	合計	人数	χ^2 値	p 値
入れ墨やタトゥーの人を見かける	ある	72.6	27.4	100.0	51	1.686	p=0.194
	ない	62.8	37.2	100.0	199		
暴力団と付き合いのある人を見かける	ある	71.4	28.6	100.0	14	not valid	p=0.599
	ない	64.5	35.5	100.0	234		
歩きタバコをしている人を見かける	ある	67.9	32.1	100.0	184	3.798	p=0.051
	ない	54.6	45.4	100.0	66		
道端にたむろしている若者を見かける	ある	71.2	28.8	100.0	118	4.296	p=0.038
	ない	58.7	41.3	100.0	133		
コンビニにたむろしている若者を見かける	ある	70.4	29.6	100.0	125	3.734	p=0.053
	ない	58.7	41.3	100.0	126		
夜に騒ぎ声がある	ある	68.3	31.7	100.0	104	1.314	p=0.251
	ない	61.2	38.8	100.0	147		
夜に若者が集まっている	ある	80.3	19.7	100.0	71	10.909	p=0.001
	ない	58.1	41.9	100.0	179		
バイクを乗り回している	ある	68.3	31.7	100.0	123	1.482	p=0.223
	ない	60.9	39.1	100.0	128		
酔っ払いがいる	ある	66.2	33.8	100.0	74	0.107	p=0.742
	ない	64.0	36.0	100.0	178		

表 8 は女性に限定してクロス集計した結果である。 χ^2 検定の結果、「道端にたむろしている若者を見かける」は 5 % 水準で、「夜に若者が集まっている」は 1 % 水準で「本人の犯罪不安」と統計的に有意な関連がみられた。自宅周辺で迷惑行為がある人の方が本人の犯罪不安が高いといえる。

② 迷惑行為の有無と同居家族への犯罪不安との関連

表 9 自宅周辺の迷惑行為と同居家族への犯罪不安のクロス集計

		同居家族不安あり	同居家族不安なし	合計	人数	χ^2 値	p 値
入れ墨やタトゥーの人を見かける	ある	80.3	19.7	100.0	76	3.408	p=0.064
	ない	69.6	30.4	100.0	306		
暴力団と付き合いのある人を見かける	ある	79.2	20.8	100.0	24	0.692	p=0.405
	ない	71.3	28.7	100.0	355		
歩きタバコをしている人を見かける	ある	75.2	24.8	100.0	286	6.668	p=0.009
	ない	61.5	38.5	100.0	96		
道端にたむろしている若者を見かける	ある	78.4	21.6	100.0	181	7.127	p=0.007
	ない	66.2	33.8	100.0	201		
コンビニにたむろしている若者を見かける	ある	74.5	25.5	100.0	204	1.581	p=0.208
	ない	68.7	31.3	100.0	179		
夜に騒ぎ声がある	ある	73.8	26.2	100.0	168	0.596	p=0.440
	ない	70.2	29.8	100.0	215		
夜に若者が集まっている	ある	76.2	23.8	100.0	122	1.791	p=0.180
	ない	69.6	30.4	100.0	260		
バイクを乗り回している	ある	74.8	25.2	100.0	202	1.838	p=0.175
	ない	68.5	31.5	100.0	181		
酔っ払いがいる	ある	73.0	27.0	100.0	111	0.106	p=0.744
	ない	71.3	28.7	100.0	272		

クロス集計し（表 9）、 χ^2 検定した結果、「歩きタバコをしている人を見かける」「道端にたむろしている若者を見かける」は 1 % 水準で「同居家族への犯罪不安」と統計的に有意な関連がみられ、自宅周辺で迷惑行為がある人の方が同居家族への犯罪不安が高いといえる。

また、女性に限定してクロス集計した結果では、「酔っ払いがいる」以外の項目は全て、自宅周辺で迷惑行為がある人の方が同居家族への犯罪不安が高い傾向がみられた。しかし統計的に有意な関連はみられなかった。

③迷惑行為の有無と夜の1人歩きの犯罪不安との関連

表 10 自宅周辺の迷惑行為と夜の1人歩きの犯罪不安のクロス集計

		夜の1人歩き 不安あり	夜の1人歩き 不安なし	合計	人数	χ^2 値	p 値
入れ墨やタトゥーの人を見かける	ある	75.7	24.3	100.0	74	6.213	p=0.012
	ない	59.9	40.1	100.0	259		
暴力団と付き合いのある人を見かける	ある	68.0	32.0	100.0	25	0.254	p=0.614
	ない	63.0	37.0	100.0	305		
歩きタバコをしている人を見かける	ある	65.0	35.0	100.0	254	1.655	p=0.198
	ない	57.0	43.0	100.0	79		
道端にたむろしている若者を見かける	ある	67.5	32.5	100.0	166	2.405	p=0.121
	ない	59.3	40.7	100.0	167		
コンビニにたむろしている若者を見かける	ある	62.1	37.9	100.0	190	0.216	p=0.641
	ない	64.6	35.4	100.0	144		
夜に騒ぎ声がする	ある	69.9	30.1	100.0	153	5.547	p=0.018
	ない	57.5	42.5	100.0	181		
夜に若者が集まっている	ある	70.3	29.7	100.0	118	3.955	p=0.046
	ない	59.3	40.7	100.0	214		
バイクを乗り回している	ある	68.5	31.5	100.0	184	4.956	p=0.026
	ない	56.7	43.3	100.0	150		
酔っ払いがいる	ある	63.1	31.9	100.0	113	1.812	p=0.178
	ない	60.6	39.4	100.0	221		

クロス集計し（表 10）、 χ^2 検定した結果、「入れ墨やタトゥーの人を見かける」「夜に騒ぎ声がする」「夜に若者が集まっている」「バイクを乗り回している」は 5 % 水準で「夜の 1 人歩きの不安」と統計的に有意な関連がみられた。自宅周辺で迷惑行為がある人の方が夜の 1 人歩きの不安が高いといえる。

また、女性に限定してクロス集計した結果では、「道端にたむろしている若者を見かける」以外の項目は全て、自宅周辺で迷惑行為がある人の方が夜の 1 人歩きの不安が高い傾向がみられた。 χ^2 検定の結果、「夜に騒ぎ声がする」は 1 % 水準で、「夜に若者が集まっている」は 5 % 水準で「夜の 1 人歩きの不安」と統計的に有意な関連がみられた。自宅周辺で迷惑行為がある人の方が夜の 1 人歩きの不安が高いといえる。

④仮説Ⅱ（女性を対象とした集計）と先行研究の比較

先行研究（吉井ほか,2002）では、犯罪者が隠れているかもしれないという予測や、男性が 2、3 人溜まっているなどの「人の存在」によって不安感が高くなるという結果が得られている。今回の調査では「人の存在」を「迷惑行為をしている人」のみに限っているが、自宅周辺で迷惑行為がある人の方が犯罪不安が高く、人がいることによって犯罪不安が高くなるという同様の結果であった。

2. 5 考察

仮説Ⅰについては反対の結果となり、自宅周辺にカラオケ店や居酒屋など人の集まる施設がある人ほど犯罪不安が低く、見通しの悪い公園がある人は同居家族への犯罪不安が高かった。その背景として、人の集まる施設があることで夜でも明るいことや、人の目があった方が犯罪を行いにくく、特に女性の場合被害にあいそうになってもすぐに誰かに助けを求められると思う人が多いからではないかと考えられる。反対に、見通しの悪い公園などは誰かが潜んでいたり、被害にあっても誰も気づかない状況をつくりだしてしまうので不安が高くなったのではないかと。また、同居家族への犯罪不安は子どもと関連していると考えられ、公園で子どもを遊ばせる親にとって、見通しの悪い公園は子どもが危険な目にあうかもしれないという不安を高めるのではないかと。

仮説Ⅱについては、迷惑行為がある人の方が犯罪不安が低くなる項目が若干みられたものの統計的に有意な差はなく、その他は全て仮説Ⅱの通りの結果が得られた。統計的に有意な関連がみられたものの背景として、若者に関連した項目では、若者がいるだけで何をするかわからないといったような恐怖が生まれるため不安が高くなったのではないかと。また歩きタバコは、千葉市の路上喫煙防止の条例があることや未成年者には禁止されている行為なので、歩きタバコをしている人は「悪い人」や「逸脱者」とみなされ犯罪不安が高くなったのではないかと。そして入れ墨やタトゥーを入れている人はやくざなどとの繋がり

をイメージしてしまうことや、騒ぎ声やバイクなどは迷惑行為者の存在が見えない場合でも、音によって聞こえてくるものなので不安が高まったのではないか。

そして、先行研究（吉井ほか,2002）との比較からも、人が集まる施設が近くにあることが犯罪不安を低めることや、迷惑行為をする人がいるという「人の存在」が犯罪不安を高めるといような、今回の調査結果と同様の結果が得られている。

今回の分析から、同じ「人がいる」という状況でも一般の人が集まる施設と、迷惑行為をする人が集まっているのでは人の影響が大きく異なることがわかる。人の存在が犯罪不安に大きな影響を及ぼしていることが示唆された。

引用・参考文献

吉井貴子、宮田紀元、高橋正樹、金昞周，2002「住環境における犯罪不安感の構造に関する研究—千葉市の女性を対象にした意識調査の分析—」、『学術講演梗概集．計画系』社団法人日本建築学会，725-726.

3. 地域の物理的環境と犯罪不安

A82091 佐野綾香

3. 1 問題意識

私は犯罪不安の原因となる居住地域の物理的環境に興味を持った。私たちの生活している地域には、人々に不安を感じさせる環境、犯罪にあうのではないかという不安を感じるような場所が多く存在しており、その環境が人々の犯罪不安の高さに関係しているのではないかと考え、調べていく。

不安を感じさせる物理的環境を大きく2つに分けて考えた。1つ目は、「普段からゴミが散乱している場所」「粗大ゴミが放置されている場所」「人が潜んでいてもわからない場所」「壁に落書きがされている場所」「タバコの吸殻が落ちている」「乗り捨てられた自転車がある」といった、その場で見えない他者の行動を想像した時に起こる不安である。2つ目は、「街灯の少ない道がある」「人通りの少ない道がある」といった、個人の力では改善できない地域の設備が原因で起こる不安である。以下、「見えない他者」「地域の設備」と記載する。

このような地域の物理的環境は、不安を高める影響を及ぼしているのではないかと。また、近年人通りの少なさや人目につかない場所での犯罪防止のため、防犯カメラが設置されているが、特に不安を覚える夜道、犯罪不安を感じさせる物理的環境の存在が、防犯カメラの必要性につながっているのではないだろうか。

以上の点から、仮説検証をしていく。

3. 2 仮説

＜仮説1＞住んでいる地域の物理的環境が良くないほど、犯罪にあうのではないかという不安が高い。

＜仮説2＞住んでいる地域の物理的環境が良くないほど、防犯カメラを必要とする意見が多くなる。

3. 3 仮説検証

(1) 仮説1の検証

住んでいる地域の物理的環境が良くないほど、犯罪にあうのではないかという不安が高いかどうかを検証していく。

地域の物理的環境「街灯の少ない道」「人通りの少ない道」「普段からゴミが散乱している場所」「粗大ゴミが放置されている場所」「人が潜んでいてもわからない場所」「壁に落書きがされている場所」「タバコの吸殻が落ちている」「乗り捨てられた自転車がある」の8項目を独立変数とした。「自身が犯罪の被害にあうのではないかという不安を感じることもあるか」「同居家族が犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じることもあるか」「夜11時を過ぎてから、住んでいる地域を1人で歩いているとき、犯罪にあう不安をどの程度感じているか」の3項目を従属変数とするクロス集計をした。

なお、使用する地域の物理的環境8項目は、「たくさんある」「少しある」を「ある」、「あまりない」「まったくない」を「ない」にカテゴリー統合して使用し、「自身の犯罪不安」「同居家族の犯罪不安」「夜道の一人歩き」項目は、「よくある」「たまにある」を「ある」、「ほとんどない」「まったくない」を「ない」にカテゴリー統合して使用した。クロス集計の結果は、以下、表1、表2、表3のとおりである。

表 1 住んでいる地域の物理的環境と、自身が犯罪にあうのではないかと不安

		自身の犯罪不安		合計	人数	χ^2 値	p 値
		不安あり	不安なし				
街灯の少ない道	ある	60.0	40.0	100.0	305	4.462	p=0.035
	ない	48.0	52.0	100.0	102		
人通りの少ない道	ある	58.6	41.4	100.0	362	3.270	p=0.071
	ない	44.7	55.3	100.0	47		
普段からゴミが散乱している場所	ある	65.4	34.6	100.0	127	4.763	p=0.029
	ない	53.8	46.2	100.0	277		
粗大ゴミが放置されている場所	ある	64.8	35.2	100.0	125	4.026	p=0.045
	ない	54.1	45.9	100.0	279		
人が潜んでいてもわからない場所	ある	63.2	36.8	100.0	269	10.460	p=0.001
	ない	46.2	53.8	100.0	132		
壁に落書きがされている場所	ある	65.5	34.5	100.0	87	3.320	p=0.072
	ない	54.7	45.3	100.0	316		
タバコの吸殻	ある	60.9	39.1	100.0	256	3.348	p=0.067
	ない	51.7	48.3	100.0	151		
乗り捨てられた自転車	ある	60.7	39.3	100.0	244	2.570	p=0.109
	ない	52.7	47.3	100.0	167		

表 2 地域の物理的環境と、同居家族が犯罪にあうのではないかと不安

		同居家族の 犯罪不安		合計	人数	χ^2 値	p 値
		不安あり	不安なし				
街灯の少ない道	ある	72.9	27.1	100.0	288	1.313	p=0.252
	ない	66.7	33.3	100.0	90		
人通りの少ない道	ある	72.4	27.6	100.0	337	1.723	p=0.189
	ない	62.8	37.2	100.0	43		
普段からゴミが散乱している場所	ある	80.9	19.1	100.0	115	6.828	p=0.009
	ない	67.7	32.3	100.0	260		
粗大ゴミが放置されている場所	ある	78.0	22.0	100.0	118	3.378	p=0.067
	ない	68.8	31.3	100.0	256		
人が潜んでいてもわからない場所	ある	77.2	22.8	100.0	254	11.488	p=0.000
	ない	60.2	39.8	100.0	118		
壁に落書きがされている場所	ある	73.2	26.8	100.0	82	0.163	p=0.686
	ない	70.9	29.1	100.0	292		
タバコの吸殻	ある	74.4	25.6	100.0	238	1.853	p=0.174
	ない	67.9	32.1	100.0	140		
乗り捨てられた自転車	ある	75.6	24.1	100.0	232	4.980	p=0.026
	ない	65.3	34.7	100.0	150		

* 表 2 では、「同居家族はいない」という回答項目を欠損値として扱っている。

表 3 地域の物理的環境と、夜の一人歩きの不安

		夜の一人歩き		合計	人数	χ^2 値	p 値
		不安あり	不安なし				
街灯の少ない道	ある	66.8	33.2	100.0	253	8.319	p=0.004
	ない	48.7	51.3	100.0	78		
人通りの少ない道	ある	63.9	36.1	100.0	299	1.563	p=0.211
	ない	52.9	47.1	100.0	34		
普段からゴミが散乱している場所	ある	73.8	26.2	100.0	107	8.439	p=0.004
	ない	57.3	42.7	100.0	220		
粗大ゴミが放置されている場所	ある	77.9	22.1	100.0	104	14.061	p=0.000
	ない	56.4	43.6	100.0	225		
人が潜んでいてもわからない場所	ある	69.0	31.1	100.0	219	10.079	p=0.002
	ない	50.9	49.1	100.0	108		
壁に落書きがされている場所	ある	69.9	30.1	100.0	73	2.002	p=0.157
	ない	60.8	39.2	100.0	255		
タバコの吸殻	ある	64.3	35.8	100.0	207	0.355	p=0.551
	ない	61.0	39.0	100.0	123		
乗り捨てられた自転車	ある	65.2	34.8	100.0	201	0.970	p=0.325
	ない	59.6	40.2	100.0	132		

* 表 3 では、「出歩かないからわからない」という回答項目を欠損値として扱っている。

どの表にも有意差のあったものには、少しずつ違いがみられた。

表 1 では、「街灯の少ない道」「ゴミが散乱している場所」「粗大ゴミが放置」「人が潜んでいてもわからない場所」の 4 項目に 5 % 水準で有意差が出た。つまり、「街灯の少ない道」「ゴミが落ちている場所」「粗大ゴミが放置」「人が潜んでいてもわからない場所」が住んでいる地域にある人ほど、自身が犯罪にあうのではないかと不安が高いといえる。これには、「ゴミが落ちている場所」「粗大ゴミが放置」「人が潜んでいてもわからない場所」の「見えない他者」と、「街灯の少ない道」の「地域の設備」がどちらも含まれていた。

表 2 では、「ゴミが散乱している場所」「人が潜んでいてもわからない場所」「放置自転車」の 3 項目に 5 % 水準で有意差が出た。つまり、「ゴミが落ちている場所」「人が潜んでいてもわからない場所」「放置自転車」が住んでいる地域にある人ほど、同居家族が犯罪に合うのではないかと不安が高いといえる。これは、「見えない他者」のみとなった。

表 3 では、表 1 同様、「街灯の少ない道」「ゴミが散乱している場所」「粗大ゴミが放置」「人が潜んでいてもわからない場所」の 4 つに 5 % 水準で有意差が出た。つまり、「街灯の少ない道」「ゴミが散乱している場所」「粗大ゴミが放置」「人が潜んでいてもわからない場所」が住んでいる地域にある人ほど、夜の一人歩きに対する不安が高いといえる。こちらも、「見えない他者」と、「地域の設備」がどちらも含まれていた。

表 1、表 2、表 3 を通してみると、「ゴミが散乱している場所」「人が潜んでいてもわからない場所」の二つはすべての項目で有意差があった。「ゴミが散乱している場所」「人が潜んでいてもわからない場所」の二つは、一貫して犯罪不安を高くさせる物理的環境であることが明らかになった。また、「地域の設備」も同じ方向で作用はしていたが、「見えない他者」を感じさせる環境がある人ほど、犯罪不安が高いといえる。

(2) 仮説2の検証

住んでいる地域の物理的環境が良くないほど、防犯カメラを必要と考えているかどうか検証していく。

仮説1の検証で、地域の物理的環境が犯罪不安に影響を与えている事がわかった。それを踏まえ、地域に不安な物理的環境がある人ほど、防犯カメラの設置を必要であるとし、設置することで自身の犯罪不安を和らげたいと考えるのではないかと考えた。以下の分析では、「夜道の一人歩きの犯罪不安」の項目を使用して、地域の物理的環境が防犯カメラの必要性にどのように関係しているのかを観察する。

その際、防犯カメラを必要とする要因をはっきりさせるため、2つの二重クロスを行う。

1つ目は、「犯罪不安の有無が防犯カメラの必要性に関係しているのではないか」であり、2つ目は、「不安になる地域の物理的環境の有無が防犯カメラの必要性に関係しているのではないか」というものである。すなわち前者は物理的環境の状態をコントロールし、後者は犯罪不安をコントロールした分析となる。

①犯罪不安の有無が防犯カメラの必要性に関係しているのではないか。

夜道の一人歩きの犯罪不安の有無を独立変数とし、地域の物理的環境の有無をコントロールした上で、防犯カメラの必要性とクロス集計を行った。なお、「夜道の一人歩き」項目は、「よくある」「たまにある」を「ある」、「ほとんどない」「まったくない」を「ない」にカテゴリー統合し、地域の物理的環境8項目は、「たくさんある」「少しある」を「ある」、「あまりない」「まったくない」を「ない」にカテゴリー統合して使用し、「防犯カメラの必要性」は「必要だと思う」「やや必要だと思う」を「必要あり」、「あまり必要だと思わない」「まったく必要だと思わない」を「必要なし」にカテゴリー統合して使用した。集計結果は、以下、表4～表11のとおりである。

表4 街灯の少ない道をコントロールした、夜の一人歩き不安と、防犯カメラの必要性

		防犯カメラ		合計	人数	χ^2 値	P 値
		必要あり	必要なし				
街灯の少ない道がある	ある	91.6	8.4	100.0	167	6.428	p=0.011
	ない	80.5	19.5	100.0	82		
街灯の少ない道がない	ある	92.1	7.9	100.0	38	5.086	p=0.024
	ない	72.5	27.5	100.0	40		

表5 人通りの少ない道をコントロールした、夜の一人歩き不安と、防犯カメラの必要性

		防犯カメラ		合計	人数	χ^2 値	P 値
		必要あり	必要なし				
人通りの少ない場所がある	ある	91.0	9.0	100.0	189	7.080	p=0.008
	ない	80.2	19.8	100.0	106		
人通りの少ない場所がない	ある	100.0	0.0	100.0	18	8.196	not valid
	ない	62.5	37.5	100.0	16		

表6 ゴミの散乱をコントロールした、夜の一人歩き不安と、防犯カメラの必要性

		防犯カメラ		合計	人数	χ^2 値	P 値
		必要あり	必要なし				
ゴミが散乱している場所がある	ある	94.8	5.2	100.0	77	4.489	not valid
	ない	81.5	18.5	100.0	27		
ゴミが散乱している場所がない	ある	89.7	10.3	100.0	126	6.136	p=0.013
	ない	77.4	22.6	100.0	93		

表 7 粗大ごみをコントロールした、夜の一人歩き不安と、防犯カメラの必要性

	夜道の 犯罪不安	防犯カメラ		合計	人数	χ^2 値	P 値
		必要あり	必要なし				
粗大ゴミが放置され ている場所がある	ある	95.0	5.0	100.0	80	3.8289	not valid
	ない	82.6	17.4	100.0	23		
粗大ゴミが放置され ていない場所がない	ある	89.7	10.3	100.0	126	6.513	p=0.011
	ない	77.1	22.9	100.0	96		

表 8 人が潜める場所をコントロールした、夜の一人歩き不安と、防犯カメラの必要性

	夜道の 犯罪不安	防犯カメラ		合計	人数	χ^2 値	P 値
		必要あり	必要なし				
人が潜んでいてもわ からない場所がある	ある	91.3	8.7	100.0	149	0.8676	p=0.172
	ない	85.1	14.9	100.0	67		
人が潜んでいてもわ からない場所がない	ある	92.7	7.3	100.0	55	9.710	p=0.002
	ない	69.2	30.8	100.0	52		

表 9 壁の落書きをコントロールした、夜の一人歩き不安と、防犯カメラの必要性

	夜道の 犯罪不安	防犯カメラ		合計	人数	χ^2 値	P 値
		必要あり	必要なし				
壁に落書きがされて いる場所がある	ある	94.1	5.9	100.0	51	4.4694	p=0.035
	ない	77.3	22.7	100.0	22		
壁に落書きされてい る場所がない	ある	90.9	9.2	100.0	153	7.505	p=0.006
	ない	78.6	21.4	100.0	98		

表 10 タバコの吸殻をコントロールした、夜の一人歩き不安と、防犯カメラの必要性

	夜道の 犯罪不安	防犯カメラ		合計	人数	χ^2 値	P 値
		必要あり	必要なし				
タバコの吸殻が 落ちている	ある	91.7	8.3	100.0	72	6.5458	p=0.011
	ない	79.2	20.8	100.0	72		
タバコの吸殻が 落ちていない	ある	91.8	8.2	100.0	73	5.180	p=0.023
	ない	77.1	22.9	100.0	48		

表 11 放置自転車をコントロールした、夜の一人歩きの不安、防犯カメラの必要性

	夜道の 犯罪不安	防犯カメラ		合計	人数	χ^2 値	P 値
		必要あり	必要なし				
乗り捨てられた 自転車がある	ある	92.3	7.7	100.0	130	9.5295	p=0.002
	ない	76.3	23.2	100.0	69		
乗り捨てられた 自転車がない	ある	90.9	9.1	100.0	77	2.789	p=0.095
	ない	80.8	19.2	100.0	52		

まず、表 4～表 11 の各物理的環境が「ある」という項目から見ていく。「街頭の少ない道」「人通りの少ない場所」「壁の落書き」「タバコの吸殻」「放置自転車」の 5 項目で 5 % 水準の有意差が出た。同じような物理的環境にあっても、夜の一人歩きの犯罪不安がある人ほど、防犯カメラを必要としているということがいえる。

次に表 4～表 11 の各物理的環境が「ない」という項目を見ていく。「街頭の少ない道」「ゴミが散乱している場所」「粗大ゴミが放置」「人が潜んでいてもわからない場所」「壁の落書き」「タバコの吸殻」の 6 項目で、5 % 水準の有意差が出た。つまり、「街頭の少ない道」「ゴミが散乱している場所」「粗大ゴミが放置されている場所」「人が潜んでいてもわからない場所」「壁の落書き」「タバコの吸殻」の項目が地域になかったとしても、夜の一人歩きの犯罪不安がある人ほど、防犯カメラを必要としているということがいえる。

表 4～表 11 では、地域の物理的環境の有無に関係なく、犯罪不安の有無が防犯カメラの

必要性に関係しており、犯罪不安が高い人ほど防犯カメラを必要であると感じているということがわかった。

②不安になる地域の物理的環境の有無が防犯カメラの必要性に関係しているのではないか。

地域の物理的環境の有無を独立変数とし、夜道の一人歩きの犯罪不安の有無をコントロールした上で、防犯カメラの必要性とクロス集計を行った。カテゴリー統合は、①のとおりである。集計を行ったところ、5%水準で有意差が出たものは「夜道の一人歩きの犯罪不安がない条件で、人が潜んでいてもわからない場所が地域にある人ほど、防犯カメラを必要としている」というもののみであった。このことから、地域の物理的環境の有無と防犯カメラの必要性は、夜の一人歩き不安をコントロールすると、限定的な関連にとどまる事がわかった。

以上2通りの二重クロスから、地域の不安になる物理的環境の有無に関係なく、犯罪不安の有無が防犯カメラの必要性に関係している事がわかった。仮説1で地域の不安になる物理的環境がある人ほど夜道の一人歩きの犯罪不安が高くなるという事が検証され、仮説2で犯罪不安が高い人ほど防犯カメラを必要と考えているということが検証された。しかし、地域の不安になる物理的環境は防犯カメラの必要性には直接的に影響を及ぼしているわけではないということがわかった。

3. 4 考察

今回の調査で、2つの仮説を検討してきた。自身が感じる犯罪不安と同居家族の犯罪不安は内容が変わり、自身が感じる犯罪不安には「見えない他者」の存在、「地域の設備」の不安が関係しており、同居家族の不安には「見えない他者」の存在が関係していることがわかった。中でも「普段からゴミが散乱している場所」「人が潜んでいてもわからない場所」は特に犯罪不安を引き起こす存在であり、自身の犯罪不安でも、同居家族の犯罪不安でも同じことがいえた。

また、今回の仮説検証では、地域の不安になる物理的環境が犯罪不安の原因であり、犯罪不安が高い人ほど防犯カメラを必要であると感じるという、「原因」と「結果」の2つを検証することができた。居住地域の物理的環境を見て人々が犯罪不安を感じる、そしてそれを和らげる手段として防犯カメラを必要とするという流れを見てとる事ができた。物理的環境が直接防犯カメラを必要とする意見をもたらすのではなく、「犯罪不安」が両者を媒介するものであることが明らかになった。

4. 犯罪に対する被害経験、被害見聞と犯罪不安

A82071 齋藤優季

4. 1 問題意識

私たちが暮らしている社会では毎日のように犯罪が起きている。そのため犯罪に対する不安は誰もが感じているかもしれない。しかし、実際に犯罪にあったことのある人となない人では不安は違うのではないだろうか。そこで、実際に犯罪にあった人や、身の回りの人が被害にあった人、住んでいる地域で犯罪の被害について見たり、聞いたりした人とそうでない人の意識がどれほど違うのかを調べていく。

4. 2 仮説

仮説：自身や身近な人が犯罪の被害にあったり、住んでいる地域で犯罪についての見聞きをしたことがある人ほど、犯罪に対する不安が高い。

(1) 仮説1の検証に使用した変数

①独立変数「犯罪の被害経験」「犯罪の被害見聞」

犯罪の被害経験や被害見聞を調べるために「あなたの友人・知人が何らかの犯罪にあったことはありますか」「あなた、あるいはあなたの同居家族が被害にあったりあいそうになったことのある犯罪はありますか」「あなたの住んでいる地域で、犯罪が起きたと聞いたり、見たりしたことはありますか」という質問項目を使う。

②従属変数「犯罪不安」

犯罪の被害にあうのではないかと不安を調べるため、「日頃、自身が実際に犯罪にあうのではないかと不安に感じることがありますか」（以下、「一般的犯罪不安」とする）、「日頃、同居家族が犯罪の被害にあうのではないかと不安に感じることがありますか」、「あなたは夜11時を過ぎてから、住んでいる地域を1人で歩いている時、犯罪にあう不安をどの程度感じていますか」という3つの質問項目を使った。その際「同居家族はいない」「出歩かないからわからない」という項目については、欠損値処理を行った。また回答の「よくある」「たまにある」を「不安あり」、「ほとんどない」「全くない」を「不安なし」にカテゴリー統合した。

(2) 単純集計

表1 過去3年以内の友人、または知人の犯罪被害の単純集計 単位%(人)

	あり	なし	計
友人または知人の犯罪被害経験	26.6 (111人)	73.4 (307人)	100.0 (418人)

欠損値=8

表 2 過去 3 年以内の自分または同居家族の犯罪被害経験(未遂を含む)の単純集計
単位%(人)

	被害経験あり	被害経験なし	計
悪質商法	5.2 (20 人)	94.8 (362 人)	100.0 (382 人)
暴行	2.1 (8 人)	97.9 (374 人)	100.0 (382 人)
恐喝	0.5 (2 人)	99.5 (380 人)	100.0 (382 人)
痴漢	2.6 (10 人)	97.4 (372 人)	100.0 (382 人)
空き巣	3.9 (15 人)	96.1 (367 人)	100.0 (382 人)
通り魔	0.8 (3 人)	99.2 (379 人)	100.0 (382 人)
ひったくり	4.7 (18 人)	95.3 (364 人)	100.0 (382 人)
ストーカー	1.6 (6 人)	98.4 (376 人)	100.0 (382 人)
架空請求	11.0 (42 人)	89.0 (340 人)	100.0 (382 人)
放火	- (0 人)	100.0 (382 人)	100.0 (382 人)
振り込め詐欺	12.0 (46 人)	88.0 (336 人)	100.0 (382 人)
自宅への落書き	0.8 (3 人)	99.2 (379 人)	100.0 (382 人)
自転車の盗難	25.4 (97 人)	74.6 (285 人)	100.0 (382 人)
車上荒らし	8.6 (33 人)	91.4 (349 人)	100.0 (382 人)
何らかの犯罪被害	55.5 (212 人)	44.5 (170 人)	100.0 (382 人)

欠損値 = 44

表 3 過去 3 年以内の自分が住んでいる地域での犯罪被害見聞の単純集計
単位%(人)

	被害見聞あり	被害見聞なし	計
悪質商法	4.2 (17 人)	95.8 (386 人)	100.0 (403 人)
暴行	3.5 (14 人)	96.5 (389 人)	100.0 (403 人)
恐喝	1.5 (6 人)	98.5 (397 人)	100.0 (403 人)
痴漢	11.9 (48 人)	88.1 (355 人)	100.0 (403 人)
空き巣	35.2 (142 人)	64.8 (261 人)	100.0 (403 人)
通り魔	1.5 (6 人)	98.5 (397 人)	100.0 (403 人)
ひったくり	23.1 (93 人)	76.9 (310 人)	100.0 (403 人)
ストーカー	4.0 (16 人)	96.0 (387 人)	100.0 (403 人)
架空請求	3.7 (15 人)	96.3 (388 人)	100.0 (403 人)
放火	1.2 (5 人)	98.8 (398 人)	100.0 (403 人)
振り込め詐欺	8.7 (35 人)	91.3 (368 人)	100.0 (403 人)
自宅への落書き	1.5 (6 人)	98.5 (397 人)	100.0 (403 人)
自転車の盗難	41.9 (169 人)	58.1 (234 人)	100.0 (403 人)
車上荒らし	39.7 (160 人)	60.3 (243 人)	100.0 (403 人)
何らかの被害見聞	81.1 (327 人)	18.9 (76 人)	100.0 (403 人)

欠損値 = 23

上に示した 3 つの表はそれぞれ、過去 3 年以内での友人または知人の犯罪被害、自分もしくは同居家族の犯罪の被害経験、住んでいる地域での犯罪の被害見聞の単純集計結果である。

はじめに、過去 3 年以内での友人または知人の犯罪被害(表 1)についてみると、犯罪の被害があると答えた人は 111 人おり、全体の 26.6%の人が、友人または知人が被害にあった事があると答えた。

次に、過去 3 年以内での自分または同居家族の犯罪の被害経験(表 2)についてみると、ほとんどの罪種で「被害経験あり」と答えた人が 10%程度、もしくは 10%未満だった

ため仮説の分析に使うのは困難といえる。しかし、何かしらの犯罪の被害にあった事がある人は 212 人おり、全体の 55.5%の人が自分または同居家族に犯罪にあった事がある人がいるということが分かった。

最後に、過去 3 年以内の住んでいる地域での犯罪の被害見聞(表 3)についてみると、「被害見聞あり」と答えた人が 10%程度と低い罪種もあったが、空き巣 35.2%、ひったくり 23.1%、自転車の盗難 41.9%、車上荒らし 39.7%の 4 つの罪種については「被害見聞あり」と答えた人がある程度いる事がわかった。また、何かしらの犯罪で被害見聞のある人は 327 人おり、全体の 81.1%の人が住んでいる地域で何かしらの犯罪がおきた事を見たり聞いたりした事があるという事がわかった。

(3) 仮説検証①

仮説を検証するために、それぞれ過去 3 年以内での友人または知人の犯罪被害、自分もしくは同居家族の犯罪の被害経験、住んでいる地域での犯罪の被害見聞を独立変数とし、犯罪不安の 3 項目を従属変数としたクロス集計をし、 χ^2 検定を行った。その結果、以下のようになった。

表 4 被害経験、被害見聞と一般的犯罪不安

		一般的犯罪不安 不安あり 不安なし		合計	人数	χ^2 値	P 値
友人または知人の 犯罪被害経験	あり	70.3	29.7	100.0	111	10.379	p=0.001**
	なし	52.6	47.4	100.0	306		
自分または同居家族の 犯罪被害経験	あり	65.9	34.1	100.0	211	11.260	p=0.001**
	なし	48.8	51.2	100.0	170		
地域での犯罪の 被害見聞	あり	58.9	41.1	100.0	326	1.449	p=0.229
	なし	51.3	48.7	100.0	76		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

表 5 被害経験、被害見聞と同居家族の犯罪不安

		同居家族の 犯罪不安 不安あり 不安なし		合計	人数	χ^2 値	P 値
友人または知人の 犯罪被害経験	あり	82.1	17.9	100.0	106	7.465	p=0.006**
	なし	68.1	31.9	100.0	282		
自分または同居家族の 犯罪被害経験	あり	79.3	20.7	100.0	198	8.827	p=0.003**
	なし	65.2	34.8	100.0	155		
地域での犯罪の被害見聞	あり	71.0	29.0	100.0	310	0.340	p=0.560
	なし	74.6	25.4	100.0	63		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

表 6 被害経験、被害見聞と夜 1 人で外出した際に犯罪被害にあう不安

		夜一人で外出する際の犯罪被害		合計	人数	χ^2 値	P 値
		不安あり	不安なし				
友人または知人の犯罪被害経験	あり	74.2	25.8	100.0	97	7.555	p=0.006**
	なし	58.3	41.7	100.0	242		
自分または同居家族の犯罪被害経験	あり	68.8	31.3	100.0	176	4.988	p=0.026*
	なし	56.4	43.6	100.0	133		
地域での犯罪の被害見聞	あり	63.3	36.7	100.0	264	0.236	p=0.627
	なし	60.0	40.0	100.0	65		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

まず、表 4 は、友人または知人の犯罪の被害経験と、自分または同居家族の犯罪の被害経験、地域での犯罪の被害見聞を一般的犯罪不安とクロス集計し χ^2 検定を行った結果である。友人または知人の被害経験と自分または同居家族の被害経験については両方とも 1% 水準で有意な差があった。「不安である」と答えた人が多い事がわかった。地域での犯罪の被害見聞については有意な差をみる事ができなかった。

また、この結果は表 5、表 6 でも同様であった。表 5 については友人または知人の被害経験と、自分または同居家族の被害経験が 1% 水準で「同居家族が犯罪にあうのではないかと不安に感じる事がありますか」という質問との間に有意な差があった。表 6 では、友人または知人の被害経験が 1% 水準で、自分または同居家族の被害経験が 5% 水準で「あなたは夜 11 時を過ぎてから、住んでいる地域を 1 人で歩いているとき、犯罪にあう不安をどの程度感じていますか」という質問との間に有意な差があった。いずれも犯罪の被害経験があると答えた人の方が、被害経験がないと答えた人よりも犯罪にあうのではないかと不安が高い事がわかった。地域での犯罪の被害見聞については、3 種類の犯罪不安とは有意な差が見られなかった。

(4) 仮説検証②

仮説検証①では、友人または知人の被害経験と、自分または同居家族の被害経験については不安との関連性をみる事が出来たが、地域での犯罪の被害見聞については関連が見られなかった。そこで、地域の犯罪の被害見聞が多かった、空き巣、ひったくり、自転車の盗難、車上荒らしの 4 つを不安に関連する質問項目とクロス集計し χ^2 検定を行った。その結果、全てには有意な差をみることはできなかったが、車上荒らしの被害見聞と同居家族への犯罪被害の不安(表 7)、ひったくりの被害見聞と夜 1 人で外出する際の犯罪被害の不安(表 8)が 10% の水準で有意な傾向差が見られた。これによりどちらも、被害見聞がありと答えた人は、被害見聞なしと答えた人よりも不安が高い事がわかった。

表 7 車上あらしの被害見聞と同居家族への犯罪不安

		同居家族の犯罪被害		合計	人数	χ^2 値	P 値
		不安あり	不安なし				
車上荒らし見聞	あり	76.5	23.5	100.0	153	3.048	p=0.081
	なし	68.2	31.8	100.0	220		

表 8 ひったくりの被害見聞と夜一人で外出する際の犯罪不安

		夜一人で外出する際の犯罪被害		合計	人数	χ^2 値	P 値
		不安あり	不安なし				
ひったくり見聞	あり	71.4	28.6	100.0	77	3.337	p=0.068
	なし	59.9	40.1	100.0	252		

また、空き巣とひったくりについては同一罪種の不安について聞いている質問項目があるため、それぞれの被害見聞とクロス集計し χ^2 検定を行った。その結果両方とも 0.1% 水準で有意な差があった。空き巣については被害見聞がある人ほど空き巣への不安が大きく(表 9)、ひったくりについて被害見聞がある人ほどひったくりへの不安が高い(表 10)ということがわかった。

表 9 空き巣の被害見聞と空き巣への不安

		空き巣への不安		合計	人数	χ^2 値	P 値
		不安あり	不安なし				
空き巣の被害見聞	あり	83.7	16.3	100.0	141	16.217	<.000***
	なし	64.5	35.5	100.0	251		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

表 10 ひったくりの被害見聞とひったくりへの不安

		ひったくりへの不安		合計	人数	χ^2 値	P 値
		不安あり	不安なし				
ひったくり見聞	あり	77.5	22.5	100.0	89	14.991	p=0.0001***
	なし	54.6	45.4	100.0	302		

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

4. 3 考察

ここまで、自身や身近な人が犯罪の被害にあったり、住んでいる地域で犯罪についての見聞きをしたことがある人ほど、犯罪に対する不安が高い、という仮説をもとに分析を行った。結果としては、仮説前半の、自身や身近な人が犯罪の被害にあった事のある人は犯罪に対する不安が高い、という部分は仮説検証①の友人や知人、自身や同居家族の被害経験と犯罪不安に関する質問項目との分析で有意な関連をみる事ができ、仮説通りの結果となった。

仮説後半の、住んでいる地域で犯罪についての見聞きをしたことがある人ほど、犯罪に対する不安が高い、に関しては仮説検証①において、地域での犯罪の被害見聞と犯罪不安に関する質問項目との分析で関連性をみる事ができなかった。しかし、単純集計結果の検討から、地域の被害見聞の単純集計で多かった空き巣、ひったくり、自転車の盗難、車上荒らしの 4 つについて分析した結果次の事がわかった。

まず、前に挙げた 4 つの被害見聞と犯罪不安に関する質問項目をクロス集計した結果、車上荒らしの被害見聞と同居家族への犯罪被害の不安、ひったくりの被害見聞と夜 1 人で外出する際の犯罪被害の不安の 2 つに有意な傾向を見る事が出来た。

空き巣については、自分や同居家族、夜一人での外出時の犯罪不安との関連をみることはできなかったが、罪種別での犯罪不安では空き巣の被害見聞と空き巣への不安の関連をみる事が出来た。これはひったくりでも見る事が出来たが、被害見聞がある人は不安が高くなっている事がわかった。自転車の盗難については被害件数や被害見聞が多かったが分析で有意な差をみる事は出来なかった。そのため自転車の盗難は犯罪不安との関連はないという事がわかった。

6章 犯罪不安のもたらす影響

1. 犯罪不安と個人的防犯・危険対策

A82124 塚田愛美

1. 1 問題意識

私が小学生の時、全校生徒に防犯ベルが配られた。私の住む農村地域では、外出時に家の鍵を掛けないような犯罪不安の低い人が多いということもあってか、配られた人のほとんどは持ち歩くことがなかった。

現在、さまざまな場所に防犯カメラが設置され、多くの犯罪ニュースがメディアで取り上げられているが、個人的に防犯対策をしている人は少ないように思われる。それは、私の住む地域の人たちのように、犯罪への危機感を持つ人が少なく、頻繁に近所で集会を行い、他人を信頼している人が多いために犯罪不安が低く、防犯対策をしない人が多いのだと考えられる。「犯罪」という言葉をよく耳にする現代においても、犯罪不安が高い人はまだ少ないのではないだろうか。また、犯罪不安が高いと、個人的に防犯対策をする人が多いのであろうか。

そこで、防犯ベルを持つなどの個人的に防犯対策をするか否かは犯罪不安の高さと関係があるのではないだろうかと考え、検証する。

1. 2 仮説

犯罪不安が高い人ほど、個人的に防犯対策をしている。

1. 3 分析に用いる質問項目

(1) 罪種別犯罪不安(独立変数)

12の罪種別の犯罪不安を調べるために、それぞれについて「あなたは、日頃、犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じていますか」と質問した(巻末単純集計A41～A412参照)。この質問は、「不安である」「少し不安である」「あまり不安ではない」「不安ではない」の4件法で尋ねたが、「不安である」「少し不安である」を“不安あり”、“あまり不安ではない”“不安ではない”を“不安なし”とカテゴリー統合して分析する。

罪種別の犯罪不安をみると、「空き巣に入られる不安」が68.5%と最も高く、次に「ひったくりにあう不安」が58.0%、「通り魔にあう不安」が56.1%であった。また、最も低いのは「自宅などに落書きされる不安」で18.1%であった。犯罪不安の項目は全体的にみると、不安度に差がある。

表1 性別と犯罪不安

		不安あり	不安なし	合計	人数	χ^2 値	p 値
暴力的な犯罪	男性	42.6	57.4	100.0	155	6.302	p= 0.012
	女性	55.4	44.6	100.0	249		
痴漢	男性	14.5	85.5	100.0	152	32.629	p=0.0001
	女性	41.8	58.2	100.0	249		
空き巣	男性	64.5	35.5	100.0	155	6.789	p=0.009
	女性	76.5	23.5	100.0	247		
通り魔	男性	39.2	60.8	100.0	153	39.395	p=0.0001
	女性	71.0	29.0	100.0	248		
ひったくり	男性	35.1	64.9	100.0	154	69.225	p=0.0001
	女性	76.7	23.3	100.0	249		
ストーカー	男性	10.4	89.6	100.0	154	13.563	p=0.0002
	女性	25.4	74.6	100.0	248		

(注) 性別と統計的に有意な関連のあった罪種別犯罪不安を掲載した。

12の罪種別犯罪不安と性別との関連をみたところ（表1）、6つの罪種不安について χ^2 検定の結果、統計的に有意差があった。つまり、表1に挙げた6つの罪種の犯罪不安は男性より女性の方が高いといえる。

（2）個人的防犯・危険対策（従属変数）

個人的防犯・危険対策を調べるために、F3の質問（巻末調査票を参照）を使用した。

まず、(1)から(9)の質問は「いつもしている」「時々している」「めったにしない」「全くしない」の4件法の選択肢を統合して、「している」「していない」の2件法にした。そして、(10)は「全てにかけている」「大体はかけている」「あまりかけていない」「全くかけていない」の選択肢を統合して、「している」「していない」にした。また、「ロック機能を知らない」と「携帯電話を持っていない」は欠損値とした。

巻末の単純集計F1、F2、F3（F31～F39）によれば、「している」の割合は、「貴重品から目を離さない」が88.5%で最も高く、次に高いのは「バックをナナメがけにする」「バックは道路とは反対側にもつ」は、約6割の人が「している」。これに対して、「車道から離れた所を歩く」が70.0%であった。また、「防犯ベルを持ち歩く」は5.2%と最も低い。全体的に見ると、防犯・危険対策の実行度の差は大きいといえる。

次に、性別クロス集計を手がかりに、(1)～(10)で個人的防犯・危険対策としての効果の意味を検討しておく（表2）。

(1)「音楽を聴きながら歩くか」は、「していない」と回答した場合に「周りに注意をすることができる」ということになり、防犯対策になる。つまり、通り魔などに遭遇した時に危険察知がしやすくなる。また「している」と回答した場合でも音楽を聴ける機械に携帯電話などの電話機能や通信機能が有ると、イヤホンにマイクが付いていて、音楽を聴いているように見えても電話している場合がある。これは、「すぐに警察へ電話できる」というアピールに繋がり、「音楽を聴きながら歩く」がひったくりや通り魔、ストーカーへの防犯対策になる。これには、男女差があり、男性の方が「している」という人が多い。

(2)「歩きながら携帯電話を使用するか」は、(1)の「音楽を聴きながら歩く」よりも「している」場合も「していない」場合も防犯対策となる。携帯電話を使用していることで、「周りに注意すること」はできにくくなるが、「携帯電話にすぐ連絡できる」というアピールにも繋がり、ひったくりや通り魔、ストーカーへの防犯対策にもなる。これは、男女には差がない。

(3)「車道から離れた所を歩くか」は、「している」と回答した場合、車道を走っているバイクなどに「ひったくり」されないという防犯対策になる。これは、男女に差があり、女性の方が「している」という人が多い。

(4)「バックは道路の反対側に持つか」は、「している」と回答した場合、(3)と同様に車道を走っているバイクなどに「ひったくり」されないという防犯対策になる。これは、男女に差があり、女性の方が「している」という人が多い。

(5)「バックはナナメがけにするか」は、「している」と回答した場合、ひったくりに合わない可能性が高くなり、ひったくりされそうになったとしても、ナナメがけにしているために持っていけないという防犯対策になる。これは、男女差があり、女性の方が「している」という人が多い。

(6)「貴重品から目を離さない」は、「している」と回答した場合、窃盗にあいにくくなり、窃盗にあった時の個人情報漏れを防ぐことになり、空き巣やストーカー、架空請求への防犯対策にもなる。これは、男女差があり、女性の方が「している」という人が多い。

(7)「口が開きっぱなしのトートバックのようなバックで出かけるか」という質問を簡単に省略し、以下では「トートバックで出かけるか」とする。この質問は、「していない」と回答した場合、バックの中身をスリや窃盗されにくいという防犯対策になる。これは、男女に差があり、男性の方が「していない」という人が多い。

(8)「ズボンの後ろポケットに財布を入れる」（以下、「後ろポケットに財布を入れる」）は、「していない」と回答した場合、後ろという見えにくい所でスリやひったくりにあわないという防犯対策になる。これは、この個人的防犯・危険対策の中で最も男女差があり、ほ

とんどの女性が「していない」。

(9)「個人情報載ったままゴミへ出す」は、「していない」と回答した場合、個人情報漏れを防ぐことに繋がり、ストーカーや架空請求への防犯対策になる。

(10)「携帯電話に鍵を掛けるか」は、「している」と回答した場合、(9)と同様に、個人情報漏れを防ぐことに繋がり、ストーカーや架空請求への防犯対策になる。

表 2 性別と個人的防犯・危険対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
音楽を聴きながら歩く	男性	24.7	75.3	100.0	162	9.243	p=0.002
	女性	13.0	87.0	100.0	253		
車道から離れた所を歩く	男性	65.4	34.6	100.0	159	6.918	p=0.009
	女性	77.3	22.7	100.0	247		
バックは道路の反対側に持つ	男性	40.4	59.6	100.0	161	51.017	p=0.0001
	女性	75.4	24.6	100.0	252		
バックはナナメがけにする	男性	46.6	53.4	100.0	161	17.557	p=0.0001
	女性	67.3	32.7	100.0	254		
貴重品から目を離さない	男性	85.8	14.2	100.0	162	4.856	p=0.028
	女性	92.5	7.5	100.0	253		
トートバックで出かける	男性	14.9	85.1	100.0	161	51.406	p=0.0001
	女性	49.6	50.4	100.0	254		
後ろポケットに財布を入れる	男性	48.2	51.9	100.0	162	128.674	p=0.0001
	女性	2.4	97.6	100.0	254		

(注) 性別と統計的に有意な関連があった個人的防犯・危険対策を掲載した。

1. 4 仮説の検証

仮説を検証するために独立変数である犯罪不安と従属変数である罪種別個人的防犯・危険対策とをそれぞれをクロス集計し、 χ^2 検定を行った。クロス集計にあたって、独立変数、従属変数の両方の 4 件法(「不安である」「少し不安である」「あまり不安ではない」「不安ではない」または、「いつもしている」「時々している」「めったにしない」「全くしない」)の選択肢を統合して、2 件法(「不安あり」「不安なし」または、「している」「していない」)にした。

(1) 悪徳商法の不安と個人的防犯・危険対策

悪徳商法の不安と個人的防犯・危険対策との関連をみるためクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果、どの個人的防犯・危険対策とも統計的に有意差がみられなかった。これらの個人的防犯・危険対策は悪徳商法の不安対策となるようなものがないため、このような結果になったと考えられる。

(2) 暴行の不安と個人的防犯・危険対策

表 3 暴行の不安と個人的防犯・危険対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
バックは道路の反対側に持つ	暴行の不安あり	68.8	31.2	100.0	205	7.729	p=0.005
	暴行の不安なし	55.3	44.7	100.0	197		
後ろポケットに財布を入れる	暴行の不安あり	15.6	84.4	100.0	205	5.001	p=0.025
	暴行の不安なし	24.5	75.5	100.0	200		

暴行の不安と個人的防犯・危険対策について関連をみたところ、「バックは道路の反対側に持つ」と「後ろポケットに財布を入れる」の 2 つと有意差があった(表 3)。この 2 つの

個人的防犯・危険対策については、「暴行への不安が高い人は低い人よりもバックはナナメがけにする」、または「暴行への犯罪不安が高い人は低い人よりも後ろポケットに財布を入れない」傾向がみられた。

この結果は、暴行の不安とこの2つの防犯対策に関連があるというより、男女差が関係しているといえるだろう。女性の方が暴行の不安を感じており、2つの防犯対策においても女性の方がしている人が多いことから、この結果がでたのであろう。

（３）恐喝の不安と個人的防犯・危険対策

表 4 恐喝の不安と個人的防犯・危険対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
貴重品から目を離さない	恐喝不安あり	94.2	5.8	100.0	138	4.352	p=0.037
	恐喝不安なし	87.6	12.4	100.0	266		

恐喝の不安と個人的防犯・危険対策について関連をみたところ、「貴重品から目を離さない」に統計的有意差があった（表 4）。この個人的防犯・危険対策については、恐喝の不安と関連があるといえ、「恐喝への不安が高い人は低い人よりも貴重品から目を離さない」傾向がみられた。

（４）痴漢の不安と個人的防犯・危険対策

痴漢の不安と個人的防犯・危険対策について関連をみたところ、「バックは道路の反対側に持つ」と「貴重品から目を離さない」、「ポケットに財布を入れる」の3つと統計的有意差があった（表 5）。

この3つの個人的防犯・危険対策については、痴漢の不安と関連があるというよりは、男女差が関係あるといえるだろう。「バックは道路の反対側に持つ」と「後ろポケットに財布を入れる」の2つの防犯対策は男女差が大きいことが影響していると考えられる。女性の方が痴漢の不安を感じており、2つの防犯対策においても女性の方がしている人が多いことから、この結果がでたのであろう。また、「貴重品から目を離さない」は最も行っている人が多い対策であり、その行っている人の女性が「不安あり」と答え、男性が「不安なし」と答えたためにこの結果がでたのだろう。

表 5 痴漢の不安と個人的防犯・危険対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
バックは道路の反対側に持つ	痴漢不安あり	74.8	25.2	100.0	127	12.204	p=0.001
	痴漢不安なし	56.6	43.4	100.0	272		
貴重品から目を離さない	痴漢不安あり	94.5	5.5	100.0	127	4.453	p=0.035
	痴漢不安なし	87.6	12.4	100.0	275		
後ろポケットに財布を入れる	痴漢不安あり	11.0	89.0	100.0	127	8.753	p=0.003
	痴漢不安なし	23.6	76.4	100.0	275		

（５）空き巣の不安と個人的防犯・危険対策

表 6 空き巣の不安と個人的防犯・危険対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
音楽を聴きながら歩く	空き巣不安あり	14.9	85.1	100.0	289	6.212	p=0.013
	空き巣不安なし	25.4	74.6	100.0	114		
後ろポケットに財布を入れる	空き巣不安あり	16.2	83.8	100.0	290	9.467	p=0.002
	空き巣不安なし	29.8	70.2	100.0	114		

空き巣の不安と個人的防犯・危険対策について関連をみたところ、「音楽を聴きながら歩く」と「後ろポケットに財布を入れる」の2つと統計的有意差があった（表6）。「空き巣への犯罪不安」がない人はある人よりも「音楽を聴きながら歩く」、そして「空き巣への犯罪不安」がある人はない人よりも「後ろポケットに財布を入れない」傾向がみられた。

この結果は、空き巣の不安を持つ多くは女性であることが関連しているだろう。「音楽を聴きながら歩く」と「後ろポケットに財布を入れる」を女性はあまり行わないことがこの結果に繋がったのだろう。

（6）通り魔の不安と個人的防犯・危険対策

通り魔の不安と個人的防犯・危険対策について関連をみたところ、「バックは道路の反対側に持つ」と「後ろポケットに財布を入れる」の2つと統計的有意差があった（表7）。しかし、通り魔への防犯対策として有効なのは、「音楽を聴きながら歩かないこと」と「歩きながら携帯電話を使用すること」であるため、通り魔の不安から行っている、防犯対策ではないとも言える。

この結果は、通り魔の不安とこの2つの防犯対策に関連があるというより、男女差が関係しているといえるだろう。通り魔は女性の方が不安を感じており、2つの防犯対策においても女性の方がしている人が多いことから、この結果がでたのであろう。

表7 通り魔の不安と個人的防犯・危険対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
バックは道路の反対側に持つ	通り魔不安あり	70.9	29.1	100.0	237	16.895	p=0.0001
	通り魔不安なし	50.6	49.4	100.0	162		
後ろポケットに財布を入れる	通り魔不安あり	11.4	88.6	100.0	237	26.222	p=0.0001
	通り魔不安なし	32.1	67.9	100.0	165		

（7）ひったくりの不安と個人的防犯・危険対策

表8 ひったくりの不安と個人的防犯・危険対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
歩きながら携帯を使用する	ひったくり不安あり	31.2	68.9	100.0	244	3.888	p=0.047
	ひったくり不安なし	40.8	59.2	100.0	157		
車道から離れた所を歩く	ひったくり不安あり	76.4	23.7	100.0	241	4.071	p=0.044
	ひったくり不安なし	67.1	32.9	100.0	155		
バックは道路の反対側に持つ	ひったくり不安あり	73.9	26.1	100.0	245	34.921	p=0.0001
	ひったくり不安なし	44.5	55.5	100.0	155		
バックはナナメがけにする	ひったくり不安あり	63.7	36.3	100.0	245	4.941	p=0.026
	ひったくり不安なし	52.5	47.5	100.0	158		
貴重品から目を離さない	ひったくり不安あり	93.9	6.1	100.0	245	11.223	p=0.001
	ひったくり不安なし	83.5	16.5	100.0	158		
トートバックで出かける	ひったくり不安あり	41.8	58.2	100.0	244	7.338	p=0.007
	ひったくり不安なし	28.5	71.5	100.0	158		
後ろポケットに財布を入れる	ひったくり不安あり	10.6	89.4	100.0	245	35.022	p=0.0001
	ひったくり不安なし	34.8	65.2	100.0	158		
個人情報載ったままゴミへ出す	ひったくり不安あり	33.9	66.1	100.0	245	6.782	p=0.009
	ひったくり不安なし	46.8	53.2	100.0	158		

ひったくりの不安と個人的防犯・危険対策について関連をみたところ、「歩きながら携帯を使用する」、「車道から離れた所を歩く」、「バックは道路の反対側に持つ」、「バックはナナメがけにする」、「貴重品から目を離さない」、「トートバックで出かける」、「後ろポケットに財布を入れる」、「郵便物は個人情報載ったままゴミを出す」の8つと統計的有意差

があった（表 8）。

8つの防犯対策が「ひったくりの不安」と有意差が出たのは、個人的防犯・危険対策として挙げたこれらは「ひったくり」用の防犯対策であったからである。また、この結果は、「ひったくり」は他の犯罪よりも個人的に防犯対策しやすいということにもなるだろう。

（8）ストーカーの不安と個人的防犯・危険対策

表 9 ストーカーの不安と個人的防犯・危険対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
バックは道路の反対側に持つ	ストーカー不安あり	78.5	21.5	100.0	79	10.727	p=0.001
	ストーカー不安なし	58.6	41.4	100.0	321		
後ろポケットに財布を入れる	ストーカー不安あり	11.4	88.6	100.0	79	4.639	p=0.031
	ストーカー不安なし	22.2	77.8	100.0	324		

ストーカーの不安と個人的防犯・危険対策について関連をみたところ、「バックは道路の反対側に持つ」と「後ろポケットに財布を入れる」の2つと統計的有意差があった（表 9）。

この結果は、ストーカーの不安とこの2つの防犯対策に関連があるというより、男女差が関係あるといえるだろう。ここで有意差がでた2つの防犯対策は、男女差が大きい。ストーカーに女性の方が不安を感じており、2つの防犯対策においても女性の方がしている人が多いことから、この結果がでたのであろう。

（9）架空請求の不安と個人的防犯・危険対策

表 10 架空請求の不安と個人的防犯・危険対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
携帯電話に鍵をかける	架空請求不安あり	12.0	88.0	100.0	142	5.407	p=0.020
	架空請求不安なし	22.1	77.9	100.0	163		

架空請求の不安と個人的防犯・危険対策について関連をみたところ、「携帯電話に鍵をかける」と統計的有意差があった（表 10）。よって、「架空請求不安の高い人は携帯電話に鍵をかけている人が少ない」といえる。

（10）放火の不安と個人的防犯・危険対策

表 11 放火の不安と個人的防犯・危険対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
バックは道路の反対側に持つ	放火不安あり	69.3	30.7	100.0	150	4.509	p=0.034
	放火不安なし	58.7	41.3	100.0	247		

放火の不安と個人的防犯・危険対策について関連をみたところ、「バックは道路の反対側に持つ」の個人的防犯・危険対策と統計的有意差があった（表 11）。しかし、「バックは道路の反対側に持つこと」は放火の直接的な対策とはならないことから、放火の不安とこの対策とはどのように関係しているのでしょうか。

（11）振り込め詐欺の不安と個人的防犯・危険対策

表 12 振り込め詐欺の不安と個人的防犯・危険対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
バックは道路の反対側に持つ	振り込め詐欺不安あり	73.3	26.7	100.0	116	7.668	p=0.006
	振り込め詐欺不安なし	58.5	41.5	100.0	287		

振り込め詐欺の不安と個人的防犯・危険対策について関連をみたところ、「バックは道路の反対側に持つ」の個人的防犯・危険対策と統計的有意差があった（表 12）。

（12）落書きの不安と個人的防犯・危険対策

落書きの不安と個人的防犯・危険対策との関連をみるためクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果、どの個人的防犯・危険対策とも統計的に有意差でみられるものがない。

これらの個人的防犯・危険対策は落書きの防犯対策となるようなものがないため、このような結果になったのだといえる。よって、落書きの不安とこれらの個人的防犯・危険対策には関連がないといえる。

1. 5 考察

以上の分析から、犯罪不安と個人的防犯・危険対策を行っているかどうかは、直接的な関連があるとは言えなかった。「ひったくり」に関しては比較的明瞭な関連がみられたが、それ以外では解釈可能な結果はあまりえられなかった。

2. 犯罪不安と自宅の防犯対策の促進

A82059 西之宮彩加

2. 1 問題意識とテーマ

テレビの防犯特集や地域の広報誌などで、防犯対策の様々な手段や、センサーライトなどの防犯グッズが取り上げられている。また、そういった防犯グッズはホームセンターなどで簡単に入手することができる。空き巣被害などの自身の家に関する犯罪不安が高い人は、自宅関連の防犯グッズを設置するといった防犯対策を行っているのだろうか。また、自宅に関する犯罪被害を見聞きした人は、そういった被害見聞が犯罪不安に繋がり、自宅の防犯対策を行うのだろうか。

犯罪不安は、自宅の防犯対策を促進するのか検証するために、「犯罪不安がある人ほど自宅の防犯対策を行う」「地域での被害見聞がある人ほど自宅の防犯対策を行う」「被害見聞と犯罪不安は、それぞれ独立して防犯対策を促進する」という仮説を立てた。

2. 2 仮説

- I 犯罪不安がある人ほど自宅の防犯対策を行う
- II 地域での被害見聞がある人ほど自宅の防犯対策を行う
- III 被害見聞と犯罪不安は、それぞれ独立して防犯対策を促進する

2. 3 仮説検証に使用する質問の単純集計結果

(1) 犯罪不安（独立変数）

犯罪不安を調べるために、罪種別の「あなたは、日頃、犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じていますか」という質問を用いた。この質問は、「不安である」「少し不安である」「あまり不安ではない」「不安ではない」の4件法で回答を求めたが、「不安である」「少し不安である」を“不安あり”、“あまり不安ではない」「不安ではない」を“不安なし”とカテゴリー統合した。

自宅に関係のある項目である空き巣不安、自宅への落書き不安を使用した。空き巣不安において、「不安あり」71.6%、「不安なし」28.4%で7割が自宅への空き巣被害を不安に思っていた。自宅への落書き不安は、「不安あり」18.7%、「不安なし」81.3%と、多くの人が不安に思っていなかった。

(2) 地域での被害見聞（独立変数）

地域での被害見聞を調べるために、「過去3年くらいの間に、あなたの住んでいる地域（徒歩15分くらいの範囲）で、以下の犯罪がおきたと聞いたり、見たりした事がありますか」という質問を用いた。

自宅に関する項目である、空き巣被害見聞を用いた。単純集計の結果、61.3%に空き巣被害見聞があり、33.3%に空き巣被害見聞がなかった。

(3) 自宅の防犯対策（従属変数）

自宅の防犯対策状況を調べるために、「あなたの家は、以下の防犯対策を行っていますか」という質問を用いた。「長時間留守にする時、新聞などがたまらないようにしておく」が73.8%、「短時間の外出でも玄関や窓の鍵をかける」が83.5%と半数以上が対策を行っているのに対し、他の9項目では半数以上が対策を行っていなかった。全体的にみて、防犯対策グッズを設置するよりも、出掛ける際の戸締りや、隣家に声をかけるといった防犯対策行動の方が行われていることが分かった。

表 1 自宅の防犯対策の単純集計

単位(%)

	はい	いいえ	計	
1) 玄関に補助鍵を設置 (ダミーも含め)	40.9	59.1	100.0	(416 人)
2) 窓の補助鍵を設置	27.4	72.6	100.0	(416 人)
3) 窓ガラスの強化 (防犯ガラス・防犯フィルム)	16.9	83.1	100.0	(414 人)
4) 郵便受けに鍵をかける	30.4	69.6	100.0	(414 人)
5) 長時間留守にする時、隣家に声をかけて行く	34.0	66.0	100.0	(415 人)
6) 長時間留守時、新聞などがたまらないようにしておく	73.8	26.2	100.0	(416 人)
7) セキュリティ会社との契約	7.5	92.5	100.0	(414 人)
8) センサーライト (人に反応して点くライト) の設置	23.0	77.0	100.0	(418 人)
9) 留守中にラジオをつけたままにしておく	5.0	95.0	100.0	(417 人)
10) 留守中に照明をつけたままにしておく	33.8	66.2	100.0	(417 人)
11) 短時間の外出でも玄関や窓の鍵をかける	83.5	16.5	100.0	(418 人)

2. 4 仮説の検証

(1) 仮説 I の検証

① 犯罪不安と自宅の防犯対策のクロス集計

表 2、3 は仮説 I の検証を行うために、「犯罪不安」を独立変数とし、「自宅の防犯対策」を従属変数としてクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果である。独立変数は、自宅の防犯対策に関係のある空き巣不安、自宅への落書き不安を用いた。

表 2 空き巣不安と自宅の防犯対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
玄関の補助鍵の設置	空き巣不安あり	44.6	55.4	100.0	287	7.667	p=0.006
	空き巣不安なし	29.5	70.5	100.0	112		
窓の補助鍵の設置	空き巣不安あり	31.7	68.3	100.0	287	7.696	p=0.006
	空き巣不安なし	17.9	82.1	100.0	112		
窓ガラスの強化	空き巣不安あり	18.9	81.1	100.0	286	1.604	p=0.205
	空き巣不安なし	13.5	86.5	100.0	111		
郵便受けに鍵	空き巣不安あり	26.3	73.7	100.0	285	10.288	p=0.001
	空き巣不安なし	42.9	57.1	100.0	112		
長期間留守時、隣家に声掛け	空き巣不安あり	35.4	64.6	100.0	288	0.315	p=0.574
	空き巣不安なし	32.4	67.6	100.0	111		
長期間留守時、新聞や郵便を止める	空き巣不安あり	74.3	25.7	100.0	288	0.404	p=0.525
	空き巣不安なし	71.2	28.8	100.0	111		
セキュリティ会社と契約	空き巣不安あり	8.0	92.0	100.0	286	0.077	p=0.781
	空き巣不安なし	7.2	92.8	100.0	111		
センサーライトの設置	空き巣不安あり	23.6	76.4	100.0	288	0.075	p=0.784
	空き巣不安なし	22.3	77.7	100.0	112		
留守中もラジオをつけておく	空き巣不安あり	5.9	94.1	100.0	288	3.021	p=0.082
	空き巣不安なし	1.8	98.2	100.0	112		
留守中も照明をつけておく	空き巣不安あり	38.5	61.5	100.0	288	10.562	p=0.001
	空き巣不安なし	21.4	78.6	100.0	112		
短時間の外出でも鍵をかける	空き巣不安あり	85.1	14.9	100.0	288	2.442	p=0.118
	空き巣不安なし	78.6	21.4	100.0	112		

結果として、「玄関の補助鍵の設置」「窓の補助鍵の設置」「郵便受けに鍵」「留守中も照明をつけておく」に 1%水準で有意な差がみられた。ただし、「郵便受けに鍵」に関しては、仮説とは逆方向の関連である。

空き巣不安においては、不安のある人において、玄関や窓に補助鍵を設置することで侵入を難しくしたり、留守中も照明などをつけておくことで、家に誰かがいると思わせ人が近づきにくくするといった対策が行われていることがわかった。

表 3 自宅への落書き不安と自宅の防犯対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
玄関の補助鍵の設置	落書き不安あり	52.6	47.4	100.0	76	0.052	p=0.014
	落書き不安なし	37.2	62.8	100.0	325		
窓の補助鍵の設置	落書き不安あり	34.2	65.8	100.0	76	0.353	p=0.141
	落書き不安なし	25.9	74.2	100.0	325		
窓ガラスの強化	落書き不安あり	35.5	64.5	100.0	76	0.648	p<.0001
	落書き不安なし	12.7	87.3	100.0	323		
郵便受けに鍵	落書き不安あり	25.0	75.0	100.0	76	3.175	p=0.186
	落書き不安なし	32.8	67.2	100.0	323		
長期間留守時、隣家に 声掛け	落書き不安あり	38.2	61.8	100.0	76	0.016	p=0.386
	落書き不安なし	32.9	67.1	100.0	325		
長期間留守時、新聞や 郵便を止める	落書き不安あり	79.2	20.8	100.0	77	0.192	p=0.216
	落書き不安なし	72.3	27.7	100.0	325		
セキュリティ会社と 契約	落書き不安あり	11.8	88.2	100.0	76	0.031	p=0.138
	落書き不安なし	6.8	93.2	100.0	324		
センサーライトの設置	落書き不安あり	31.2	68.8	100.0	77	0.008	p=0.045
	落書き不安なし	20.6	79.5	100.0	326		
留守中もラジオを つけておく	落書き不安あり	10.5	89.5	100.0	76	0.864	p=0.008
	落書き不安なし	3.4	96.6	100.0	326		
留守中も照明を つけておく	落書き不安あり	51.3	48.7	100.0	76	0.150	p=0.0002
	落書き不安なし	28.8	71.2	100.0	326		
短時間の外出でも 鍵をかける	落書き不安あり	89.6	10.4	100.0	77	0.019	p=0.091
	落書き不安なし	81.6	18.4	100.0	326		

結果として、「窓ガラスの強化」「留守中も照明をつけておく」に 0.1%水準、「留守中もラジオをつけておく」に 1%水準、「玄関の補助鍵の設置」「センサーライトの設置」に 5%水準で有意な差がみられた。

落書き不安のある人において、玄関の補助鍵の設置や窓ガラスの強化といった侵入防止対策が行われているが、留守中に照明やラジオをつけておくといった人が近づきにくいような対策が行われている。また、センサーライトを設置し、人が近づくとわかるような対策が行われている。

②仮説の検証

空き巣不安、自宅への落書き不安に共通して、不安がない人より不安がある人の方が「留守中も照明をつけておく」「玄関の補助鍵の設置」といった対策をしている。

加えて、空き巣不安では、「窓の補助鍵の設置」を行っており、「郵便受けに鍵」を行っていない。自宅への落書き不安では「窓ガラスの強化」「留守中もラジオをつけておく」「センサーライトの設置」を行っていることがわかった。

(2) 仮説Ⅱの検証

①クロス集計

仮説Ⅱの検証を行うために、「地域での被害見聞」を独立変数とし、「自宅の防犯対策」を従属変数としてそれぞれクロス集計し、 χ^2 検定を行った。独立変数は、自宅の防犯対策に関係のある空き巣被害見聞を用いた。

表 4 地域の空き巣被害見聞と自宅の防犯対策

		している	していない	合計	人数	χ^2 値	p 値
玄関の補助鍵の設置	被害見聞あり	51.8	48.2	100.0	137	9.280	p=0.002
	被害見聞なし	35.9	64.1	100.0	256		
窓の補助鍵の設置	被害見聞あり	35.8	64.2	100.0	137	7.741	p=0.005
	被害見聞なし	22.7	77.3	100.0	256		
窓ガラスの強化	被害見聞あり	22.1	77.9	100.0	136	3.162	p=0.075
	被害見聞なし	14.9	85.1	100.0	255		
郵便受けに鍵	被害見聞あり	22.1	77.9	100.0	136	8.121	p=0.004
	被害見聞なし	36.1	63.9	100.0	255		
長期間留守時、隣家に声掛け	被害見聞あり	50.0	50.0	100.0	138	21.221	p<.0001
	被害見聞なし	26.8	73.2	100.0	254		
長期間留守時、新聞や郵便を止める	被害見聞あり	80.4	19.6	100.0	138	3.876	p=0.049
	被害見聞なし	71.4	28.6	100.0	255		
セキュリティ会社と契約	被害見聞あり	6.6	93.4	100.0	137	0.221	p=0.639
	被害見聞なし	7.9	92.1	100.0	254		
センサーライトの設置	被害見聞あり	29.0	71.0	100.0	138	4.232	p=0.040
	被害見聞なし	19.8	80.2	100.0	257		
留守中もラジオをつけておく	被害見聞あり	4.4	95.7	100.0	138	0.104	p=0.747
	被害見聞なし	5.1	94.9	100.0	256		
留守中も照明をつけておく	被害見聞あり	46.4	53.6	100.0	138	14.473	p=0.000
	被害見聞なし	27.3	72.7	100.0	256		
短時間の外出でも鍵をかける	被害見聞あり	84.1	15.9	100.0	138	0.011	p=0.918
	被害見聞なし	83.7	16.3	100.0	257		

「長期間留守時、隣家に声掛け」「留守中も照明をつけておく」に 0.1%水準、「玄関の補助鍵の設置」「窓の補助鍵の設置」「郵便受けに鍵」に 1%水準、「長期間留守時、新聞や郵便を止める」「センサーライトの設置」に 5%水準で有意な差がみられた。ただし、「郵便受けに鍵」に関しては、仮説とは逆方向での関連である。

②仮説の検証

独立変数「地域の空き巣被害見聞」では、「玄関に補助鍵を設置」「窓の補助鍵を設置」「郵便受けに鍵をかける」「長期間留守にする時、隣家に声をかけて行く」「長期間留守時、新聞や郵便を止める」「センサーライトの設置」「留守中に照明をつけておく」の間で有意差がみられた。地域の空き巣被害見聞がある人は、被害見聞がない人より、「玄関に補助鍵を設置」「窓の補助鍵を設置」「長期間留守にする時、隣家に声をかけて行く」「長期間留守時、新聞や郵便を止める」「センサーライトの設置」「留守中に照明をつけておく」といった対策を行っており、「郵便受けに鍵をかける」といった対策を行っていないことがわかった。

(3) 仮説Ⅲの検証

①二重クロス集計

表 5、6 は仮説Ⅲの検証を行うために、「地域での空き巣被害見聞」の有無別に、「空き巣不安」を独立変数とし、「自宅の防犯対策」を従属変数としてそれぞれクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果であり、表 7、8 は「空き巣不安」の有無別に、「地域での空き巣被害見聞」を独立変数とし、「自宅の防犯対策」を従属変数としてそれぞれクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果である。自宅の防犯対策は、仮説Ⅰ、Ⅱの検証で空き巣項目において共に有意な差がみられた、玄関の補助鍵の設置と、窓の補助鍵の設置を用いた。

表 5 地域の空き巣被害見聞と空き巣不安と玄関の補助鍵の設置

		玄関の補助鍵		人数	χ^2 値	p 値
		あり	なし			
被害見聞あり	不安あり	54.8	45.2	115	1.982	p=0.159
	不安なし	38.1	61.9	21		
被害見聞なし	不安あり	38.8	61.3	160	2.477	p=0.116
	不安なし	28.7	71.3	87		

表 6 空き巣不安と地域の空き巣被害見聞と玄関の補助鍵の設置

		玄関の補助鍵		人数	χ^2 値	p 値
		あり	なし			
不安あり	被害見聞あり	54.8	45.2	115	6.937	p=0.008
	被害見聞なし	38.8	61.3	160		
不安なし	被害見聞あり	38.1	61.9	21	0.698	p=0.403
	被害見聞なし	28.7	71.3	87		

不安があるという条件下で、被害見聞の有無と玄関の補助鍵の設置に 1 % 水準で有意な差がみられた。玄関の補助鍵では、空き巣不安があるという条件下で、地域での空き巣被害見聞がある人は、地域での被害見聞がない人よりも補助鍵を設置していることがわかった。

表 7 地域の空き巣被害見聞と空き巣不安と窓の補助鍵の設置

		窓の補助鍵		人数	χ^2 値	p 値
		あり	なし			
被害見聞あり	不安あり	37.4	62.6	115	0.599	p=0.439
	不安なし	28.6	71.4	21		
被害見聞なし	不安あり	27.5	72.5	160	5.006	p=0.025
	不安なし	14.9	85.1	87		

表 8 空き巣不安と地域の空き巣被害見聞と窓の補助鍵の設置

		窓の補助鍵		人数	χ^2 値	p 値
		あり	なし			
不安あり	被害見聞あり	37.4	62.6	115	3.027	p=0.081
	被害見聞なし	27.5	72.5	160		
不安なし	被害見聞あり	28.6	71.4	21	not valid	p=0.141
	被害見聞なし	14.9	85.1	87		

地域の空き巣被害見聞がないという条件下で、空き巣不安の有無と窓の補助鍵の設置に 5 % 水準で有意な差がみられた。空き巣被害見聞がなくとも、不安のある人は有意に窓の補助鍵を設置していることがわかった。

2. 5 考察

自宅の防犯対策を全体的にみると、長時間留守にする時新聞などがたまらないようにしておくことと、短時間の外出でも玄関や窓の鍵をかけることを半数以上が行っていたのに対し、他の対策では実施率が低かった。防犯対策の内容をみると、防犯対策グッズを購入し設置するよりも、出掛ける際の戸締りや、隣家に声をかけるといった費用のかからない防犯対策行動の方が行われていることが分かった。

仮説 I 「犯罪不安がある人ほど自宅の防犯対策を行う」において、空き巣不安、自宅へ

の落書き不安に共通して、留守中の照明、玄関の補助鍵の設置という対策を行っていることがわかった。これは、留守中も自宅に誰かいるのではないかと思わせ、家に近づきにくくする対策と、全ての家に共通して一般的な侵入経路であると考えられる玄関の防犯を強化する対策が重視されているためだと考えられる。

空き巣不安では、留守中に照明をつけておく、玄関の補助鍵の設置に加え、窓の補助鍵の設置が行われていた。玄関の次に侵入されやすい窓の強化が重視されているためだろう。自宅への落書き不安では、留守中に照明をつけておく、玄関の補助鍵の設置に加え、窓ガラスの強化、留守中もラジオをつけておく、センサーライトの設置が行われていた。自宅への落書きに対して、自宅に人が近づきにくくする対策と、自宅への侵入を防ぐ対策が重視されているためだと考えられる。

空き巣不安に関して「郵便受けに鍵」にも有意な差がみられ、不安がある人のほうが不安のない人より対策を行っていなかったことがわかったが、どのような関連があるのか考察することはできなかった。

仮説Ⅱ「地域での被害見聞がある人ほど自宅の防犯対策を行う」において、自宅の防犯対策項目 11 項目のうち半数の 6 項目において有意な差が見られた。地域での空き巣被害見聞がある人は、被害見聞がない人より、自宅の防犯対策を行っていることがわかった。仮説Ⅰの犯罪不安と同様に、窓の補助鍵の設置や留守中に照明をつけたままにしておくといった対策が行われているが、地域の空き巣被害見聞においては、それに加えて、長時間留守にする時隣家に声をかけて行く、長時間留守にする時新聞などがたまらないようにしておく、センサーライトの設置といった対策が行われていた。

仮説Ⅲ「被害見聞と犯罪不安は、それぞれ独立して防犯対策を促進する」では、空き巣不安があるという条件下で、地域の空き巣被害見聞がある人の方が、ない人より玄関の補助鍵を設置していた。また、空き巣不安があるという条件下で、地域での空き巣被害見聞がある人の方が、被害見聞のない人より窓の補助鍵を設置していることに 10%水準で有意な傾向差がみられた。被害見聞は、犯罪不安とは独立して、防犯対策を促進するといえる。また、地域での空き巣被害見聞がないという条件下において、空き巣不安がある人の方が、空き巣不安がない人よりも窓の補助鍵を設置していることがわかった。被害見聞がなくとも、犯罪不安があれば防犯対策を行うのだと考えられる。結果、被害見聞と犯罪不安は、それぞれ独立して、直接に防犯対策と結びついているということが明らかになった。

自宅の防犯対策は、さまざまな対策方法があり、対策によって実施状況に大きな差があるが、費用のかからない防犯対策行動は比較的行われやすく、費用や設置に手間のかかる対策はあまり行われていないことがわかった。また、被害見聞は、犯罪不安を高め、防犯対策を促進させるが、被害見聞がなくとも犯罪不安が高ければ、その不安がある罪種により考えられる被害を防ぐための対策が行われることがわかった。

3. 一般的犯罪不安と社会への否定的評価

A82125 豊島 佳枝

3. 1 問題意識

近年、私は自分も含めて社会の犯罪に対する不安が大きくなってきていると考える。犯罪への不安は、社会全体に対し、否定的な評価をもたらすのではないかと考えた。そして、この節では、またその社会全体の根底にある「信頼」に注目する。「信頼」という関係性が人々の間にあることによって、人間関係や物事が進んでいく。犯罪や、犯罪不安は他者一般への信頼を低めることにつながらないだろうか。社会全体にかかる評価を、日本の公正、社会解体感、一般的信頼、若者観、厳罰化という領域に分けて、これらの社会全体への評価と罪種別の犯罪不安の関連も含めて考察していきたい。

3. 2 変数とカテゴリーの統合

一般的犯罪不安では「あなたは、日頃、ご自身が犯罪の被害にあうのではないかと不安に感じることはありませんか」という質問に対し、「よくある」、「たまにある」、「ほとんどない」、「全くない」の4件法で回答してもらった。「よくある」と「たまにある」を「不安あり」、「ほとんどない」、「全くない」を「不安なし」とし、2件法にカテゴリー統合した。社会全体の評価も同様に「そう思う」と、「そう思わない」の4件法から2件法にカテゴリー統合をした。

罪種別犯罪不安は、「悪質商法」「暴行などの暴力的な犯罪」「恐喝」「痴漢」「空き巣」「通り魔」「ひったくり」「ストーカー」「架空請求」「放火」「振り込め詐欺」「自宅などに落書き」の12項目を使用する。

社会全体を日本の公正、社会解体感、一般的信頼、若者観、厳罰化から捉えることにする。日本の公正さを測定する項目は「日本は公正な社会だ」、「日本は住みやすい社会だ」、「弱い立場の人に優しい社会だ」とする。社会解体感は「人と人とのつながりが弱くなってきている」、「伝統がきちんと伝えられなくなってきている」、「公共マナー（道徳）が守られなくなってきている」、「しつけができない親が多くなってきている」とする。一般的信頼を「たいていの人は信用できる」、「たいていの人は話し合えば理解できる」とする。若者観を「現在の若者はあいさつができない」、「現在の若者は身だしなみがだらしない」とする。厳罰化を「厳罰化は必要である」とし、以上の12項目を使用した。

3. 3 日本の公正、社会解体感、一般的信頼、若者観、厳罰化の単純集計結果

表1は日本の公正、社会解体感、一般的信頼、厳罰化、若者観の単純集計結果を表したものである。

(1) 単純集計の結果から、以下のことが読み取れる。日本の社会に対して「公正だと思う」は42.7%。「住みやすい社会である」と感じる人は77.3%。「弱い立場の人にやさしい社会である」25.5%であった。日本は住みやすいと考えている人が7割いたが、一方で弱い立場の人に対してやさしい社会ではないと考えているひとが多いことが分かる。

社会解体感では「つながりが弱くなってきている」と考える人は94.8%。「伝統が伝えられなくなってきている」93.1%。「公共マナーが守られてなくなっている」と考える人は91.6%。「しつけができない親が多くなっている」と考えている人は93.3%であった。この4つの項目で9割を超えているため、多くの人々に人間関係の希薄化や教育、道徳に対する評価が低いということが言えるのではないかと。

一般的信頼では「たいていの人は信用できる」と考える人は52.8%。「たいていの人は話し合えば理解できる」と考えている人は56.1%であった。

「現在の若者はあいさつができない」と考えている人は61.7%。「現在の若者は身だしなみがだらしない」と考えている人は58.9%であった。

表 1 日本の公正、社会解体感、一般的信頼、若者観、厳罰化の単純集計結果 (%)
社会全体に対しての考え方

	そう 思う	そう思 わない	計	
日本は公正な社会だと思う	42.7	57.3	100.0	(415 人)
日本は住みやすい社会だと思う	77.3	22.7	100.0	(419 人)
日本は社会的に弱い立場の人に優しい社会だ	25.5	74.5	100.0	(416 人)
人と人とのつながりが弱くなってきている	94.8	5.2	100.0	(420 人)
伝統がきちんと伝えられなくなっている	93.1	6.9	100.0	(420 人)
公共マナー（道徳）が守られなくなっている	91.6	8.3	100.0	(420 人)
子どものしつけができない親が多くなってきている	93.3	6.7	100.0	(420 人)
たいていの人は信用できると思う	52.8	47.2	100.0	(419 人)
たいていの人は話し合えば理解できると思う	56.1	43.9	100.0	(419 人)
現在の若者はあいさつができないと思う	61.7	38.3	100.0	(420 人)
現在の若者は身だしなみがだらしないと思う	58.9	41.1	100.0	(419 人)
厳罰化は必要であると思う	87.3	11.3	100.0	(420 人)

(2) 表 2 は一般的犯罪不安と、日本の公正、社会解体感、一般的信頼、厳罰化、若者観をクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果を表にしたものである。一般的犯罪不安と日本の公正、社会解体感、若者観、厳罰化に関して、5%水準での有意差はみられなかった。その中でも、日本の公正として「住みやすい社会だ」と、一般的信頼である「たいていの人は信用できる」の 2 つが 10%水準で傾向差があることが分かった。この 2 つ以外では一般的犯罪不安との関連は見られなかった。

表 2 一般的犯罪不安と日本の公正、社会解体感、一般的信頼、厳罰化、若者観

		そう		合計	人数	χ^2 値	p 値
		そう思う	思わない				
住みやすい社会だ	不安あり	75.2	24.8	100.0	238	2.863	p=0.091
	不安なし	82.2	17.8	100.0	174		
たいていの人は信用できる	不安あり	49.0	51.0	100.0	237	3.525	p=0.060
	不安なし	58.3	41.7	100.0	175		

(注) *は $p<0.05$ 、**は $p<0.01$ 、***は $p<0.001$ を示す

3. 4 罪種別犯罪不安と日本の公正、社会解体感、一般的信頼、厳罰化、若者観、厳罰化

次に、罪種別犯罪不安と日本の公正、社会解体感、一般的信頼、厳罰化、若者観、厳罰化についてクロス集計と χ^2 検定をし、分析を行う。

12 罪種別犯罪不安の有無を独立変数とし、社会全体への評価をたずねた 12 項目を従属変数とした計 144 通りのクロス集計を行った。その結果、5%水準で有意な差が見られたものを取り上げ、表 3 から示す。

(1) 罪種別犯罪不安と日本の公正

日本は住みやすい社会だと思うかどうかについてクロス集計を行った結果、「空き巣に入られる不安」、「架空請求にあう不安」、「放火にあう不安」、に 5%水準で有意な差が見られた。「振り込め詐欺にあう不安」は 1%水準で有意な差が見られた。これらから、財産犯に対して不安を持つ人は日本は住みやすい社会と思わないということが明らかになった。

表 3 罪種別犯罪不安と日本の公正

日本は住みやすい社会だ		そう 思う	そう思 わない	合計	人数	χ^2 値	p 値
空き巣に入られる 不安	不安あり	75.7	24.3	100.0	288	4.097*	p=0.043
	不安なし	85.0	15.0	100.0	113		
架空請求にあう不安	不安あり	73.8	26.2	100.0	183	4.073*	p=0.044
	不安なし	82.1	17.9	100.0	218		
放火にあう不安	不安あり	72.8	27.2	100.0	147	4.756*	p=0.029
	不安なし	82.1	17.9	100.0	251		
振り込め詐欺にあう 不安	不安あり	69.4	30.6	100.0	111	7.033**	p=0.008
	不安なし	81.6	18.4	100.0	293		

(注) *は $p<0.05$ 、**は $p<0.01$ 、***は $p<0.001$ を示す

(2) 罪種別犯罪不安と社会解体感

①表 4 は伝統がきちんと伝えられなくなっているかどうかについてのクロス集計を行ったものである。その結果、「自宅などに落書きされたりする不安」が 1 % 水準で有意な差が見られた。落書きされたりする不安がない人ほど、伝統がきちんと伝えられなくなっている、と考えていることが分かった。これは、想定していたのとは逆の方向での関連である。

表 4 罪種別犯罪不安と社会解体感

伝統がきちんと伝えられ なくなっている		そう 思う	そう 思わない	合計	人数	χ^2 値	p 値
自宅に落書きさ れたりする不安	不安あり	84.4	15.6	100.0	77	11.107**	p=0.001
	不安なし	95.1	4.9	100.0	328		

(注) *は $p<0.05$ 、**は $p<0.01$ 、***は $p<0.001$ を示す

②表 5 は公共マナー（道徳）が伝えられなくなっているかどうかについてのクロス集計を行ったものである。「ひったくりにあう不安」が 5 % 水準で有意な差が見られた。ひったくりにあう不安がある人ほど、公共マナー（道徳）が伝えられなくなっていると考えていることが分かった。

表 5 罪種別犯罪不安と社会解体感

公共マナー（道徳）が伝え られなくなっている		そう 思う	そう 思わない	合計	人数	χ^2 値	p 値
ひったくり にあう不安	不安あり	94.7	5.3	100.0	246	5.156*	p=0.023
	不安なし	88.5	11.5	100.0	157		

(注) *は $p<0.05$ 、**は $p<0.01$ 、***は $p<0.001$ を示す

③表 6 は子どものしつけができない親が多くなっているかどうかについてのクロス集計を行った。「痴漢にあう不安」が 5 % 水準で有意な差が見られた。犯罪不安が社会の評価を否定的にするという問題意識とは逆の関連が明らかになった。

表 6 罪種別犯罪不安と社会解体感

子どものしつけができない 親が多くなっている		そう 思う	そう 思わない	合計	人数	χ^2 値	p 値
痴漢にあ う不安	不安あり	89.8	10.2	100.0	127	4.316*	p=0.038
	不安なし	95.3	4.7	100.0	274		

(注) *は $p<0.05$ 、**は $p<0.01$ 、***は $p<0.001$ を示す

（３）罪種別犯罪不安と一般的信頼

①表 7 はたいていの人は信用できるかどうかについてクロス集計を行った結果である。「暴行などの暴力的な犯罪にあう不安」は 0.1%水準で有意な差が見られた。「恐喝にあう不安」、「痴漢にあう不安」、「通り魔にあう不安」、「ひったくりにあう不安」は 1%水準で有意な差が見られた。

これらの項目に共通して言えることは、身体的接触があるということである。一般的犯罪不安では、わずかに 10%水準で有意な差が見られたが、罪種別犯罪不安では、暴力的なものを含む身体犯に関する項目で有意な関連があることが分かった。

表 7 罪種別犯罪不安と一般的信頼

たいていの人は信用できる		そう 思う	そう 思わない	合計	人数	χ^2 値	p 値
暴行などの暴力的な犯罪にあう不安	不安あり	44.3	55.7	100.0	203	12.624***	p=0.0004
	不安なし	62.0	38.0	100.0	200		
恐喝にあう不安	不安あり	42.3	57.7	100.0	137	9.915**	p=0.001
	不安なし	58.9	41.1	100.0	265		
痴漢にあう不安	不安あり	42.9	57.1	100.0	126	8.375**	p=0.004
	不安なし	58.4	41.6	100.0	274		
通り魔にあう不安	不安あり	46.0	54.0	100.0	235	10.546**	p=0.001
	不安なし	62.4	37.6	100.0	165		
ひったくりにあう不安	不安あり	47.5	52.5	100.0	244	8.082**	p=0.005
	不安なし	62.0	38.0	100.0	158		

（注）*は $p<0.05$ 、**は $p<0.01$ 、***は $p<0.001$ を示す

②表 8 はたいていの人は話し合えば理解できると思うかどうかについてクロス集計を行ったものである。「ひったくりにあう不安」、「放火にあう不安」、「自宅などに落書きされたりする不安」は 5%水準で有意な差が見られた。

表 8 罪種別犯罪不安と一般的信頼

たいていの人は話し合えば理解できると思う		そう 思う	そう 思わない	合計	人数	χ^2 値	p 値
ひったくりにあう不安	不安あり	51.0	49.0	100.0	245	5.619*	p=0.018
	不安なし	63.1	36.9	100.0	157		
放火にあう不安	不安あり	49.3	50.7	100.0	148	4.635	p=0.031
	不安なし	60.4	39.6	100.0	250		
自宅などに落書きされたりする不安	不安あり	45.5	54.6	100.0	77	4.244*	p=0.039
	不安なし	58.4	41.6	100.0	327		

（注）*は $p<0.05$ 、**は $p<0.01$ 、***は $p<0.001$ を示す

（４）罪種別犯罪不安と若者観

①現在の若者はあいさつができないと思うかどうかについてのクロス集計を行った結果、「悪質商法に遭う不安」が 5%水準で有意な差が見られた。

表 9 罪種別犯罪不安と若者観

現在の若者はあいさつができないと思う		そう 思う	そう 思わない	合計	人数	χ^2 値	p 値
悪質商法にあう不安	不安あり	68.4	31.6	100.0	155	4.991*	p=0.026
	不安なし	57.3	42.7	100.0	248		

（注）*は $p<0.05$ 、**は $p<0.01$ 、***は $p<0.001$ を示す

②現在の若者は身だしなみがだらしないと思うかどうかについてのクロス集計を行った。「架空請求にあう不安」は1%水準で有意な差が見られた。「悪質商法に遭う不安」、「通り魔にあう不安」、「振り込め詐欺にあう不安」は5%水準で有意な差が見られた。共通していることは財産犯で高く関連が見られたことである。これらは、高齢者や、中高年の若者全般への不安があらわれたためではないだろうか。若者全般への拒否的感覚がこのような不安を持つ人に若者の身だしなみはだらしないという否定的評価を高めることになったのではないだろうか。

表 10 罪種別犯罪不安と若者観

現在の若者は身だしなみがだらしない		そう思う	そう 思わない	合計	人数	χ^2 値	p 値
悪質商法に遭う不安	不安あり	66.5	33.6	100.0	155	6.638*	p=0.010
	不安なし	53.4	46.6	100.0	247		
通り魔にあう不安	不安あり	62.7	37.3	100.0	236	4.206*	p=0.040
	不安なし	52.4	47.6	100.0	164		
架空請求にあう不安	不安あり	66.1	33.9	100.0	183	8.884**	p=0.002
	不安なし	51.4	48.6	100.0	218		
振り込め詐欺にあう不安	不安あり	67.0	33.0	100.0	112	4.927*	p=0.026
	不安なし	54.8	45.2	100.0	292		

(注) *は $p<0.05$ 、**は $p<0.01$ 、***は $p<0.001$ を示す

(5) 罪種別犯罪不安と厳罰化

表 11 罪種別犯罪不安と厳罰化

厳罰化は必要		必要	必要で ない	合計	人数	χ^2 値	p 値
暴力的な犯罪にあう不安	不安あり	92.2	7.8	100.0	204	5.759*	p=0.016
	不安なし	84.5	15.5	100.0	200		
恐喝にあう不安	不安あり	94.2	5.8	100.0	138	6.549*	p=0.010
	不安なし	85.7	14.3	100.0	265		
空き巣に入られる不安	不安あり	91.0	9.0	100.0	288	5.845*	p=0.016
	不安なし	82.5	17.5	100.0	114		
通り魔にあう不安	不安あり	92.3	7.7	100.0	235	8.122*	p=0.004
	不安なし	83.1	16.9	100.0	166		
ストーカーにあう不安	不安あり	96.2	3.8	100.0	79	5.671*	p=0.017
	不安なし	86.7	13.3	100.0	323		

(注) *は $p<0.05$ 、**は $p<0.01$ 、***は $p<0.001$ を示す

厳罰化についてのクロス集計を行った。「暴行などの暴力的な犯罪にあう不安」、「恐喝にあう不安」、「空き巣に入られる不安」、「通り魔にあう不安」、「ストーカーにあう不安」は5%水準で有意な差が見られた。項目を見ても身体接触に対する不安がある人が、厳罰化は必要であると考えていることがわかる。

3.5 考察

結論として、犯罪不安は社会に対する評価を低下させるということが言える。社会の根幹でもある「一般的信頼」に関して、犯罪不安と有意な関連が他の項目よりも多く見られたからである。

一般的犯罪不安と社会の公正、社会解体感、一般的信頼、若者観、厳罰化についてクロス集計を行ったが有意な差がみられなかった。しかし、わずかに「住みやすい社会」、「た

いていの人は信用できる」が 10%水準で傾向差が見られた。罪種別犯罪不安とこれらの項目の χ^2 検定を行ったところ、表 3 から表 11 のような結果が出た。

特に注目したいのは表 7 と表 8 である。表 7 からは、「たいていの人は信用できる」に関して、身体的接触がある犯罪に不安を持つ人ほど、他者への信頼が低いということが分かった。人々の信頼を損ねるものは、財産犯ではなく、自分の体に危害を加えるような暴力に対する不安だと言える。ということは、表 7 に記された罪種別犯罪不安を持つ人ほど、対人関係において、人と深く関わりにくくなる、援助する、してもらおうという行為がしにくくなるということにもつながるのではないか。

また表 8 の「たいていの人は話し合えば理解できる」に関しても、罪種別犯罪不安と関連がみられた。つまり、犯罪不安は他者との理解可能性の見積もりを低下させるということを示している。援助行動をとりにくくさせる可能性があるのではないだろうか。

多数の罪種別犯罪不安が若者への低評価と関連しており、厳罰化に対しても有意な関連が見られた。

あなたは犯罪に対して不安はありますか、という一般的犯罪不安では社会全体との明確な関連を分析することはできなかったが、一つ一つの罪種別の犯罪不安と社会全体の評価との有意な関連を分析することによって結果的に、不安は人々の社会に対する評価を低下させるということが明らかになったのではないかと考える。

あとがき

この「フィールドワークⅠ・Ⅱ」で実施した調査は、学生たちにとってみれば、初めて一般市民を対象とした調査であり、学生だからという一切の甘えが許されないなかで初めて実施した調査である。

はしがきにも書かれているとおり、この「フィールドワークⅠ・Ⅱ」は、調査の企画から始まり、仮説の検討、それに基づいた調査票の設計、実査、その結果を統計解析によって仮説検証し、報告書としてまとめるという社会調査に必要な一連の作業に、教員・助手・TAの支援のもとで、学生たちが取り組む科目である。学生たちは、時にグループの力で、時に一人の力で一連の過程を力強く歩んでくれた。

ところで、本科目は、本学における「淑徳大学社会調査士資格」を取得するための科目として2003（平成15）年度に開講された。その後、同年11月に日本教育社会学会、日本行動計量学会および日本社会学会によって任意団体である「社会調査士認定機構」（2008年12月に「一般社団法人 社会調査協会」に改組）が発足し、「社会調査士資格」の認定が始まり、「フィールドワークⅠ・Ⅱ」という科目は、「社会調査士資格」の認定に必要な科目としても位置づけられるようになった。

この「淑徳大学社会調査士資格」ならびに「社会調査士資格」という2つの資格を取得するためには、学生たちはこの「フィールドワークⅠ・Ⅱ」の科目単位を取得するだけではなく、1、2年次からの積み重ねが必要であった。1、2年次において、社会調査の基本的事項に関する科目（本学では「社会調査論」）、調査設計と実施方法に関する科目（本学では「社会調査演習Ⅰ」）、基本的な資料とデータの分析に関する科目（本学では「統計解析法」「社会調査演習Ⅱ」）、社会調査に必要な統計学に関する科目（本学では「社会統計学」）の単位を取得し、そのうえで3年次において、量的データ解析の方法に関する科目（本学では「応用統計解析」一前期開講科目）、社会調査の実習を中心とする科目（本学では「フィールドワークⅠ・Ⅱ」一通年開講科目）の単位を取得しなければならない。

したがって、本報告書に至る道程は、——大げさかもしれないが——すでに1、2年次から始まっていたということができ、学生たちは大学入学当初から数えて約3年の歳月のうえで本報告書を書き上げるに至っている。3年をかけて積み重ねてきたという道のりを改めて思えば、学生たちには本当に頭が下がる。助手・TAというわれわれ2人の立場からすれば、学生たちには、一つ一つのことを積み重ねていくことができる力が自分にはしっかりと備わっているのだということに気づき、自信にしていってほしい。

本報告書の作成にあたっては、一般市民である調査対象者をはじめ、さまざまな方々の理解を得られてこそ可能だったことはいまでもない。末筆ながら、調査を実施させていただくにあって、本調査にご協力いただいた千葉市各区役所の市民課の皆様、住民基本台帳より選出させていただいた市民の皆様、またインタビューに応じてくださった皆様各位に、心より感謝を申し上げたい。

平成23年3月

社会調査助手 本多 敏明
教育助手補 佐藤 麻衣

単 純 集 計 表

A1 本人犯罪不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	27	6.3%	6.3%	6.3%
	たまにある	214	50.2%	50.2%	56.6%
	ほとんどない	155	36.4%	36.4%	93.0%
	全くない	23	5.4%	5.4%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A2 同居家族犯罪不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	45	10.6%	10.6%	10.6%
	たまにある	236	55.4%	55.4%	66.0%
	ほとんどない	97	22.8%	22.8%	88.7%
	全くない	12	2.8%	2.8%	91.5%
	同居家族はいない	30	7.0%	7.0%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A3 夜の一人歩き不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常に不安	28	6.6%	6.6%	6.6%
	ある程度不安	187	43.9%	43.9%	50.5%
	あまり感じない	115	27.0%	27.0%	77.5%
	全く感じない	11	2.6%	2.6%	80.0%
	出歩かない	78	18.3%	18.3%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A41 悪質商法にあう不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安である	38	8.9%	8.9%	8.9%
	少し不安である	122	28.6%	28.6%	37.6%
	あまり不安ではない	169	39.7%	39.7%	77.2%
	不安ではない	80	18.8%	18.8%	96.0%
	無回答	17	4.0%	4.0%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A42 暴力的な犯罪にあう不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安である	31	7.3%	7.3%	7.3%
	少し不安である	175	41.1%	41.1%	48.4%
	あまり不安ではない	160	37.6%	37.6%	85.9%
	不安ではない	44	10.3%	10.3%	96.2%
	無回答	16	3.8%	3.8%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A43 恐喝にあう不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安である	21	4.9%	4.9%	4.9%
	少し不安である	119	27.9%	27.9%	32.9%
	あまり不安ではない	204	47.9%	47.9%	80.8%
	不安ではない	65	15.3%	15.3%	96.0%
	無回答	17	4.0%	4.0%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A44 痴漢にあう不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安である	25	5.9%	5.9%	5.9%
	少し不安である	103	24.2%	24.2%	30.0%
	あまり不安ではない	156	36.6%	36.6%	66.7%
	不安ではない	123	28.9%	28.9%	95.5%
	無回答	19	4.5%	4.5%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A45 空き巣に入られる不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安である	102	23.9%	23.9%	23.9%
	少し不安である	190	44.6%	44.6%	68.5%
	あまり不安ではない	93	21.8%	21.8%	90.4%
	不安ではない	23	5.4%	5.4%	95.8%
	無回答	18	4.2%	4.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A46 通り魔にあう不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安である	53	12.4%	12.4%	12.4%
	少し不安である	186	43.7%	43.7%	56.1%
	あまり不安ではない	127	29.8%	29.8%	85.9%
	不安ではない	41	9.6%	9.6%	95.5%
	無回答	19	4.5%	4.5%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A47 ひったくりにあう不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安である	62	14.6%	14.6%	14.6%
	少し不安である	185	43.4%	43.4%	58.0%
	あまり不安ではない	119	27.9%	27.9%	85.9%
	不安ではない	42	9.9%	9.9%	95.8%
	無回答	18	4.2%	4.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A48 ストーカーにあう不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安である	13	3.1%	3.1%	3.1%
	少し不安である	67	15.7%	15.7%	18.8%
	あまり不安ではない	194	45.5%	45.5%	64.3%
	不安ではない	134	31.5%	31.5%	95.8%
	無回答	18	4.2%	4.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A49 架空請求にあう不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安である	39	9.2%	9.2%	9.2%
	少し不安である	149	35.0%	35.0%	44.1%
	あまり不安ではない	161	37.8%	37.8%	81.9%
	不安ではない	59	13.8%	13.8%	95.8%
	無回答	18	4.2%	4.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A410 放火にあう不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安である	36	8.5%	8.5%	8.5%
	少し不安である	115	27.0%	27.0%	35.4%
	あまり不安ではない	169	39.7%	39.7%	75.1%
	不安ではない	85	20.0%	20.0%	95.1%
	無回答	21	4.9%	4.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A411 振り込め詐欺にあう不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安である	19	4.5%	4.5%	4.5%
	少し不安である	97	22.8%	22.8%	27.2%
	あまり不安ではない	169	39.7%	39.7%	66.9%
	不安ではない	126	29.6%	29.6%	96.5%
	無回答	15	3.5%	3.5%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A412 自宅などに落書きされる不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安である	10	2.3%	2.3%	2.3%
	少し不安である	67	15.7%	15.7%	18.1%
	あまり不安ではない	197	46.2%	46.2%	64.3%
	不安ではない	137	32.2%	32.2%	96.5%
	無回答	15	3.5%	3.5%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A5 過去3年間の知人の犯罪被害

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	はい	111	26.1%	26.1%	26.1%
	いいえ	307	72.1%	72.1%	98.1%
	無回答	8	1.9%	1.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A61 被害経験・悪質商法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	362	85.0%	85.0%	85.0%
	あてはまる	20	4.7%	4.7%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A62 被害経験・暴行など

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	374	87.8%	87.8%	87.8%
	あてはまる	8	1.9%	1.9%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A63 被害経験・恐喝

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	380	89.2%	89.2%	89.2%
	あてはまる	2	0.5%	0.5%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A64 被害経験・痴漢

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	372	87.3%	87.3%	87.3%
	あてはまる	10	2.3%	2.3%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A65 被害経験・空き巣

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	367	86.2%	86.2%	86.2%
	あてはまる	15	3.5%	3.5%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A66 被害経験・通り魔

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	379	89.0%	89.0%	89.0%
	あてはまる	3	0.7%	0.7%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A67 被害経験・ひったくり

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	364	85.4%	85.4%	85.4%
	あてはまる	18	4.2%	4.2%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A68 被害経験・ストーカー

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	376	88.3%	88.3%	88.3%
	あてはまる	6	1.4%	1.4%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A69 被害経験・架空請求

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	340	79.8%	79.8%	79.8%
	あてはまる	42	9.9%	9.9%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A610 被害経験・放火

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	382	89.7%	89.7%	89.7%
	あてはまる	0	-	-	-
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A611 被害経験・振り込め詐欺

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	336	78.9%	78.9%	78.9%
	あてはまる	46	10.8%	10.8%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A612 被害経験・自宅など落書き

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	379	89.0%	89.0%	89.0%
	あてはまる	3	0.7%	0.7%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A613 被害経験・自転車盗

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	285	66.9%	66.9%	66.9%
	あてはまる	97	22.8%	22.8%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A614 被害経験・車上荒らし

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	349	81.9%	81.9%	81.9%
	あてはまる	33	7.7%	7.7%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A615 被害経験・その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	356	83.6%	83.6%	83.6%
	あてはまる	26	6.1%	6.1%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A616 被害経験・なし

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	212	49.8%	49.8%	49.8%
	あてはまる	170	39.9%	39.9%	89.7%
	無回答	44	10.3%	10.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A71 被害見聞・悪質商法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	386	90.6%	90.6%	90.6%
	あてはまる	17	4.0%	4.0%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A72 被害見聞・暴行など

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	389	91.3%	91.3%	91.3%
	あてはまる	14	3.3%	3.3%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A73 被害見聞・恐喝

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	397	93.2%	93.2%	93.2%
	あてはまる	6	1.4%	1.4%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A74 被害見聞・痴漢

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	355	83.3%	83.3%	83.3%
	あてはまる	48	11.3%	11.3%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A75 被害見聞・空き巣

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	261	61.3%	61.3%	61.3%
	あてはまる	142	33.3%	33.3%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A76 被害見聞・通り魔

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	397	93.2%	93.2%	93.2%
	あてはまる	6	1.4%	1.4%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A77 被害見聞・ひったくり

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	310	72.8%	72.8%	72.8%
	あてはまる	93	21.8%	21.8%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A78 被害見聞・ストーカー

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	387	90.8%	90.8%	90.8%
	あてはまる	16	3.8%	3.8%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A79 被害見聞・架空請求

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	388	91.1%	91.1%	91.1%
	あてはまる	15	3.5%	3.5%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A710 被害見聞・放火

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	398	93.4%	93.4%	93.4%
	あてはまる	5	1.2%	1.2%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A711 被害見聞・振り込め詐欺

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	368	86.4%	86.4%	86.4%
	あてはまる	35	8.2%	8.2%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A712 被害見聞・自宅など落書き

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	397	93.2%	93.2%	93.2%
	あてはまる	6	1.4%	1.4%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A713 被害見聞・自転車盗

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	234	54.9%	54.9%	54.9%
	あてはまる	169	39.7%	39.7%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A714 被害見聞・車上荒らし

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	243	57.0%	57.0%	57.0%
	あてはまる	160	37.6%	37.6%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A715 被害見聞・その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	382	89.7%	89.7%	89.7%
	あてはまる	21	4.9%	4.9%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

A716 被害見聞・なし

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	327	76.8%	76.8%	76.8%
	あてはまる	76	17.8%	17.8%	94.6%
	無回答	23	5.4%	5.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

B1 街灯の少ない道

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんある	82	19.2%	19.2%	19.2%
	少しある	229	53.8%	53.8%	73.0%
	あまりない	93	21.8%	21.8%	94.8%
	まったくない	10	2.3%	2.3%	97.2%
	無回答	12	2.8%	2.8%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

B2 人通りの少ない道

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんある	127	29.8%	29.8%	29.8%
	少しある	242	56.8%	56.8%	86.6%
	あまりない	42	9.9%	9.9%	96.5%
	まったくない	5	1.2%	1.2%	97.7%
	無回答	10	2.3%	2.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

B3 普段からゴミが散乱している場所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんある	24	5.6%	5.6%	5.6%
	少しある	105	24.6%	24.6%	30.3%
	あまりない	229	53.8%	53.8%	84.0%
	まったくない	53	12.4%	12.4%	96.5%
	無回答	15	3.5%	3.5%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

B4 粗大ゴミが放置されている場所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんある	17	4.0%	4.0%	4.0%
	少しある	110	25.8%	25.8%	29.8%
	あまりない	194	45.5%	45.5%	75.4%
	まったくない	89	20.9%	20.9%	96.2%
	無回答	16	3.8%	3.8%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

B5 人が潜んでいてもわからない場所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんある	63	14.8%	14.8%	14.8%
	少しある	210	49.3%	49.3%	64.1%
	あまりない	119	27.9%	27.9%	92.0%
	まったくない	16	3.8%	3.8%	95.8%
	無回答	18	4.2%	4.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

B6 壁に落書きがされている場所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんある	3	0.7%	0.7%	0.7%
	少しある	84	19.7%	19.7%	20.4%
	あまりない	224	52.6%	52.6%	73.0%
	まったくない	98	23.0%	23.0%	96.0%
	無回答	17	4.0%	4.0%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

B7 タバコの吸殻

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんある	59	13.8%	13.8%	13.8%
	少しある	199	46.7%	46.7%	60.6%
	あまりない	138	32.4%	32.4%	93.0%
	まったくない	17	4.0%	4.0%	96.9%
	無回答	13	3.1%	3.1%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

B8 乗り捨てられた自転車

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんある	30	7.0%	7.0%	7.0%
	少しある	217	50.9%	50.9%	58.0%
	あまりない	139	32.6%	32.6%	90.6%
	まったくない	32	7.5%	7.5%	98.1%
	無回答	8	1.9%	1.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C11 交番

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ない	193	45.3%	45.3%	45.3%
	ある	224	52.6%	52.6%	97.9%
	無回答	9	2.1%	2.1%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C12 カラオケ店

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ない	311	73.0%	73.0%	73.0%
	ある	106	24.9%	24.9%	97.9%
	無回答	9	2.1%	2.1%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C13 パチンコ店

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ない	274	64.3%	64.3%	64.3%
	ある	143	33.6%	33.6%	97.9%
	無回答	9	2.1%	2.1%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C14 居酒屋

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ない	152	35.7%	35.7%	35.7%
	ある	265	62.2%	62.2%	97.9%
	無回答	9	2.1%	2.1%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C15 漫画喫茶・ネットカフェ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ない	378	88.7%	88.7%	88.7%
	ある	39	9.2%	9.2%	97.9%
	無回答	9	2.1%	2.1%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C16 見通しの悪い公園

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ない	264	62.0%	62.0%	62.0%
	ある	153	35.9%	35.9%	97.9%
	無回答	9	2.1%	2.1%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C17 すべてない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	すべてない	49	11.5%	11.5%	97.9%
	それ以外	368	86.4%	86.4%	86.4%
	無回答	9	2.1%	2.1%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C21 入れ墨やタトゥーを入れている人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	10	2.3%	2.3%	2.3%
	たまにある	75	17.6%	17.6%	20.0%
	あまりない	152	35.7%	35.7%	55.6%
	まったくない	181	42.5%	42.5%	98.1%
	無回答	8	1.9%	1.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C22 暴力団と付き合いのある人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	5	1.2%	1.2%	1.2%
	たまにある	23	5.4%	5.4%	6.6%
	あまりない	156	36.6%	36.6%	43.2%
	まったくない	231	54.2%	54.2%	97.4%
	無回答	11	2.6%	2.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C23 歩きタバコをしている人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	86	20.2%	20.2%	20.2%
	たまにある	224	52.6%	52.6%	72.8%
	あまりない	87	20.4%	20.4%	93.2%
	まったくない	21	4.9%	4.9%	98.1%
	無回答	8	1.9%	1.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C24 道ばたにたむろしている若者

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	34	8.0%	8.0%	8.0%
	たまにある	167	39.2%	39.2%	47.2%
	あまりない	168	39.4%	39.4%	86.6%
	まったくない	49	11.5%	11.5%	98.1%
	無回答	8	1.9%	1.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C25 コンビニにたむろする若者

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	43	10.1%	10.1%	10.1%
	たまにある	180	42.3%	42.3%	52.3%
	あまりない	154	36.2%	36.2%	88.5%
	まったくない	42	9.9%	9.9%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C26 夜に騒ぎ声

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	27	6.3%	6.3%	6.3%
	たまにある	156	36.6%	36.6%	43.0%
	あまりない	180	42.3%	42.3%	85.2%
	まったくない	56	13.1%	13.1%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C27 夜に若者の集まり

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	17	4.0%	4.0%	4.0%
	たまにある	116	27.2%	27.2%	31.2%
	あまりない	214	50.2%	50.2%	81.5%
	まったくない	70	16.4%	16.4%	97.9%
	無回答	9	2.1%	2.1%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C28 バイク乗り回し

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	33	7.7%	7.7%	7.7%
	たまにある	186	43.7%	43.7%	51.4%
	あまりない	155	36.4%	36.4%	87.8%
	まったくない	45	10.6%	10.6%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

C29 酔っ払い

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	18	4.2%	4.2%	4.2%
	たまにある	109	25.6%	25.6%	29.8%
	あまりない	221	51.9%	51.9%	81.7%
	まったくない	71	16.7%	16.7%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D1 青パトを見かける頻度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく見る	38	8.9%	8.9%	8.9%
	たまに見る	145	34.0%	34.0%	43.0%
	あまり見ない	136	31.9%	31.9%	74.9%
	全く見ない	104	24.4%	24.4%	99.3%
	無回答	3	0.7%	0.7%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D2 地域防犯パトロールへの参加

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	参加している	30	7.0%	7.0%	7.0%
	たまに参加する	46	10.8%	10.8%	17.8%
	あまり参加しない	53	12.4%	12.4%	30.3%
	全く参加しない	292	68.5%	68.5%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D3 防犯カメラの設置

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要だと思う	190	44.6%	44.6%	44.6%
	やや必要だと思う	176	41.3%	41.3%	85.9%
	あまり必要だと思わない	46	10.8%	10.8%	96.7%
	全く必要だと思わない	8	1.9%	1.9%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D4 近所に「子ども110番」

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんある	72	16.9%	16.9%	16.9%
	ややある	183	43.0%	43.0%	59.9%
	あまりない	107	25.1%	25.1%	85.0%
	全くない	43	10.1%	10.1%	95.1%
	無回答	21	4.9%	4.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D51 認知・落書き防止条例

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	373	87.6%	87.6%	87.6%
	知っている	46	10.8%	10.8%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D52 認知・路上喫煙防止条例

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	204	47.9%	47.9%	47.9%
	知っている	215	50.5%	50.5%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D53 認知・雑草除去条例

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	364	85.4%	85.4%	85.4%
	知っている	55	12.9%	12.9%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D54 認知・自転車放置防止条例

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	194	45.5%	45.5%	45.5%
	知っている	225	52.8%	52.8%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D55 認知・空き缶の散乱防止条例

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知らない	397	93.2%	93.2%	93.2%
	知っている	22	5.2%	5.2%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D56 認知・どれも知らない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	294	69.0%	69.0%	69.0%
	あてはまる	125	29.3%	29.3%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D61 評価・落書き防止条例

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても役に立つ	146	34.3%	34.3%	34.3%
	やや役に立つ	157	36.9%	36.9%	71.1%
	あまり役に立たない	85	20.0%	20.0%	91.1%
	全く役に立たない	27	6.3%	6.3%	97.4%
	無回答	11	2.6%	2.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D62 評価・路上喫煙防止条例

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても役に立つ	179	42.0%	42.0%	42.0%
	やや役に立つ	154	36.2%	36.2%	78.2%
	あまり役に立たない	64	15.0%	15.0%	93.2%
	全く役に立たない	20	4.7%	4.7%	97.9%
	無回答	9	2.1%	2.1%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D63 評価・雑草除去条例

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても役に立つ	138	32.4%	32.4%	32.4%
	やや役に立つ	137	32.2%	32.2%	64.6%
	あまり役に立たない	109	25.6%	25.6%	90.1%
	全く役に立たない	31	7.3%	7.3%	97.4%
	無回答	11	2.6%	2.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D64 評価・自転車放置防止条例

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても役に立つ	179	42.0%	42.0%	42.0%
	やや役に立つ	147	34.5%	34.5%	76.5%
	あまり役に立たない	68	16.0%	16.0%	92.5%
	全く役に立たない	25	5.9%	5.9%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

D65 評価・空き缶の散乱防止条例

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても役に立つ	176	41.3%	41.3%	41.3%
	やや役に立つ	141	33.1%	33.1%	74.4%
	あまり役に立たない	73	17.1%	17.1%	91.5%
	全く役に立たない	28	6.6%	6.6%	98.1%
	無回答	8	1.9%	1.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

E1 自治会・町内会への加入

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	加入している	332	77.9%	77.9%	77.9%
	加入していない	88	20.7%	20.7%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

E2 住民団体への所属

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	所属している	155	36.4%	36.4%	36.4%
	所属していない	266	62.4%	62.4%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

E3 近所の葬式への参列

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ほとんど参列する	59	13.8%	13.8%	13.8%
	たいてい参列する	150	35.2%	35.2%	49.1%
	ほとんど参列しない	128	30.0%	30.0%	79.1%
	しない	82	19.2%	19.2%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

E4 回覧板

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	回ってくる	318	74.6%	74.6%	74.6%
	回ってこない	102	23.9%	23.9%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

E5 地域に挨拶をする人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんいる	182	42.7%	42.7%	42.7%
	少しいる	199	46.7%	46.7%	89.4%
	あまりいない	26	6.1%	6.1%	95.5%
	全くいない	14	3.3%	3.3%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

E6 地域に助けてくれる人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	たくさんいる	57	13.4%	13.4%	13.4%
	少しいる	206	48.4%	48.4%	61.7%
	あまりいない	107	25.1%	25.1%	86.9%
	全くいない	49	11.5%	11.5%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

E7 地域における人々の交流

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくしていると思う	74	17.4%	17.4%	17.4%
	少しはしていると思う	194	45.5%	45.5%	62.9%
	あまりしていないように思う	97	22.8%	22.8%	85.7%
	ほとんどしていないように思う	55	12.9%	12.9%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

E8 地域住民で問題を解決できるか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とてもそう思う	7	1.6%	1.6%	1.6%
	そう思う	161	37.8%	37.8%	39.4%
	あまりそう思わない	202	47.4%	47.4%	86.9%
	そう思わない	50	11.7%	11.7%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

E9 困っている人に声をかけられるか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	積極的にできる	25	5.9%	5.9%	5.9%
	できる	201	47.2%	47.2%	53.1%
	あまりできない	177	41.5%	41.5%	94.6%
	全くできない	17	4.0%	4.0%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

E10 近所の子供を見知っているか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よく知っている	35	8.2%	8.2%	8.2%
	まあまあ知っている	128	30.0%	30.0%	38.3%
	あまり知らない	176	41.3%	41.3%	79.6%
	全く知らない	80	18.8%	18.8%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

E11 未成年者の喫煙を注意するか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	積極的にする	5	1.2%	1.2%	1.2%
	なるべくする	71	16.7%	16.7%	17.8%
	あまりしない	168	39.4%	39.4%	57.3%
	全くしない	176	41.3%	41.3%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

E12 虐待の疑いを通報するか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	積極的にする	76	17.8%	17.8%	17.8%
	なるべくする	236	55.4%	55.4%	73.2%
	あまりしない	87	20.4%	20.4%	93.7%
	全くしない	21	4.9%	4.9%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

F1 防犯ベルの持ち歩き

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いつも持っている	6	1.4%	1.4%	1.4%
	時々持っている	10	2.3%	2.3%	3.8%
	めったに持っていない	11	2.6%	2.6%	6.3%
	持っていない	394	92.5%	92.5%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

F2 携帯電話のロック

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全てにかけている	19	4.5%	4.5%	4.5%
	大体はかけている	34	8.0%	8.0%	12.4%
	あまりかけていない	48	11.3%	11.3%	23.7%
	全くかけていない	213	50.0%	50.0%	73.7%
	ロック機能を知らない	71	16.7%	16.7%	90.4%
	携帯電話を持っていない	31	7.3%	7.3%	97.7%
	無回答	10	2.3%	2.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

F31 音楽を聴きながら歩く

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いつもしている	18	4.2%	4.2%	4.2%
	時々している	56	13.1%	13.1%	17.4%
	めったにしない	52	12.2%	12.2%	29.6%
	全くしない	294	69.0%	69.0%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

F32 歩きながら携帯電話を使用する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いつもしている	15	3.5%	3.5%	3.5%
	時々している	129	30.3%	30.3%	33.8%
	めったにしない	145	34.0%	34.0%	67.8%
	全くしない	129	30.3%	30.3%	98.1%
	無回答	8	1.9%	1.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

F33 車道から離れた所を歩く

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いつもしている	135	31.7%	31.7%	31.7%
	時々している	163	38.3%	38.3%	70.0%
	めったにしない	89	20.9%	20.9%	90.8%
	全くしない	24	5.6%	5.6%	96.5%
	無回答	15	3.5%	3.5%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

F34 バックを道路とは反対側に持つ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いつもしている	124	29.1%	29.1%	29.1%
	時々している	134	31.5%	31.5%	60.6%
	めったにしない	99	23.2%	23.2%	83.8%
	全くしない	61	14.3%	14.3%	98.1%
	無回答	8	1.9%	1.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

F35 バックをナナメがけにする

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いつもしている	137	32.2%	32.2%	32.2%
	時々している	111	26.1%	26.1%	58.2%
	めったにしない	86	20.2%	20.2%	78.4%
	全くしない	86	20.2%	20.2%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

F36 貴重品から目を離さない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いつもしている	251	58.9%	58.9%	58.9%
	時々している	126	29.6%	29.6%	88.5%
	めったにしない	33	7.7%	7.7%	96.2%
	全くしない	10	2.3%	2.3%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

F37 ロが開いたカバンで出かける

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いつもしている	25	5.9%	5.9%	5.9%
	時々している	126	29.6%	29.6%	35.4%
	めったにしない	108	25.4%	25.4%	60.8%
	全くしない	161	37.8%	37.8%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

F38 スポンのうしろポケットに財布

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いつもしている	52	12.2%	12.2%	12.2%
	時々している	34	8.0%	8.0%	20.2%
	めったにしない	37	8.7%	8.7%	28.9%
	全くしない	298	70.0%	70.0%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

F39 個人情報が載ったゴミを出す

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いつもしている	50	11.7%	11.7%	11.7%
	時々している	118	27.7%	27.7%	39.4%
	めったにしない	95	22.3%	22.3%	61.7%
	全くしない	158	37.1%	37.1%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

G1 玄関の補助鍵の設置

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	170	39.9%	39.9%	39.9%
している				
していない	246	57.7%	57.7%	97.7%
無回答	10	2.3%	2.3%	100.0%
合計	426	100.0%	100.0%	

G2 窓の補助鍵の設置

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	114	26.8%	26.8%	26.8%
している				
していない	302	70.9%	70.9%	97.7%
無回答	10	2.3%	2.3%	100.0%
合計	426	100.0%	100.0%	

G3 窓ガラスの強化

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	70	16.4%	16.4%	16.4%
している				
していない	344	80.8%	80.8%	97.2%
無回答	12	2.8%	2.8%	100.0%
合計	426	100.0%	100.0%	

G4 郵便受けに鍵

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	126	29.6%	29.6%	29.6%
している				
していない	288	67.6%	67.6%	97.2%
無回答	12	2.8%	2.8%	100.0%
合計	426	100.0%	100.0%	

G5 長期間留守時、隣家に声掛け

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	141	33.1%	33.1%	33.1%
している				
していない	274	64.3%	64.3%	97.4%
無回答	11	2.6%	2.6%	100.0%
合計	426	100.0%	100.0%	

G6 長期間留守時、新聞や郵便を止める

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	307	72.1%	72.1%	72.1%
している				
していない	109	25.6%	25.6%	97.7%
無回答	10	2.3%	2.3%	100.0%
合計	426	100.0%	100.0%	

G7 セキュリティ会社と契約

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	31	7.3%	7.3%	7.3%
している				
していない	383	89.9%	89.9%	97.2%
無回答	12	2.8%	2.8%	100.0%
合計	426	100.0%	100.0%	

G8 センサーライトの設置

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	96	22.5%	22.5%	22.5%
している				
していない	322	75.6%	75.6%	98.1%
無回答	8	1.9%	1.9%	100.0%
合計	426	100.0%	100.0%	

G9 留守中もラジオをつけておく

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	21	4.9%	4.9%	4.9%
している				
していない	396	93.0%	93.0%	97.9%
無回答	9	2.1%	2.1%	100.0%
合計	426	100.0%	100.0%	

G10 留守中も照明をつけておく

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	141	33.1%	33.1%	33.1%
している				
していない	276	64.8%	64.8%	97.9%
無回答	9	2.1%	2.1%	100.0%
合計	426	100.0%	100.0%	

G11 短時間の外出でも鍵をかける

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	349	81.9%	81.9%	81.9%
している				
していない	69	16.2%	16.2%	98.1%
無回答	8	1.9%	1.9%	100.0%
合計	426	100.0%	100.0%	

H1 1年前と比べた地域の治安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	良くなった	22	5.2%	5.2%	5.2%
	変わらない	306	71.8%	71.8%	77.0%
	悪くなった	37	8.7%	8.7%	85.7%
	分からない	56	13.1%	13.1%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H2 年前と比べた日本の治安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	良くなった	8	1.9%	1.9%	1.9%
	変わらない	109	25.6%	25.6%	27.5%
	悪くなった	263	61.7%	61.7%	89.2%
	分からない	40	9.4%	9.4%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H3 地域の若者に対する不快感

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	36	8.5%	8.5%	8.5%
	たまにある	178	41.8%	41.8%	50.2%
	あまりない	180	42.3%	42.3%	92.5%
	全くない	27	6.3%	6.3%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H41 警察・警察官

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼している	112	26.3%	26.3%	26.3%
	ある程度信頼している	242	56.8%	56.8%	83.1%
	あまり信頼していない	52	12.2%	12.2%	95.3%
	信頼していない	15	3.5%	3.5%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H42 市役所・区役所の防犯対策

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼している	28	6.6%	6.6%	6.6%
	ある程度信頼している	182	42.7%	42.7%	49.3%
	あまり信頼していない	169	39.7%	39.7%	89.0%
	信頼していない	42	9.9%	9.9%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H43 民間の防犯ボランティア

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	信頼している	28	6.6%	6.6%	6.6%
	ある程度信頼している	190	44.6%	44.6%	51.2%
	あまり信頼していない	167	39.2%	39.2%	90.4%
	信頼していない	34	8.0%	8.0%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H51 公正な社会だ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	17	4.0%	4.0%	4.0%
	ややそう思う	160	37.6%	37.6%	41.5%
	あまりそう思わない	181	42.5%	42.5%	84.0%
	そう思わない	57	13.4%	13.4%	97.4%
	無回答	11	2.6%	2.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H52 住みやすい社会だ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	76	17.8%	17.8%	17.8%
	ややそう思う	248	58.2%	58.2%	76.1%
	あまりそう思わない	75	17.6%	17.6%	93.7%
	そう思わない	20	4.7%	4.7%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H53 弱い立場の人に優しい社会だ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	8	1.9%	1.9%	1.9%
	ややそう思う	98	23.0%	23.0%	24.9%
	あまりそう思わない	231	54.2%	54.2%	79.1%
	そう思わない	79	18.5%	18.5%	97.7%
	無回答	10	2.3%	2.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H54 人とのつながりが弱くなっている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	246	57.7%	57.7%	57.7%
	ややそう思う	152	35.7%	35.7%	93.4%
	あまりそう思わない	19	4.5%	4.5%	97.9%
	そう思わない	3	0.7%	0.7%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H55 伝統が伝えられなくなっている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	202	47.4%	47.4%	47.4%
	ややそう思う	189	44.4%	44.4%	91.8%
	あまりそう思わない	25	5.9%	5.9%	97.7%
	そう思わない	4	0.9%	0.9%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H56 道徳が守られなくなっている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	224	52.6%	52.6%	52.6%
	ややそう思う	161	37.8%	37.8%	90.4%
	あまりそう思わない	32	7.5%	7.5%	97.9%
	そう思わない	3	0.7%	0.7%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H57 しつけができない親が増えている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	236	55.4%	55.4%	55.4%
	ややそう思う	156	36.6%	36.6%	92.0%
	あまりそう思わない	28	6.6%	6.6%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H58 大抵の人は信用できる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	31	7.3%	7.3%	7.3%
	ややそう思う	190	44.6%	44.6%	51.9%
	あまりそう思わない	159	37.3%	37.3%	89.2%
	そう思わない	39	9.2%	9.2%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H59 大抵の人は話し合えば理解できる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	30	7.0%	7.0%	7.0%
	ややそう思う	205	48.1%	48.1%	55.2%
	あまりそう思わない	152	35.7%	35.7%	90.8%
	そう思わない	32	7.5%	7.5%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H510 現在の若者はあいさつが出来ない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	84	19.7%	19.7%	19.7%
	ややそう思う	175	41.1%	41.1%	60.8%
	あまりそう思わない	144	33.8%	33.8%	94.6%
	そう思わない	17	4.0%	4.0%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H511 若者は身だしなみがだらしない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	91	21.4%	21.4%	21.4%
	ややそう思う	156	36.6%	36.6%	58.0%
	あまりそう思わない	154	36.2%	36.2%	94.1%
	そう思わない	18	4.2%	4.2%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

H6 重罰化の必要

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要だと思う	196	46.0%	46.0%	46.0%
	やや必要だと思う	176	41.3%	41.3%	87.3%
	あまり必要だと思わない	42	9.9%	9.9%	97.2%
	必要だと思わない	6	1.4%	1.4%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J1 性別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男	162	38.0%	38.0%	38.0%
	女	258	60.6%	60.6%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J2 年齢

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	20歳代	39	9.2%	9.2%	9.2%
	30歳代	77	18.1%	18.1%	27.2%
	40歳代	77	18.1%	18.1%	45.3%
	50歳代	91	21.4%	21.4%	66.7%
	60歳代	134	31.5%	31.5%	98.1%
	無回答	8	1.9%	1.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

平均値 = 50.4歳

J3 婚姻状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	未婚	80	18.8%	18.8%	18.8%
	既婚	321	75.4%	75.4%	94.1%
	離別・死別	20	4.7%	4.7%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J41 ひとり暮らし

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	377	88.5%	88.5%	88.5%
	あてはまる	43	10.1%	10.1%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J42 同居・配偶者

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	113	26.5%	26.5%	26.5%
	あてはまる	307	72.1%	72.1%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J43 同居・親

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	348	81.7%	81.7%	81.7%
	あてはまる	72	16.9%	16.9%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J44 同居・配偶者の親

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	405	95.1%	95.1%	95.1%
	あてはまる	15	3.5%	3.5%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J45 同居・子

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	211	49.5%	49.5%	49.5%
	あてはまる	209	49.1%	49.1%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J46 同居・祖父母

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	416	97.7%	97.7%	97.7%
	あてはまる	4	0.9%	0.9%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J47 同居・孫

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	409	96.0%	96.0%	96.0%
	あてはまる	11	2.6%	2.6%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J48 同居・きょうだい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	396	93.0%	93.0%	93.0%
	あてはまる	24	5.6%	5.6%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J49 同居・その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	409	96.0%	96.0%	96.0%
	あてはまる	11	2.6%	2.6%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J5 同居人数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	43	10.1%	10.1%	10.1%
	2	123	28.9%	28.9%	39.0%
	3	104	24.4%	24.4%	63.4%
	4	95	22.3%	22.3%	85.7%
	5	34	8.0%	8.0%	93.7%
	6	12	2.8%	2.8%	96.5%
	7	6	1.4%	1.4%	97.9%
	8	2	0.5%	0.5%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

平均値 = 4.6人

J6 居住形態

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	一戸建て（持ち家）	201	47.2%	47.2%	47.2%
	一戸建て（借家）	8	1.9%	1.9%	49.1%
	集合住宅（持ち家）	107	25.1%	25.1%	74.2%
	集合住宅（賃貸）	104	24.4%	24.4%	98.6%
	その他	2	0.5%	0.5%	99.1%
	無回答	4	0.9%	0.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J61A 集合住宅・何階建て

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1	0.2%	0.5%	0.5%
	2	26	6.1%	12.3%	12.8%
	3	8	1.9%	3.8%	16.6%
	4	8	1.9%	3.8%	20.4%
	5	66	15.5%	31.3%	51.7%
	6	12	2.8%	5.7%	57.3%
	7	10	2.3%	4.7%	62.1%
	8	4	0.9%	1.9%	64.0%
	9	3	0.7%	1.4%	65.4%
	10	10	2.3%	4.7%	70.1%
	11	4	0.9%	1.9%	72.0%
	12	5	1.2%	2.4%	74.4%
	13	5	1.2%	2.4%	76.8%
	14	24	5.6%	11.4%	88.2%
	15	7	1.6%	3.3%	91.5%
	16	2	0.5%	0.9%	92.4%
	19	3	0.7%	1.4%	93.8%
	20	8	1.9%	3.8%	97.6%
	無回答	5	1.2%	2.4%	100.0%
	合計	211	49.5%	100.0%	
欠損値	非該当	215	50.5%		
合計		426	100.0%		

J61B 集合住宅・住んでいる階

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	28	6.6%	13.3%	13.3%
	2	41	9.6%	19.4%	32.7%
	3	32	7.5%	15.2%	47.9%
	4	24	5.6%	11.4%	59.2%
	5	27	6.3%	12.8%	72.0%
	6	10	2.3%	4.7%	76.8%
	7	8	1.9%	3.8%	80.6%
	8	6	1.4%	2.8%	83.4%
	9	3	0.7%	1.4%	84.8%
	10	8	1.9%	3.8%	88.6%
	11	4	0.9%	1.9%	90.5%
	12	3	0.7%	1.4%	91.9%
	13	4	0.9%	1.9%	93.8%
	14	5	1.2%	2.4%	96.2%
	16	1	0.2%	0.5%	96.7%
	17	1	0.2%	0.5%	97.2%
	18	1	0.2%	0.5%	97.6%
	20	1	0.2%	0.5%	98.1%
	無回答	4	0.9%	1.9%	100.0%
	合計	211	49.5%	100.0%	
欠損値	非該当	215	50.5%		
合計		426	100.0%		

J7 仕事

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	主に仕事	233	54.7%	54.7%	54.7%
	家事などのほか仕事	51	12.0%	12.0%	66.7%
	主に家事	92	21.6%	21.6%	88.3%
	学生	8	1.9%	1.9%	90.1%
	無職	38	8.9%	8.9%	99.1%
	無回答	4	0.9%	0.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J8 帰宅時間

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	18時前	82	19.2%	19.2%	19.2%
	18～20時	119	27.9%	27.9%	47.2%
	20～22時	56	13.1%	13.1%	60.3%
	22時以降	22	5.2%	5.2%	65.5%
	ほとんど家にいる	125	29.3%	29.3%	94.8%
	その他	15	3.5%	3.5%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J9 家に誰もいないこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	193	45.3%	45.3%	45.3%
	ややある	110	25.8%	25.8%	71.1%
	あまりない	107	25.1%	25.1%	96.2%
	全くない	10	2.3%	2.3%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J10 家に女性しかいないこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	216	50.7%	50.7%	50.7%
	たまにある	120	28.2%	28.2%	78.9%
	あまりない	49	11.5%	11.5%	90.4%
	全くない	34	8.0%	8.0%	98.4%
	無回答	7	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J11 家に高齢者しかいないこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	67	15.7%	15.7%	15.7%
	たまにある	38	8.9%	8.9%	24.6%
	あまりない	41	9.6%	9.6%	34.3%
	全くない	267	62.7%	62.7%	96.9%
	無回答	13	3.1%	3.1%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J12 居住年数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	5年未満	88	20.7%	20.7%	20.7%
	5～10年	61	14.3%	14.3%	35.0%
	10～20年	90	21.1%	21.1%	56.1%
	20年以上	184	43.2%	43.2%	99.3%
	無回答	3	0.7%	0.7%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J13 電車に乗る頻度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	週5日以上	103	24.2%	24.2%	24.2%
	週3～4日	27	6.3%	6.3%	30.5%
	週1～2日	84	19.7%	19.7%	50.2%
	全く乗らない	204	47.9%	47.9%	98.1%
	無回答	8	1.9%	1.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J14 最近の健康状態

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	良好	142	33.3%	33.3%	33.3%
	まあ良好	231	54.2%	54.2%	87.6%
	あまりよくない	47	11.0%	11.0%	98.6%
	よくない	2	0.5%	0.5%	99.1%
	無回答	4	0.9%	0.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J151 車を所有

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	361	84.7%	84.7%	84.7%
	あてはまらない	61	14.3%	14.3%	99.1%
	無回答	4	0.9%	0.9%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J152 自転車を所有

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	345	81.0%	81.0%	81.0%
	あてはまらない	76	17.8%	17.8%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J153 PCでのインターネット接続が可能

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	343	80.5%	80.5%	80.5%
	あてはまらない	77	18.1%	18.1%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J154 同居：男性

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	392	92.0%	92.0%	92.0%
	あてはまらない	28	6.6%	6.6%	98.6%
	無回答	6	1.4%	1.4%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J155 同居：高齢者（65歳以上）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	134	31.5%	31.5%	31.5%
	あてはまらない	287	67.4%	67.4%	98.8%
	無回答	5	1.2%	1.2%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J156 同居：小学生以下の子ども

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまる	88	20.7%	20.7%	20.7%
	あてはまらない	324	76.1%	76.1%	96.7%
	無回答	14	3.3%	3.3%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J161 子どもが声を掛けられる不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安	34	8.0%	38.6%	38.6%
	少し不安	43	10.1%	48.9%	87.5%
	あまり不安でない	8	1.9%	9.1%	96.6%
	不安でない	2	0.5%	2.3%	98.9%
	無回答	1	0.2%	1.1%	100.0%
	合計	88	20.7%	100.0%	
欠損値	非該当	338	79.3%		
合計		426	100.0%		

J162 子どもが連れ去られる不安

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	不安	31	7.3%	35.2%	35.2%
	少し不安	45	10.6%	51.1%	86.4%
	あまり不安でない	9	2.1%	10.2%	96.6%
	不安でない	1	0.2%	1.1%	97.7%
	無回答	2	0.5%	2.3%	100.0%
	合計	88	20.7%	100.0%	
欠損値	非該当	338	79.3%		
合計		426	100.0%		

J17 家に子どもしかいないこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よくある	8	1.9%	9.1%	9.1%
	たまにある	23	5.4%	26.1%	35.2%
	あまりない	13	3.1%	14.8%	50.0%
	全くない	43	10.1%	48.9%	98.9%
	無回答	1	0.2%	1.1%	100.0%
	合計	88	20.7%	100.0%	
欠損値	非該当	338	79.3%		
合計		426	100.0%		

J18 子どもの外出時、行先等を聞くか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ほぼ毎回聞く	64	15.0%	72.7%	72.7%
	たまに聞く	3	0.7%	3.4%	76.1%
	全く聞かない	9	2.1%	10.2%	86.4%
	無回答	12	2.8%	13.6%	100.0%
	合計	88	20.7%	100.0%	
欠損値	非該当	338	79.3%		
合計		426	100.0%		

J19 子どもが実際に声を掛けられたこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	29	6.8%	33.0%	33.0%
	ない	51	12.0%	58.0%	90.9%
	無回答	8	1.9%	9.1%	100.0%
	合計	88	20.7%	100.0%	
欠損値	非該当	338	79.3%		
合計		426	100.0%		

J20 居住地域

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	中央区	105	24.6%	24.6%	24.6%
	花見川区	70	16.4%	16.4%	41.1%
	稲毛区	63	14.8%	14.8%	55.9%
	若葉区	71	16.7%	16.7%	72.5%
	緑区	58	13.6%	13.6%	86.2%
	美浜区	57	13.4%	13.4%	99.5%
	無回答	2	0.5%	0.5%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

J21 世帯収入

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	100万円未満	12	2.8%	2.8%	2.8%
	100～300万円	50	11.7%	11.7%	14.6%
	300～500万円	120	28.2%	28.2%	42.7%
	500～700万円	90	21.1%	21.1%	63.8%
	700～1000万円	78	18.3%	18.3%	82.2%
	1000万円以上	65	15.3%	15.3%	97.4%
	無回答	11	2.6%	2.6%	100.0%
	合計	426	100.0%	100.0%	

調 査 票

千葉市民の安全・安心に関するアンケート

淑徳大学総合福祉学部人間社会学科では、日頃より授業の一環として地域の社会問題に対し、調査活動を行っております。本調査は、千葉市民の安全・安心に対するお考えをおうかがいするものです。

つきましては大変ご多忙のところ誠に恐縮でございますが、アンケート調査へご協力をお願い申し上げます。なお、本調査に回答をしていただく方々は、千葉市在住の 20 代～60 代の男女から無作為（ランダム）に選ばせていただきました。

本調査で得られたデータは、上記の目的以外で使用されることはありません。調査の結果は数値化され、統計的に処理されます。無記名のため、個人が特定されるということはありません。以上の趣旨をご理解いただき何卒この調査に重ねてご協力くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

《ご記入にあたってのご注意》

- ・回答には、「○」をつけていただくものと、直接（ ）の中にご記入いただくものがあります。
- ・質問の中にはあなたの感じ方についてお尋ねするものもありますので、回答に迷う場合はできるだけ近いものを選んでください。

※ご回答していただいたアンケートは、平成 22 年 9 月 30 日（木）までに、同封の返信用封筒でご返送ください。

《お問い合わせ先》

このアンケート調査についてご不明な点や、ご質問がございましたら下記までお問い合わせください。

調査責任者

淑徳大学教授 梶渥 俊子
淑徳大学准教授 山本 功

社会調査助手 本多 敏明
教育助手補 佐藤 麻衣

淑徳大学 総合福祉学部 人間社会学科 3 年

相曾 紗良亜 稲阪 薫 江口 芙美 加納 寛之 齋藤 優季
佐野 綾香 塚田 愛美 豊島 佳枝 西之宮 彩加 松本 節子
簾 由佳

連絡先：千葉市中央区大蔵寺町 200 番地

淑徳大学総合福祉学部人間社会学科

電話番号：043-265-7331（内線 559）

E-mail：fieldwrk@soc.shukutoku.ac.jp

A 1 あなたは、日頃、ご自身が犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じることがありますか。

- 1.よくある 2.たまにある 3.ほとんどない 4.全くない

A 2 あなたは、日頃、同居の家族が犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じることがありますか。

- 1.よくある 2.たまにある 3.ほとんどない 4.全くない
5.同居家族はいない

A 3 あなたは夜 11 時を過ぎてから、住んでいる地域を 1 人で歩いているとき、犯罪にあう不安をどの程度感じていますか。

- 1.非常に不安を感じる 2.ある程度不安を感じる 3.あまり不安を感じない
4.全く不安を感じない 5.出歩かないからわからない

A 4 あなたは、日頃、犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じていますか。以下の 1)～12)の犯罪それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	不安 である	少し不安 である	あまり 不安では ない	不安では ない
1) 悪質商法にあう不安	1	2	3	4
2) 暴行などの暴力的な犯罪にあう不安	1	2	3	4
3) 恐喝にあう不安	1	2	3	4
4) 痴漢にあう不安	1	2	3	4
5) 空き巣に入られる不安	1	2	3	4
6) 通り魔にあう不安	1	2	3	4
7) ひったくりにあう不安	1	2	3	4
8) ストーカーにあう不安	1	2	3	4
9) 架空請求にあう不安	1	2	3	4
10) 放火にあう不安	1	2	3	4
11) 振り込め詐欺にあう不安	1	2	3	4
12) 自宅などに落書きされたりする不安	1	2	3	4

A 5 過去3年くらいの間に、あなたの友人・知人が何らかの犯罪にあったことはありますか。

- 1. はい
- 2. いいえ

A 6 過去3年くらいの間にあなた、あるいは、あなたの同居家族が被害にあったり、あいさうになったことのある犯罪はありますか。

以下の1)～14)の犯罪について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。
それ以外にある場合は、「15.その他」の〔 〕にお書きください。

- | | | | |
|----------------|-----------|------------|-------------|
| 1. 悪質商法 | 2. 暴行 | 3. 恐喝 | 4. 痴漢 |
| 5. 空き巣 | 6. 通り魔 | 7. ひったくり | 8. ストーカー |
| 9. 架空請求 | 10. 放火 | 11. 振り込め詐欺 | 12. 自宅への落書き |
| 13. 自転車の盗難 | 14. 車上荒らし | 15. その他〔 | 〕 |
| 16. どれも当てはまらない | | | |

A 7 次のうちで、過去3年くらいの間に、あなたの住んでいる地域(徒歩15分くらいの範囲)で、以下の1)～14)の犯罪がおきたと聞いたり、見たりした事はありますか。

ご自身の被害経験以外で、あてはまる番号すべてに○をつけてください。
それ以外にある場合は、「15.その他」の〔 〕にお書きください。

- | | | | |
|----------------|-----------|------------|-------------|
| 1. 悪質商法 | 2. 暴行 | 3. 恐喝 | 4. 痴漢 |
| 5. 空き巣 | 6. 通り魔 | 7. ひったくり | 8. ストーカー |
| 9. 架空請求 | 10. 放火 | 11. 振り込め詐欺 | 12. 自宅への落書き |
| 13. 自転車の盗難 | 14. 車上荒らし | 15. その他〔 | 〕 |
| 16. どれも当てはまらない | | | |

B あなたの住んでいる地域(徒歩 15 分くらいの範囲)の環境についてお聞きします。

以下の 1) ～8) のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	たくさん ある	少しある	あまり ない	まったく ない
1) 街灯の少ない道がある	1	2	3	4
2) 人通りの少ない道がある	1	2	3	4
3) 普段からゴミが散乱している場所がある	1	2	3	4
4) 粗大ゴミが放置されている場所がある	1	2	3	4
5) 人が潜んでいてもわからない場所がある	1	2	3	4
6) 壁に落書きがされている場所がある	1	2	3	4
7) タバコの吸殻が落ちている	1	2	3	4
8) 乗り捨てられた自転車がある	1	2	3	4

C 1 あなたの自宅周辺(徒歩 10 分くらいの範囲内)に以下の 1 ～ 6 の施設や建物はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|----------|----------------|-------------|
| 1. 交番 | 2. カラオケ店 | 3. パチンコ店 |
| 4. 居酒屋 | 5. 漫画喫茶・ネットカフェ | 6. 見通しの悪い公園 |
| 7. すべてない | | |

C 2 あなたの自宅周辺(徒歩 10 分くらいの範囲内)で以下の 1) ～9) のような人や状況を見たり聞いたりすることがありますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	よく ある	たまに ある	あまり ない	まったく ない
1) 入れ墨やタトゥーを入れている人を見かける	1	2	3	4
2) 暴力団と付き合いのある人を見かける	1	2	3	4
3) 歩きタバコをしている人を見かける	1	2	3	4
4) 道ばたにたむろしている若者を見かける	1	2	3	4
5) コンビニエンスストアにたむろしている若者を見かける	1	2	3	4
6) 夜に騒ぎ声がする	1	2	3	4
7) 夜に若者が集まっている	1	2	3	4
8) バイクを乗り回している	1	2	3	4
9) 酔っ払いがいる	1	2	3	4

D 1 あなたの住んでいる地域では、青色回転灯装着自動車（通称：青パト）によるパトロール活動を見かけることがありますか。

- 1.よく見る 2.たまに見る 3.あまり見ない 4.全く見ない

D 2 あなたは、地域の防犯パトロールなど（PTA 等の活動も含む）に参加していますか。

- 1.参加している 2.たまに参加する 3.あまり参加しない 4.全く参加しない

D 3 犯罪を減らすためには、公共の場所に防犯カメラを設置する必要があると思いますか。

- 1.必要だと思う 2.やや必要だと思う
3.あまり必要だと思わない 4.全く必要だと思わない

D 4 あなたの家の近くに「子ども 110 番」を実施している場所がありますか。

- 1.たくさんある 2.ややある 3.あまりない 4.全くない

D 5 以下の 1～5 の千葉市条例で、あなたが知っているものすべてに○をつけてください。

1. 千葉市落書きの防止に関する条例 2. 千葉市路上喫煙等の防止に関する条例
3. 空地に係る雑草の除去に関する条例 4. 千葉市自転車等の放置防止に関する条例
5. 千葉市空き缶等の散乱の防止に関する条例
6. どれも知らない

D 6 以下の千葉市の条例は安全・安心な社会の実現に役立つかと思いますか。1)～5)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	とても 役に立つ	やや 役に立つ	あまり 役に 立たない	全く役に 立たない
1) 千葉市落書きの防止に関する条例 (他人の建造物等に落書きをしないこと)	1	2	3	4
2) 千葉市路上喫煙等の防止に関する条例 (屋外の公共の場所では喫煙をしないこと)	1	2	3	4
3) 千葉市空地に係る雑草の除去に関する条例 (空き地の雑草等で周囲に迷惑をかけないこと)	1	2	3	4
4) 千葉市自転車等の放置防止に関する条例 (自転車の放置等をしないこと)	1	2	3	4
5) 千葉市空き缶等の散乱の防止に関する条例 (空き缶や煙草の吸殻等をポイ捨てしないこと)	1	2	3	4

E 1 あなたの家庭は、自治会・町内会に加入していますか。

1. 加入している 2. 加入していない

E 2 あなた、または同居の家族は、地域の住民団体（ボランティア、スポーツクラブ、趣味の団体等）に所属していますか。

1. 所属している 2. 所属していない

E 3 あなた、または同居の家族は、隣近所の人が亡くなった時、お葬式に参列することがありますか。

1. ほとんど参列する 2. たいてい参列する 3. ほとんど参列しない 4. しない

E 4 あなたの家には、回覧板が回ってきますか。

1. はい 2. いいえ

E 5 あなたは、地域に、普段顔を合わせた時、挨拶をする人がいますか。

- 1.たくさんいる 2.少しいる 3.あまりいない 4.全くいない

E 6 あなたが困っているとき、地域に助けてくれる人はいますか。

- 1.たくさんいる 2.少しいる 3.あまりいない 4.全くいない

E 7 あなたの隣近所に住む人たちは、お互いに交流しているほうだと思いますか。

- 1.よくしていると思う 2.少しはしていると思う
3.あまりしていないように思う 4.ほとんどしていないように思う

E 8 もし、近所で何か問題が起きた場合、住民や自治会などで解決ができると思いますか。

- 1.とてもそう思う 2.そう思う 3.あまりそう思わない 4.そう思わない

E 9 もし近所で困っている人がいたら、たとえあまり話したことがない人でも声をかけることができますか。

- 1.積極的にできる 2.できる 3.あまりできない 4.全くできない

E 10 あなたは、隣近所に住んでいる小学生以下の子どもを見知っていますか。

- 1.よく知っている 2.まあまあ知っている
3.あまり知らない 4.全く知らない

E 11 あなたは、隣近所の未成年者がたばこを吸っているのを見かけたら、注意しますか。

- 1.積極的にする 2.なるべくする 3.あまりしない 4.全くしない

E 12 あなたは隣近所で虐待を受けている疑いがあると思われる子どもを見かけたら、警察などに通報しますか。

- 1.積極的にする 2.なるべくする 3.あまりしない 4.全くしない

F 1 あなたはふだん、出歩くとき、防犯ベル（ブザー）を持ち歩いていますか。

- | | |
|------------|-----------|
| 1.いつも持っている | 2.時々持っている |
| 3.めったに持たない | 4.持っていない |

F 2 あなたは現在、自分の携帯電話の個人情報（電話帳、メール、写真、画像など）に鍵（^{かぎ}ロック）をしていますか。

- 1.全てにかけている（待ち受け画面でのロックも含む）
- 2.大体はかけている
- 3.あまりかけていない
- 4.全くかけていない
- 5.ロック機能を知らない
- 6.携帯電話を持っていない

F 3 あなたはふだん、以下の行為（^{こうい}こうい）をどれくらいしていますか。1)～9)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	いつも している	時々 している	めったに しない	全く しない
1) 音楽を聴きながら歩く	1	2	3	4
2) 歩きながら携帯電話を使用する	1	2	3	4
3) 車道からできるだけ離れた所を歩くようにしている	1	2	3	4
4) バックなどは道路の反対側に持つようにしている	1	2	3	4
5) バックなどはナナメがけ（タスキがけ）にする	1	2	3	4
6) 貴重品から目を離さないようにしている	1	2	3	4
7) 口が開きっぱなしのカバン（トートバックなど）で出かける	1	2	3	4
8) ズボンなどのうしろポケットに財布を入れる	1	2	3	4
9) 自分宛の郵便物を個人情報（名前や住所）が載ったままゴミに出す	1	2	3	4

G あなたの家は、以下の防犯対策を行っていますか。1) ～11) のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	はい	いいえ
1) 玄関に補助鍵を設置（ダミーも含め）	1	2
2) 窓の補助鍵を設置	1	2
3) 窓ガラスの強化（強化ガラス・防犯フィルム）	1	2
4) 郵便受けに鍵をかける	1	2
5) 長期間留守にする時、隣家に声をかけていく	1	2
6) 長期間留守にする時、新聞などがたまらないようにしておく	1	2
7) セキュリティ会社との契約	1	2
8) センサーライト（人に反応して点くライト）の設置	1	2
9) 留守中にラジオをつけたままにしておく	1	2
10) 留守中に照明をつけたままにしておく	1	2
11) 短時間の外出でも玄関や窓の鍵をかける	1	2

H 1 あなたが今お住まいの地域は 1 年前と比べて治安が良くなったと思いますか、悪くなったと思いますか。

1.良くなった 2.変わらない 3.悪くなった 4.分からない

H 2 日本は 1 年前と比べて治安が良くなったと思いますか、悪くなったと思いますか。

1.良くなった 2.変わらない 3.悪くなった 4.分からない

H 3 あなたの住む地域で若者に対し、不快な感情を持ったことはありますか。

1.よくある 2.たまにある 3.あまりない 4.まったくない

H 4 あなたは以下の機関や人を信頼していますか。1)～3)のそれぞれについて、
あてはまる番号に○をつけて下さい。

	信 頼 し て い る	あ る 程 度 信 頼 し て い る	あ まり 信 頼 し て い な い	信 頼 し て い な い
1) 警 察 ・ 警 察 官	1	2	3	4
2) 市 役 所 ・ 区 役 所 の 防 犯 対 策	1	2	3	4
3) 民 間 の 防 犯 ボ ラ ン テ ィ ア	1	2	3	4

H 5 今の社会全体について、以下の1)～11)の項目のそれぞれについてあなたの
考えにあてはまる番号に○をつけてください。

	そ う 思 う	や や そ う 思 う	あ まり そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い
1) 日本は公正な社会だと思う	1	2	3	4
2) 日本は住みやすい社会だと思う	1	2	3	4
3) 日本は社会的に弱い立場の人に優しい社会だと思う	1	2	3	4
4) 人と人とのつながりが弱くなってきていると思う	1	2	3	4
5) 伝統がきちんと伝えられなくなってきていると思う	1	2	3	4
6) 公共マナー（道徳）が守られなくなってきている と思う	1	2	3	4
7) 子どものしつけができない親が多くなってきている と思う	1	2	3	4
8) たいていの人は信用できると思う	1	2	3	4
9) たいていの人は話し合えば理解できると思う	1	2	3	4
10) 現在の若者はあいさつが出来ないと思う	1	2	3	4
11) 現在の若者は身だしなみがだらしないと思う	1	2	3	4

H 6 あなたは犯罪に対し、現在よりも刑を重くすることは必要だと思いますか。

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 必要だと思う | 2. やや必要だと思う |
| 3. あまり必要だと思わない | 4. 必要だと思わない |

J 1 あなたの性別を教えてください。

1. 男 2. 女

J 2 あなたの年齢を教えてください。数字をお書きください。

満 () 歳

J 3 あなたは結婚をしていますか。

1. 未婚 2. 既婚 3. 離別・死別

J 4 次の1～9で現在一緒に住んでいる方について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|-----------------|---------------|---------------------------------|
| 1. 1人暮らし | 2. 配偶者(パートナー) | 3. あなたの親 |
| 4. 配偶者(パートナー)の親 | 5. あなたの子ども | 6. あなたの祖父母 |
| 7. あなたの孫 | 8. あなたの兄弟・姉妹 | 9. その他 () |

J 5 現在一緒に住んでいる方は、あなたを含め全員で何人ですか。数字をお書きください。

単身赴任等の場合は除いてください。1人暮らしの方は「1」とお書きください。

あなたを含めて () 人

J 6 あなたの現在のお住まいについて、あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| 1. 一戸建て(持ち家) | 2. 一戸建て(借家) |
| 3. 集合住宅(持ち家) | 4. 集合住宅(賃貸) |
| 5. その他 () | |

J 6-1 お住まいが集合住宅と回答した方にお聞きします。あなたは何階建ての建物の何階にお住まいですか。数字をお書きください。複数階に住んでいる方は玄関のある階をお書きください。

() 階建ての () 階に住んでいる。

J 7 今年4月1日以降のあなたのお仕事についてあてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1. 主に仕事（パート、アルバイト含む） | 2. 家事などのほか仕事 |
| 3. 主に家事 | 4. 学生 |
| 5. 無職 | |

J 8 あなたは普段、家に何時頃帰宅していますか。

- | | | |
|----------|-------------|-------------|
| 1. 18時前 | 2. 18時～20時前 | 3. 20時～22時前 |
| 4. 22時以降 | 5. ほとんど家にいる | 6. その他（ ） |

J 9 あなたのお住まいで、誰もいなくなることがありますか。

- | | | | |
|-------|---------|----------|---------|
| 1. ある | 2. ややある | 3. あまりない | 4. 全くない |
|-------|---------|----------|---------|

J 10 家に女性しかいないことがありますか。

- | | | | |
|---------|----------|----------|---------|
| 1. よくある | 2. たまにある | 3. あまりない | 4. 全くない |
|---------|----------|----------|---------|

J 11 家に高齢者しかいないことがありますか。

- | | | | |
|---------|----------|----------|---------|
| 1. よくある | 2. たまにある | 3. あまりない | 4. 全くない |
|---------|----------|----------|---------|

J 12 あなたは何年くらい現在の地域にお住まいですか。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 5年未満 | 2. 5年以上10年未満 |
| 3. 10年以上20年未満 | 4. 20年以上 |

J 13 あなたは普段、どのくらい電車に乗りますか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 週5日以上 | 2. 週3～4日 |
| 3. 週1～2日 | 4. 全く乗らない |

J 14 あなたの最近の健康状態についてお教えてください。

- | | |
|------------|---------|
| 1. 良好 | 2. まあ良好 |
| 3. あまりよくない | 4. よくない |

J 15 あなたやご家族についてお聞きします。1) ～6) のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	はい	いいえ
1) あなたのお住まいには車がある	1	2
2) あなたのお住まいには自転車がある	1	2
3) インターネットにつながっているパソコンを持っている	1	2
4) お住まいに男性がいる（ご自身も含めてお答えください）	1	2
5) お住まいに 6 5 歳以上の人がいる	1	2
6) お住まいに小学生以下の子ども（孫も含む）がいる	1（J 16 へ）	2（J 20 へ）

J 16 J 15-6)で「1. はい」と答えた方にお尋ねします。

J 16 あなたは、日頃、同居している小学生以下の子ども（孫も含む）が犯罪の被害にあう不安を感じていますか。

J16-1 小学生以下の子どもが見知らぬ人に声をかけられる不安

1. 不安である 2. 少し不安である 3. あまり不安ではない 4. 不安ではない

J16-2 小学生以下の子どもが見知らぬ人に連れ去られそうになる不安

1. 不安である 2. 少し不安である 3. あまり不安ではない 4. 不安ではない

J 17 家に小学生以下の子どもだけになることがありますか。

1. よくある 2. たまにある 3. あまりない 4. 全くない

J 18 小学生以下の子どもが外出する際、行き先や帰宅時刻を聞いていますか。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. ほぼ毎回聞いている | 2. たまに聞いている |
| 3. あまり聞かない | 4. 全く聞かない |

J 19 小学生以下の子どもが見知らぬ人に声をかけられたことはありますか。

1. はい 2. いいえ

J 20 あなたが現在住んでいる区について、あてはまる番号に○をつけてください。

1 . 中央区

2 . 花見川区

3 . 稲毛区

4 . 若葉区

5 . 緑区

6 . 美浜区

J 21 去年 1 年間のあなたの世帯の収入は、次のどれに近いですか。家族全員の収入を含めて、あてはまる番号に○をつけてください。

1 . 100 万円未満

2 . 100 万円以上 300 万円未満

3 . 300 万円以上 500 万円未満

4 . 500 万円以上 700 万円未満

5 . 700 万円以上 1000 万円未満

6 . 1000 万円以上

ご協力ありがとうございました

平成 22 年度 フィールドワーク調査報告書 第 8 号

発 行：2011 年 3 月 31 日

発行者：淑徳大学総合福祉学部人間社会学科

〒260-8701

千葉市中央区大巖寺町 200

TEL 043-265-7331

印 刷：株式会社 正文社